川柳塔

令和元年十二月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一一一一号

日川協加盟

No.1111

十二月号

第八回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第八回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題2句　共選）

課題吟

「窓」　みぎわ　はな（ふあうすと川柳社）
森山盛桜（川柳塔社）

「許す」　梅崎流青（川柳葦群）
安土理恵（川柳塔社）

自由吟

片岡加代（番傘川柳本社）
小島蘭幸（川柳塔社）

投句要領　規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料　一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切　**令和二年二月二十日（木）消印有効**

送付先　〒543－0052
大阪市天王寺区大道一－一四－一七－二〇一
川柳塔社　誌上大会係　宛
TEL／FAX（〇六）六七七九－三四九〇

賞及び発表　各題特選に賞呈　発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

2020年（令和2年）本社句会　開催日程表

会場：ホテルアウィーナ大阪

開催日	時間	会場
1月7日（火）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
2月6日（木）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
3月5日（木）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
4月7日（火）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
5月7日（木）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
6月8日（月）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
7月7日（火）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
8月3日（月）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
9月7日（月）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
10月3日（土） 第26回 川柳塔まつり	同人総会　10:00～11:00	生駒　3F
	句会　11:00～17:00	金剛（中西）　4F
	懇親宴　17:00～20:00	葛城（全）　3F
11月6日（金）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F
12月7日（月）	13:00～17:00	金剛の間（東）　4F

一字の重さと省略の妙

小島蘭幸

朝日ひろしま柳壇の選者をお引き受けして今年で七年目になります。先日、課題「祭り」の掲載紙が届いて私は思わずアッと大きな声を出していました。しっかりと校正したつもりでしたが、最優秀作品の肝心な一字が抜けていたのです。

軽トラに載せぬふる里の神輿

これでは作者のふる里の祭りへの熱い思いが伝わってこないのです。私はすぐ作者に電話して校正ミスのお詫びをしたのですが、申し訳ない気持ちは今でも続いています。

軽トラには載せぬふる里の神輿　笹重　耕三

朝日ひろしま柳壇と同じ時期に、NHKひるまえ川柳でも「祭り」の選をしたのですが、神輿を軽トラに乗せるといった句がとても多かったのです。耕三氏の作品は、かって自分も担いだことのあるふる里の神輿を、軽トラには絶対に乗せて欲しくないという熱い思いがひしひしと伝わってきます。それは軽トラにはの「は」の一字の重さにあります。

私はこの度の校正ミスで、一字の大切さを再確認することが出来ました。

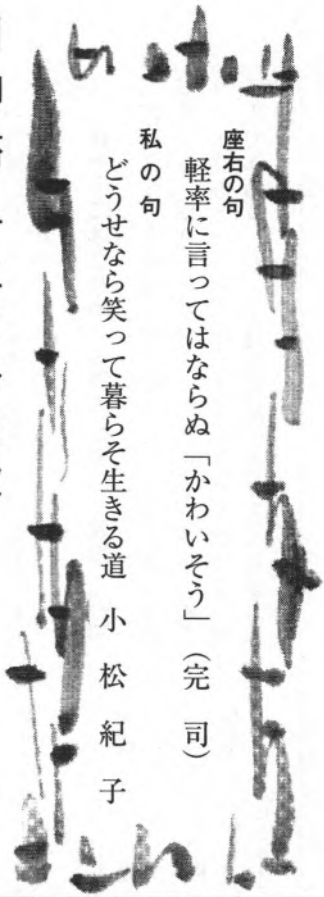
NHKひるまえ川柳の選者をお引き受けして今年で五年になります。先日、お題「映画」の生放送に出演したのですが、放送後の反響が今までで一番良かったように思います。入選句もそうですが、私とコンビを組む杉浦アナのコメントが素晴らしかったのです。

黒澤に震えた恵介に泣いた　坪井　新

「短詩型文芸川柳、この句の省略は見事です。黒澤明監督を黒澤、木下恵介監督を恵介もさることながら「震えた」「泣いた」で「羅生門」「七人の侍」「二十四の瞳」の映画のタイトルが次々と浮かんできました」

「震えた泣いたで二大巨匠の作風の違いが見事に表現されていますよね」特選句と私と杉浦アナのコメントです。

ひるまえ川柳は、川柳塔社同人の皆さまの作品も数多く入線しています。一月句会のお話の中で紹介させていただきます。



座右の句

軽率に言ってはならぬ「かわいそう」（完　司）

私の句

どうせなら笑って暮らそ生きる道　小松紀子

川柳塔　十二月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「越前大野」

■巻頭言　一字の重さと省略の妙……小島蘭幸…(1)
堺と川柳……村上玄也…(2)
川柳塔（同人吟）……小島蘭幸選…(4)
自選集……(40)
川柳塔の川柳讃歌 ⑱……木津川計…(43)
水煙抄……川上大輪選…(44)
温故知新……(61)
橘高薫風句抄……(62)
英語 de Senryu ⑯……吉村侑久代…(63)
誹風柳多留一二篇研究 78……(64)
■特別寄稿（麻生路郎と澤田四郎作）……磯部敦…(66)
愛染帖……新家完司選…(68)
檸檬抄「しみじみ」……水野黒兎・鴨谷瑠美子共選…(72)

堺と川柳

村上玄也

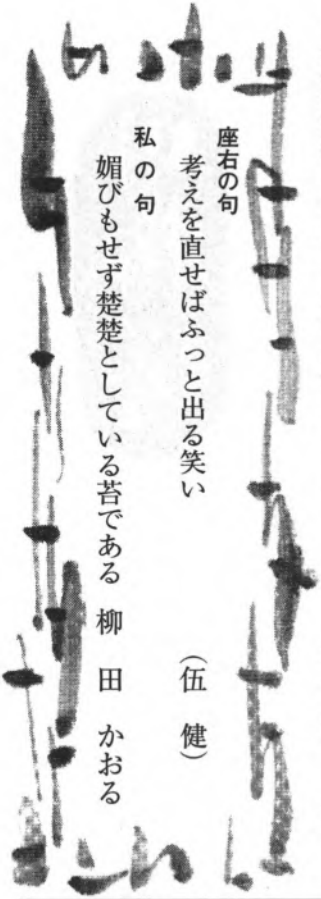
堺川柳会（現川柳塔さかい）の創設者八木摩天楼はその著書『川柳散歩道』で、川柳の前身ともいうべき前句付けは堺から発生したと述べているが、それかあらぬか堺にゆかりのある川柳作家は数多い。（参考資料：川柳の群像・川柳総合大事典・道頓堀の雨に別れて以来なり・川柳散歩他）

先ず摩天楼が堺市役所に勤めていた頃、麻生路郎も堺市民病院の事務長として勤務、市の仕事の関係で知り合って堺に川柳を広めることとなった。その路郎夫人葭乃は堺の名家の一統河盛家の生まれ。曽祖父は「堺市史」にも載っている程の人物。父に連れられて出た句会で路郎と出会い路郎に望まれて結婚したという。

番傘関係では食満南北、堺の酒造家の生まれで劇作家であったが、劇作の傍ら川柳を始め番傘に参加、水府を大いに喜ばせたと記述にある。

その岸本水府は堺の生まれでも堺に住

一路集（「支える」……奥澤洋次郎選…(76)
「返　事」……古久保和子選…(77)
初歩教室「センター」……居谷真理子…(78)
川柳塔鑑賞……川端一歩…(80)
水煙抄鑑賞……矢倉五月…(82)
■追悼文（前たもつさん）……西出楓楽…(83)
『麻生路郎読本』余滴(55)……桒原道夫…(84)
せんりゅう飛行船(108)……新家完司…(86)
第34回国民文化祭・にいがた結果発表……(87)
インスピレーション・ナビ　印象吟……大西泰世…(88)
十一月本社句会……(90)
句会燦燦……板垣孝志…(94)
各地柳壇（佳句地十選／鈴木いさお・大内朝子）……(95)
十二月各地句会案内……(108)
柳界展望……(110)
■編集後記（ひとこと／坂本加代）……朱夏・勝弘…(112)



座右の句

考えを直せばふっと出る笑い　（伍　健）

私の句

媚びもせず楚楚としている苔である　柳　田　かおる

んだこともなかったが、福助足袋（現福助）の広告マンをしていた。福助の本社は現在東京にあるが創業の地は堺市で当時本社は堺市にあった。

榎本聰夢は行政監察官として全国各地に赴き、堺での勤務の頃堺番傘の句会に出て顧問も務めた。

他にも後に津山番傘を創設した小島祝平は、堺で餅・饅頭店の経営に携わっていた。また河野春三は堺中学出身で福助足袋や堺市役所に勤め、堺川柳会を立ち上げた一人でもある。同じ時代の鹿の子も堺市生まれで医師、堺市議そして堺番傘会長を務めた。

更に年代を少し遡るが、西田當百は堺生まれではないものの二十六歳の時、堺市の染め物商西田家の養子となり、新聞校正の仕事で川柳に出合い川柳を始めたという。このように堺は多くの著名な川柳作家を輩出している。

いま堺には川柳塔さかいの他堺番傘川柳会、泉北スバル川柳会があり、毎年秋には三句会合同で堺市民川柳大会を催すなど川柳は盛んである。

川柳塔

小島蘭幸選

ラグビー観戦ビール飲み飲みテレビ席　札幌市　三浦強一

大自然の機嫌損ねたのはヒト科
団塊の仮面が野積みされている
長寿化へ加える末期高齢者
とてもハードな天国行きのスケジュール
趣味に没頭出来る幸せありがとう　鳥取市　両川無限

理想とは違った消去法の罠
煙突が取り残されたまま令和
鍋の底磨き終えたら旅に出る
合掌を解くと海が凪いでいた
キューポラの街もサユリストも老いた
いくつもの疼きを抱いている拳　奈良県　渡辺富子

みちのくへリュックを背負う老い二人
赤茶けたハートへ夢の多色刷り
おぼろ月想い出話まだ続く

手付かずの明日がにっこり立っている
トンネルを抜けたらそこは花浄土
ウォーキング今日の歩幅のわらべ歌　岸和田市　岩佐ダン吉

呻吟の彬が耐えたのがこの地
ジグザグを歩んで隙が見当たらぬ
負けましたでもこの汗は実となろう
納得はしない私がひとりでも
淋しさの果ての冗談なんだろう
もう言うな両手を添えて諭される　大阪市　栃尾奏子

抱きしめてくれたら許せそうだけど
人肌は何て残酷なんだろう
サイダーの反乱ワタクシの本音
万能であって欲しいなチチンプイ
絆創膏剥がせば癒えてますように
踏み外しませんよ母で妻だもの

尼崎市　山田耕治

リコーダー吹いて田中の道帰る
仏様暑くてお花もちません
ばあさんとコイビトツナギでもするか
覚えているよ君のトンボの絵の浴衣
デパートの食堂父さんと行った
捨てられぬ母の一生見た鏡

米子市　竹村紀の治

乗り越えてみれば癌さえ懐かしい
日本を一つにさせるワントライ
居酒屋の次は内科でお会いする
どん底を見て来た友が飲みにくる
脳天へぎっくり腰のストレート
胃袋が吠える激辛担担麺

河内長野市　山岡冨美子

引き算の形に老いる物忘れ
ラグビーの肉弾戦が美しい
スケジュール入れて手帳を弾ませる
児等の声聞こえぬ村の大落暉
御神楽の笛が響いて柿熟れる
地球儀を軽く一周マウス繰る

大阪市　平井美智子

生き方は自由　フルーツ盛り合わせ
私に絡みついてるソース味
負けた日の夕日が海に沈めない
あなたにも眠れぬ夜がありますか
私はここにいますと吠えている
萩桔梗すすきナデシコ秋の恋

富田林市　中村恵

神様のおいでおいでをする方へ
産声は明日の光に違いない
巡る季に右往左往をくり返す
昨日今日沈む夕陽は秋である
黒電話昔のわたし呼んで鳴る
指切りの指を信じたことはない

箕面市　中山春代

清水へ赤い矢印路地のカフェ
小さい秋金平糖に甘いつの
コーラスの恥ずかしそうな胸のバラ
LLがぴったり秋の天高し
おもてなし敬老会がこそばゆい
柔らかいコスモスの風母が来る

堺市　内藤憲彦

フォーパットからかいに来る赤トンボ
パワハラセクハラ後の祭にしちゃならぬ
珈琲が沸く仲直りのタイミング
358 10小刻みにくる消費税
死にそうと言って2次会3次会
人のエゴ異常気象を尖らせる

松原市　森松　まつお

旬の物旬に食べたい妻の主義
グルメ番組見ながらするカップメン
関電に越後屋さんも出入りする
爪痕の残る街へとまた台風
ラグビーとノーベル賞のいいニュース
ノーベル賞その笑顔には平和賞

松江市　松本　知恵子

ほっこりとしたく古風な友と会う
ひと言の労りで道まだ続く
突然の猫の家出に風邪を引く
七回忌夫の分身孫集う
面影が薄れていない七回忌
能登の地図拡げて夫の影を追う

鈴鹿市　小河　柳女

今日もまた畳の下の海鳴りや
難病になる神様はいないと知る
昨日より一ミリ深く病魔入る
火の鳥は探す消え去った縁
阿呆な人生笑いとばして生きる
とろり眠る多分あしたも生きるだろう

鳥取市　倉益　一瑤

わたくしのドラマ続編あるらしい
ちちははを追う夢を見た二重虹
病窓の夕日に拉致をされそうだ
わたくしのB面にある花畑
小説にしたい私の泣き所
自画像をショートカットにして老いず

弘前市　稲見　則彦

一年はアッという間の砂時計
小遣が減らされ税に回される
カノン聴く外は氷雨が降りだした
断捨離をする気も失せる雪しきり
溜息の中にわたしの誕生日
オリンピックテレビは古いままである

西予市　黒田　茂代

白い風つかまえたくて野を駆ける
木の葉一枚蝶になる蝉になる
おいしい匂いも甘い匂いも持つ落葉
木の葉降る人に訣れがあるように
沈黙を破り石榴の大笑い
石鎚に初雪わが家にも火燵

土佐清水市　辻内　次根

あほなこと時々やって笑えない
雨の日は雨の記憶が甦る
旅の当てないけど時刻表を買う
守りからもう見られない夢の色
サヨナラの記憶サイダー飲んでいる
水道の秋の匂いを嗅いだ朝

札幌市　小沢　淳

開拓で呼び観光で呼ぶ北の島
微笑んでおこうトラブル避けている
日の丸も国歌もいいがスポーツで
自由願望香港が燃えている
川柳は文学なりと聖子節

男鹿市　伊藤　のぶよし

枯れ葉掃く恋の終わりにさも似たり
生き下手を晒して見せる靴の底
座り方先ずは座禅の胡座から
満天の星が逃さぬ逃避行
結局は鞘に収まる夫婦仲

塩竈市　木田　比呂朗

キッチンもついに師走の顔になり
ああチラシ招待状のように来る
予定表減った誘いのマル印
一年の愚痴を浮かべている湯船
ガラケーは仲間外れのキャッシュレス

弘前市　今　愁女

あの暑さ恋しくもなる朝寒よ
自然災害に日本中が緊張す
家族葬身内の心通じ合う
新天皇寿ぐ令和の佳き日なり
核持つな核持つ国が宥めても

さいたま市　星野　育子

スマホ手に親近感の化学賞
昭和と令和の中流家庭の差
朝晩は邪魔になってる扇風機
歴史を語るにはタラレバは不要
川柳の奥深さには底が無い

上尾市　中村　伸子

グルメではないが美味しいものが好き
紅だけをつけて一日過ぎていく
散歩道虫の音がもう聞こえない
元気そう言われた医院待合室
お料理を夫にまかせている痛み

朝霞市　前田　洋子

台風へ携帯ラジオ電池よし
人間の力を台風が笑う
停電へオール電化は赤ん坊
同級生出世頭は予想外
我々は十六歳に叱咤され

千葉市　海老池　洋

停電とは文明とはに気づかされ
進次郎のＳＥＸＹの意味辞書を引く
山に雪そろそろ浜はカニの旬
運不運石に捨て石要石
老いぼれて大根一本引き抜けぬ

東京都　川本真理子

ゴリラを見ている人類の横顔
肝に銘じる二敗一勝の幸福
それぞれがひとりの時間持つ稽古
細部まで思い出す一日がある
約束を果たすに短すぎた秋

東京都　まえでとよこ

ゴーヤのはな黄のいろのまま散ってゆき
トイレならふえても安心パキスタン
あらためて水洗便所に感謝する
トイレの神さま木陰にいます奈良公園
乗組員六十名にて魚船とは

八王子市　川名洋子

鍾乳洞夏から冬へひとっとび
子らが来てひらひら遊ぶ物干場
増税と寒暖の差に踊らされ
あわてんぼうが飛び出したヨーイドン
早起きと言いたいけれど午前二時

横浜市　川島良子

肝心なことは無口な饒舌家
あるがまま生きると決めて吹っ切れる
板挟みどちらも主張崩さない
アクションを起こさなければ変わるまい
歯には歯をお世辞にはお世辞で返す

横浜市　菊地政勝

カロリーも体重計も見ない秋
難聴が笑いの輪から遠くなる
咳ひとつ妻が心配してくれる
ストレスを発散させるみじん切り
切り返す言葉こころにしまいこむ

犬山市　金子美千代

ほとんどの事は卒業して自由
やせ我慢気付いて欲しいなあ子らよ
愚痴聞いて欲しい線香三本目
一ミリも心に届かない謝罪
披講待つこのドキドキがたまらない

犬山市　関本かつ子

お静かに注意事項が聞こえない
親友の命日だけは忘れない
ちょぼちょぼの顔が集合ティータイム
大らかに見えてお金は几帳面
ありがとうお陰様でを持ち歩く

愛知県　早川遡行

スーパーへ今日も散歩に行く暑さ
酒やめて止めさせられて孤に隠り
散らかして男ひとりの晩ご飯
ルールなど知らぬラグビー盛り上がり
コマーシャルの度にチャンネル替えられる

足跡の整理月日が流れゆく
青春へ逆戻りする応援歌
出来不出来自己満足へ光る汗
自閉症と心を開く山歩き
港から夜が明け港から暮れる

富山市　島　ひかる

おだてられ歌って笑うボランティア
愚痴言ってちょっと気晴し栗御飯
表向きみんな仲よし草テニス
不愉快も愉快もあって世を渡る
ラグビーのラの字も知らず順位表

可児市　板山　まみ子

呆けて当然と思ってほしい八十歳
ヤボ用が昔も今もビタミン剤
大阪のおばちゃんの声天の声
私に私という影がある
未来のロマン過去のロマンも酒が好き

神戸市　上田　和宏

へそくりがどないなるのかキャッシュレス
不倫演歌潔白な人熱唱す
亡くなった人を悪者にして逃げる
意識する人へちぐはぐになることば
おかっぱのまんまるい目や秋日和

神戸市　奥澤　洋次郎

惚れあった残り火灯し暮らしてる
孫の笑み長生きしろと僕を押す
こみいった人生五七五では詠みきれぬ
この頃は僕より若い人が逝く
飛行機雲見なくなったね秋の空

神戸市　敏森　廣光

助言一つ染みて私の再起動
暴風に負けぬピーマンのスクラム
種蒔けばちゃんと応えてくれました
まびき菜の若さやわさがうらやまし
老木を切って無口になる夫婦

神戸市　冨永　恭子

電車が止まれば句会諦める
私生活全部分かっている主治医
水飲んでゆっくり眠れば風邪治る
薬より自然治癒力信じてる
合服の出番少ない国になる

神戸市　能勢　利子

老々介護新婚みたいに腕を組み
何時迄も振れてはならぬ座標軸
さあ遣るぞ朝の空気に気を貰い
知名度は低いが腕は天下一
平坦な道ではアイディア浮かばない

神戸市　山口　光久

神戸市　山崎武彦

キラキラは無いが一途に生きた父
濁酒(どぶろく)が国を憂いていた戦後
人生を語る医者だな任せよう
女将からハートマークの請求書
ハートブレーク神戸が割れた日の記憶

明石市　糀谷和郎

いきなりの発火あなたに一目ぼれ
虫が鳴く明日も鳴いてくれますか
予約制にしますと閻魔から通知
始まりは君と出会った交差点
ハバネロが大好き口の燃える秋

尼崎市　加川靖鬼

転んだら骨が折れます骨密度
関節をみんな外して露天風呂
お聖さん追悼会で詠む一句
ラグビーの欲しいところへ来るボール
ぎっしりと枯葉を詰めたのは狐

尼崎市　永田紀惠

スシローが肉まつりとはこれいかに
黙とうをされる側にはなりとない
立ち位置を変えたら見える下心
独り居の隣コンビニ前酒場
覗き見をみつかり庭の花を褒め

尼崎市　藤井宏造

アンテナが錆びないように街へ出る
新米はなにがなんでも塩むすび
好きな物いっぱい入れる一人鍋
回転鮨のタッチパネルは孫まかせ
叱るより叱られること増えてきた

尼崎市　藤田雪菜

いとおしい物もいつしか塵と化す
きれいになる化粧品より強壮剤
虫の音色にきき入りながら眠る幸
朝の月歩け歩けとペアシューズ
誕生日孫がケーキを買って来る

加西市　山端なつみ

ノーベル賞スマホ苦手な吉野さん
待つ内が花だが長い春樹さん
台風進路チャンネル変えて見比べる
台風地震の五輪対策万全か
先生のイジメ知ったら子は真似る

川西市　山口不動

すくすくと子の産める身に孫娘
白寿より惜しまれるうち逝くつもり
日本人愚痴を言うのも七五調
虐待に死刑と叫ぶ妻と居る
更新は自動運転限定で

三田市　足立つな子

今日あるは自分が蒔いた花が咲く
被災者の気持になって家磨く
ひとりより寄り添う二人絵になるね
人のエゴ異常気象の砂嵐
遣る気そぐ猛暑つづきの怠けぐせ

三田市　上田ひとみ

立ち上がる力ゆっくり待ちましょう
こうなれば特別の日は毎日に
私より年上のひと皆拍手
たっぷりと煮込む夫の飲むスープ
眠ること食べること明日生きること

三田市　大西重男

墓参り親爺の前はタバコ立て
傘寿すぎ望みは低いが血圧高い
人生の付録がついて生かされる
ハードルを上げて目指すぞ米寿越え
長年の付き合い狭め終活に

三田市　尾崎一子

障害をもつ眼にやさし友の杖
もしこの目が見えたらとはかない夢
老いる母家族がやさしくなりました
生きるなら笑顔で生きてありがとう
かすむ目もこころは何時も青い空

三田市　丸村義徳

増税分社会保障にいつもの手
増税に蟹もぶつぶつ泡を吹く
おはようは素敵な言葉地域の和
押し入れに明かせぬ過去を詰め込んだ
指切りの小指が謀反企てる

三田市　多田雅尚

豪華客船一つの街も連れて来た
CSと言う名の敗者復活戦
しもやけのむず痒さ知る子等も減り
美談など無いが笑いの絶えぬ家
宇宙より急いで欲しい核のゴミ

三田市　谷口修平

わけありのわけを隠したリンゴ飴
お互いの記憶で揉めるプロポーズ
タイガース別に勝とうが負けようが
ハワイから帰り余興はフラダンス
人類の叡智結集する戦

三田市　野口真桜子

一本の杖しか待たぬ最終話
どんでんがえし入れて微笑む最終話
ぶっつけ本番のままひとり芝居の最終話
お疲れさま素顔で眠る昼の月
ルビふった僕の本音が喋り出す

三田市　福田好文

復興の先陣競うボランティア
最強の敵は自分の中にいた
ばらばらの親族揃うお葬式
幸福に気付かぬ人がよくぐちる
トップとビリ縁ないままに生きる幸

三田市　堀　正和

夏背広着ないまんまで衣替え
白内障手術をしても変らぬ世
またひとり友達ガンに攫われる
昼食が決め手になったバスツアー
しっかりと充電をした秋一日

三田市　松本ゆかり

幸福の度合い低目の昨日今日
おはようと異国の男子足場組む
あなたにはパソコンむかぬご神託
鰯雲風はなに色彼岸花
橋の上見渡すかぎり大落暉

高砂市　松尾柳右子

独り居をお節チラシに攻められる
正月を待って孫子は逢いに来る
健康をキープリハビリ欠かせない
Tシャツの冷えに暖房試運転
孫7人秀才ばかり寄りつかぬ

宝塚市　丸山孔一

暑い夏抜けて常夏ホノルルへ
お先にどうぞ私マイペース
人生も一旦停車が要るらしい
トリカブト清楚な花が持つ魔性
旅案内見ても浮立つ心なく

丹波篠山市　久保木剛

次々と遊び相手が減る齢
今晩も酒の相手に猫と居る
電池交換たのむとスマホ買わされる
家でならいくら呑んでもいいと妻
アクセルは奥まで踏んだことはない

丹波篠山市　酒井健二

シャッター街昭和遺跡になりそうな
ぐずぐずと過去を引きずり嫌われる
いま思うあれは告白だったのか
巡礼の真似して何も残らない
バイキングみんな生きてる食うために

丹波篠山市　長谷川善輔

横に猫長生きしょうね顔と顔
物言わず源氏読む我覗き込む猫
粛々と牛後となりて八十路も半ば
松茸も芋も栗もと味丹波
名月やまず用意する酒と肴(あて)

西宮市　秋元てる

好きなだけ寝てていいよと言われると
友が来た楽しいうそをぶらさげて
孫の手とよく名付けたり何時も傍
切り抜いて貼るだけでもう元気出た
燕の子巣立って大戸立てられぬ

西宮市　緒方美津子

やさしさを句に托しつつ天国へ（前氏追悼）
風は秋母に供えるきのこ飯
駅までと駅からは歩幅がちがう
雑巾は縫うものだったねえ母さん
包丁より鋏の出番多くなり

西宮市　亀岡哲子

アッハッハで終る話でつつがない
九十五歳菊の大輪いよよ映え
親戚知人総動員で嫁がされ
おかげさまありがとうです今がある
肉食べなあかんと焼肉誘うてくれ

西宮市　西口いわゑ

さんま焼くとろり熱燗待っている
あの雲に乗れたらいいな君の傍
墓の前花を手向けて安らぎぬ
人間の騒ぎの外の彼岸花
いつまでも女は華を抱くものぞ

西宮市　福島弘子

その内にテレビでやるさあの名画
熟れすぎたいちじくのジャム娘にもらう
熟し柿亡父は本当に好きだった
ローカル線迎えてくれる赤トンボ
よく喋る家電に返事忙しい

西宮市　福田正彦

晴れ曇り人はさまざま生きている
許さない地球見詰めるお月様
耳寄りな話らしいが聞こえない
ヒソヒソがやがてワイワイ老いの会
今スマホ新聞そっと隅で見る

西脇市　七反田順子

大阪城高層ビルがああ無情
炎天下老人パワー球を打つ
診察はパソコン頼りに三分間
渋皮煮甘い無花果元気です
団塊が日本を支えて来たんです

南あわじ市　萩原狸月

AIの出した答に情がない
元気だと言う声年をとっている
女子会のお茶とお菓子がよくしゃべる
付き合いのよさが今夜も終電車
来客も納得づくの発泡酒

奈良市　阿部紀子

日が昇る奈良の山並越えていく
バレーボール世界大会のめりこむ
石川君イタリア留学すばらしい
ラグビーも世界と戦い手に汗握る
サモアのラグビー戦う前の儀と踊り

奈良市　宇賀史郎

杖頼る昔スキップした所
いつ晴れる若き阿修羅の憂い顔
洗濯物取り込む暇のない雷雨
ノーベル賞受賞者をみる児の瞳
日韓の首脳退陣待つ対馬

奈良市　大久保眞澄

美魔女にはなれず箒に乗っている
口元をゆがめて握手するトップ
エアコンに足を向けては寝られない
せっかくの好意じいさん座らない
同窓会死んだと聞いた人が来た

奈良市　高橋敬子

やせた秋刀魚に人の責任せめられる
郷里の祭りちょっぴりはずむお賽銭
近くまで来たことにして孫に会い
下手なパソコン孫との会話はずませる
優先席さっさと座るようになり

奈良市　辻内げんえい

結局はいつも僕だけこらえてる
検診表に超えた数値がまた並ぶ
親の遺産ちょっぴり減らし子につなぐ
ふるさとの満天の星夢にでる
ルール決め遊ぶ子たちの育ちぶり

奈良市　山本昌代

独り居は一人で返事して決まる
腹立ちを忘れてしまう拭き掃除
今の今覚えた単語出てこない
ささっとね今日も素朴なお夕飯
外は雨ひとりぽっちを深くする

奈良市　米田恭昌

逆風を追い風とする男意気
他人の不幸肩ごしに見る事故現場
その昔着物を食べた事がある
僕の必携ガラケイと電子辞書
ロスタイム有終の美を飾らねば

生駒市　飛永ふりこ

燃える秋リュックに乗せて歩も弾む
チコちゃんの案山子ちょっぴり威圧感
ラガーマン頼りがいある腕っ節
甘露煮の栗の手作り染み渡る
頂いた秋の味覚にリフレッシュ

香芝市　大内朝子

諦めの悪い女が立ち枯れる
傘寿過ぎまだ悟れないまだ未熟
キャッシュレス置いてけ堀になる化石
生きのびる芯を見習う秋桜
郷愁の昭和へ戻る赤とんぼ

香芝市　山下純子

古希だけど短パンはいて山ガール（槍ヶ岳登山）
山小屋で男女合部屋なんのその
夫より頼りにするは杖二本
夢叶い槍の穂先でハイタッチ
頂上で宇宙から吹く風を知る

橿原市　居谷真理子

藁のこの樹を神木と呼ぼう
初めましてと旅先のアキアカネ
古ぼけたホテルと相田みつをの書
ほらここにいるよと柔らかい風が
ひと雨がきてお豆腐が売れ残り

奈良県　安福和夫

混血ラガー秘めた力が底知れぬ
CMの華奢なダンサー別人種
Jリーグ影を薄めて割を食う
スポーツ観戦過疎の村にも賑わいが
何とまあ虎がCS滑り込み

奈良県　谷川憲

地球守れ少女の訴求鬼気迫る
散歩道しばらく見ない人案ず
いとおしみつつ老犬の介護する
腹抱え笑えば弱気虫消える
虚飾捨て裸になれば楽なのに

奈良県　中堀優

観光のボランティアしてボケ防止
揺れる心ピタリと止めたのは貴方
財産はないが引き継ぐ知恵がある
超ハード中の少しの休み時
妻の地雷踏まないように歩いてる

奈良県　長谷川崇明

満中陰生生流転説く和尚
少子化が欠ける躾を直せない
雑魚などと言うな流れは読んでいる
10秒の坂は越えても道はるか
風呂敷で包む文化も今は消え

和歌山市　上田紀子

あちこちへいい顔首が回らない
自由の身だけどストレスよく溜まる
遠回りしてきた噂期限切れ
採算は度外視趣味の畑仕事
いろいろな音を聴き分け一人の夜

和歌山市　柏原夕胡

雪国を知らずに雪を恋うている
向き合ってどんな人かと考える
わたくしを癒してくれる独り鍋
ジャラジャラと財布の中が寒くなる
4Bの軟らかさなら許せそう

和歌山市　武本碧

ネクタイをゆるめた方にある余裕
知恵袋ここで聞けねば名が廃る
弱点で埋まるぬるま湯掻き回す
返事だけ良いが心は上の空
忍び寄る老いに俄然と立ち向かう

和歌山市　土屋起世子

青信号ばかり選んでくれた父
流されて行くも幸せ秋の天
ゆっくりと緩めて解けた縺れ糸
二代目も笑顔を武器に小商い
毒舌も笑いのネタにして丸い

和歌山市　福井菜摘

ときめきが心の芯を太くする
自我捨てた日からやさしい耳になる
親友の苦言こころの糧にする
雑魚なりにきりりと生きてきた誇り
だとしてもプラス志向でゆくと決め

和歌山市　古久保和子

昨日を引きずるほどでない齢
あの世への切符にハサミ入れた人
平穏な一日日記二行ほど
梅酒ぐらいでという秋夜長
六十五点残りは明日の糧にする

和歌山市　堀冨美子

アングルを変えると視界澄んで来た
身の丈でときどき蝶になっている
永らえて今日あるひと日おまけかも
子のテリトリーですんなり頷けぬ
其の時はその時度胸据わってる

和歌山市　松原寿子

沈黙を破るチャイムにほっとする
高野山合祀こころで会話するつもり
話せたら楽になるのに馬鹿だなあ
実家の歴史じっと見詰めていた柱
情熱の花をハートにして贈る

岩出市　藤原ほのか

母介護支えるはずが支えられ
我が家族妻が支える屋台骨
携帯で安否確認しています
秋まつり過疎の街にも人の波
しみじみと見つめる朝日希望の灯

海南市　小谷小雪

折鶴の両翼に願いを掛ける
くちばしより翼を補強しておこう
回転扉の向こうにカジノの火
またぞろの消費増税寒い指
膝裂けたジーパンを穿くもう普通

紀の川市　山東日出男

消化不良を起こすスマホの機能
リハビリへときに励まし励まされ
旧友に元気上げたりもらったり
見渡せば村じゅう老いた人ばかり
各家の前が乗り場の村のバス

橋本市　石田隆彦

悪戦苦闘の野菜で僕のエコ
記念日を地味に乾杯老夫婦
今もなお父の遺影ににらまれる
奥の手はまだ残してる泣き落とし
見え見えの奥の手だから動じない

京都市　清水英旺

生き延びて笑い合う手術記念日
秋風が吹いて来たよと万歩計
迷ってる時実新子ワールドで
ゴミ出しで隣の嫁と初対面
所在なし夫婦同時に大あくび

京都市　藤井文代

触らないで肥満がばれてしまいます
ガラスの指輪ダイヤと言われ黙っとく
いつまでも傷跡つつく変な国
使うより貯める努力迫まる老後
過分なる親切本音引っ込める

長岡京市　山田葉子

ラグビー戦わからないけど見てしまう
恵まれた体格やさしさも育つ
待つことに慣れてようやく子が巣立つ
髪カット終えたら秋の絵の中へ
避難指示逃げられたのは二階まで

八幡市　今井万紗子

強がりを言うてる内はまだ若い
あなたのハート時々余所見して困る
この街も何時からだろかみんな老い
子等もまた近くて遠い町に住む
人の知恵いっぱい貰い輝かす

大阪市　磯島福貴子

外反拇趾苦労の程を物語る
飲めぬけど句会打上げ又楽し
天気雨ひょっこり虹と鉢合せ
運動会その歓声が騒音と
共白髪山坂越えて得た自適

大阪市　岩崎玲子

グレタさんに耳傾けよ大人たち
すばらしい地球壊して損してる
あるんですほめられ言葉好き嫌い
親切はほんの一言それで良い
この猛暑耐えてきたから偉いです

大阪市　内田志津子

整えてあとは貴方をまつばかり
神様の導きフイにした我欲
少子高齢深い吐息のシャッター街
へりくつを通す人だが憎めない
プラゴミに人の常識試される

大阪市　宇都満知子

白い花揺れて十割そば恋し
目覚めたらくしゃみを二つ秋の朝
残陽のハート静かに奮い立つ
孫が走る嘗て見た我が子のように
冬布団干したよいつでもおいで冬

大阪市　江島谷勝弘

働きもので元気な妻を選んでた
ふところがいつもスリムで生きにくい
子も孫もキラキラしたが今普通
なんでやろうスカばっかりを引いている
かーごめかごめあの頃がなつかしい

大阪市　榎本日の出

若いねと言われたことが一度あり
カミナリが落ちなくなって歳が増え
鈍いのは歳のせいだと思ってる
天地人取ったら次は天国よ
百歳の時代が来たよ頑張ろう

大阪市　榎本舞夢

消費税塔祭り来る気忙しさ
高野山一味違う秋の風
美術の秋絵画陶芸梯子する
カーテンを取り替えただけ部屋アップ
彼氏紹介日取り決まったメール来る

大阪市　大川桃花

駆込みでトイレペーパー買っただけ
セピア色の祖父の葉書が背中押す
Tシャツの色褪せたのに夏続く
駆け寄られ立てなくなったおばあさん
仏壇に上げる初物多い秋

大阪市　大治重信

平成の匂を残し稲稔る
俎板が夫の靴と同じ音
ローン終え娘嫁がせなお寂し
物忘れ仲良く暮す老い二人
指切の愛が続いて白髪ふえ

大阪市　奥村五月

杖ついて足が向きます縄のれん
酒あれば遅い午飯も苦にならぬ
肩ももか孫の狙いはお小遣
神様の手抜き天災多い年
しみじみと恐い台風独り者

大阪市　小野雅美

唯一の味方スマホに教え乞う
深呼吸強くなれると暗示かけ
輪の中にいて増していく孤独感
忘れたい過去がしっかり数珠繋ぎ
星見上げやっと冗談言えました

大阪市　笠嶋恵美

午前二時トイレに起きてねむられず
真夜中の作句ひらがなばかりなり
ひるねして元気が戻るおばあちゃん
終活にふり返り見る人生よ
そこそこの私でいいの悔いはなし

大阪市　金川宣子

言い負けて茶碗ガチャガチャ洗い出す
ひと月のラジオ体操効き目出ず
たっぷりの脂肪使って長く生き
デパ地下でたっぷり試食老い二人
レシートの明細確と見届ける

大阪市　川端一歩

妙手発見もう勝ち負けにこだわらぬ
大願成就やっぱり陰の人がいた
いい話術後の腹に詰めておく
本当はボクから折れるべきだった
ゴミ拾いするじいちゃんの背が丸い

大阪市　古今堂蕉子

裏表ない顔さげて生きている
いつの間にこんなに何故が溜ったの
ドライアイ当分ご縁無さそうだ
待たせたな涼しい顔で惚れた人
皆夢中魔法のスマホ闊歩する

大阪市　近藤正

癌手術厄介なのは後遺症
裁判官アベに忖度ならば去れ
国民の総意とたがう高御座
悪知恵はたんと貯めている八十路坂
温暖化鋭く責めるグレタさん

大阪市　坂裕之

三世代一緒で今日も忙しい
我が儘を許し支えてくれた妻
失敗を笑いに変えて和ませる
同期会年々参加者減ってきた
回ってるうちは何とか店開ける

大阪市　髙杉　力

アマゾンでおもちゃ仕入れるサンタさん
誕生日イヴに近いという不幸
名も知らぬ野菜ばかりのシェフサラダ
夕刊紙開いているの俺だけか
片言の青年に席譲られる

大阪市　髙杉千歩

師走お正月ときめきのない九十三
車椅子師走の街を斜めから
羽根つきも双六も昔話スマホです
プレゼント貰うばかりの車椅子
四世代生きて頂くプレゼント

大阪市　田中廣子

ノーベル賞笑顔の会見素晴らしい
別れてもまたつぎの世で逢いたいな
囲碁会の記録更新たのもしい
相続で母娘喧嘩は情けない
台風のニュース解説心痛む

大阪市　田中ゆみ子

コンビニはないが星降る木の実降る
最期の世話したかったのにポックリ死
一日中喋ってましたバタンキュー
祝敬老働きなさいということか
朝がきてまた朝がきて地動説

大阪市　谷口　義

想定外のおばあさんになりました
ハンガーに掛ける記憶喪失物語
悲しいことはないが寂しいことはある
今年中に忘れてしまおうと思う
お医者さんには言わないでおこう今日は

大阪市　津村志華子

恙無く令和元年生き抜いた
ありがとう朝の大地を踏みしめる
オリンピック見たく長生きしています
来年は佳い年ですか　いわし雲
九十三今年を締める晦日そば

大阪市　寺本　実

妻の目が落し所とつげている
少子化で支える人のない虚構
坂の家免許返上まだできぬ
秋風が吹いて墓参に来いと言う
心臓が弱く時価には行けません

大阪市　中井　萠

隙あらば襲いかかって来る目眩い
同じ家スマホで話す上と下
我が老いを棚上げにしてスター悼む
奇数月よりも偶数月が好き
孫達よ君等もいつか古希米寿

大阪市　原田すみ子

弱さ見せぬ人の歯ぎしり聞いている
相手を認めても負けにはならない
前のめりそろそろ杖も用意しよ
強くて前向き昔は好きだった
昨日も今日もほとんど同じことで暮れ

大阪市　平賀国和

突然に前先生の訃報聞く
初出席キリスト教のお葬式
国籍は天国ですと我が恩師
星空に銀河鉄道見えました
男の寿命卒寿の山は険と知る

大阪市　藤田武人

最高の喜びひと振りの徳利
フィナーレの組体操はもう見れぬ
AIが失敗するとヒトになる
暴力の境界にある愛の鞭
二の腕をさすり自慢の酒二升

大阪市　横山里子

秋の蚊に無我にはなれぬ般若経
仏壇の線香伽羅は祖母好み
ここだけの話と猫に打ち明ける
ハロウィンもクリスマスなみ市民権
夢叶え歴史紡いで一軒屋

大阪市　若本安代

セルフレジ右往左往のわたしです
ひと言にこだわり一歩踏み出せぬ
敬老になると若いと褒められる
お喋りは認知予防と長電話
思い出に浸り断捨離進まない

堺市　奥時雄

プライドが許していない今の地位
プライドが邪魔してチーク踊れない
自尊心白紙に返す田舎かな
入浴と下の世話かけず逝きたい
産湯で洗われ湯灌で洗われる

堺市　柿花和夫

三十分で決断迫るテレショップ
美人にも悩みあるらし龍安寺
橋の名で道を教えるなにわ人
風の夜は過去がひょっこりやって来る
スナックのママは悩みの看取り人

堺市　加島由一

肌寒く目覚めて熱いお茶とパン
レストランばりの具材の冷蔵庫
冷蔵庫賞味期限は見もしない
胃袋は親韓派ですマッコリー
来し方を月にしゃべっているハート

堂堂と皇室行事熟されて
列島ごと世界遺産になれば良い
お祭りの手伝い通じ馴じみ合う
鳥除けネットご近所さんが張ってくれ
食事会嫁の手作り舌鼓

堺市　源田　八千代

昼御飯箸を持ったら友が来た
やんちゃくれ孫の元気に感謝する
無償化があとの暮らしを楽にせず
散蒔きの付けがその内かえる筈
長生きにほどほどの金要る筈だ

堺市　齋藤　さくら

生ゴミを出す日に合わせ休肝日
軟弱な心を嗤う休肝日
休肝日を前後に倒し飲んでいる
甘い自分の心を覗く休肝日
増税がチャンスお酒を断ちますか

堺市　坂上　淳司

群青の空へ向かって湧く若さ
後輩の急成長に湧く闘志
国境で温度差を知る渡り鳥
食う寝る笑う母はしっかり守ってた
寂聴の法話に湧いてくる温み

堺市　澤井　敏治

好い人にかこまれ徳を身につける
古日記にこころの余白みてしまう
土瓶蒸しの松茸くれるやさしい子
懐メロに古い記憶がよみがえる
三途の川わたる六文とっておく

堺市　遠山　唯敎

作り過ぎたと言うて届けるおふくろの味
手始めに近場の温泉老母のリハビリ
一大事に成らぬ程度の物忘れ
小一時間娘とおしゃべり消えたウツ
人生の忘れ物にも気づく帯ドラ

堺市　矢倉　五月

バスツアーおみやげ付きについ魅かれ
旅みやげ配る近所をメモに書く
煎り立ての零余子は酒がよく進む
こだわりの漢字をさがす名付け親
プチ御膳箸置きだけが有田焼

池田市　太田　省三

身に合うた余世を飾る策を練る
毒少し持ってにこにこ生きてます
夢を持つそれがわたしのサプリです
寄って行きなはれと誘う辻地蔵
言い分けのようにコスモス咲く残暑

貝塚市　石田　ひろ子

河内長野市　大島　ともこ

祭り打ち上げ抜け殻になる若い衆
何とかなるさ崖っぷちでも能天気
熟年離婚築いたものは砂の城
精一杯生きてきたのにこの暮らし
家電も寿命不調の声が続々と

河内長野市　梶原　弘光

とりあえず悩みを脱いで床に就く
コーナーを曲がると見えた良い兆し
こちらではよく眠れると亡母が言う
生返事してじいちゃんに叱られた
秋雨と仕舞い忘れの扇風機

河内長野市　木見谷　孝代

結婚記念日オムライスにハート
壊れそうなハート必死で目張りする
災害があろうとこの町好きだから
彼岸花ヌッと畦道埋めつくす
変らずに故郷の景色待っている

河内長野市　黒岩　靖博

人生の黄昏きらり虹を追う
残り火がもう一旗と野心持つ
尽くされても背を向けて来た親の愛
台風で街の明かりが消えたまま
歯が痛み転げ回った一昼夜

河内長野市　辻村　ヒロ

脇役に徹し輝くかすみ草
まとめ役老いの出番もたまにある
演歌なら得意顔してマイク持つ
朝夕と寡黙な夫来る見舞
生き上手面倒なこと見ない振り

河内長野市　中島　一彌

銀杯とお祝い状の母百寿
入所して優等生で通す母
アルバムを開けば記憶戻る母
5回目の秋場所を観る母の部屋
母曰く寝てるだけでも腹が減る

河内長野市　藤塚　克三

お互いが譲り合いして出る笑顔
時効など認めぬ妻の記憶力
隅っこに光を当てる思い遣り
夜の街へ心の垢を捨てに行く
プールでも家でも俺は浮いている

河内長野市　村上　直樹

戦争も飢えも平和も知る強み
もし妻が風になったらどうしよう
ドアロックもう悲しみが来ないよう
嫁ぐ娘へ誕生秘話とへその緒と
月を待つ虫とゆったり迎え酒

河内長野市　森田旅人

伴走のリズム合わせて半世紀
手拍子がずれて誘われなくなった
偲ぶ秋友のたましい十回忌
筋は曲げぬ声のちいさい人でした
祭太鼓鳴って迷いは消えてゆく

河内長野市　山室光弘

過疎の村若人集う知恵欲しい
キラキラネーム付けた我が子を虐待死
目が覚めて生かされてると悟る朝
俺の影やつれた姿ついてくる
精一杯生きてやるぞとガン告知

岸和田市　宮野みつ江

潔白とはどくだみの花の白さよ
パソコンと一日遊び目の疲れ
悲しみの底で笑顔を作った日
寝る前に今日の私を褒めてやる
思い出は宝ときどき風通す

四條畷市　吉岡修

ブランドで固めていると言う自信
全没で交わした友情です今も
ここに居るだけで心はピッカピカ
早よ行って目立たぬ席を取っておこ
是が非でも欲しいと言ったのはそちら

吹田市　野下之男

大統領他国の島が好きらしい
香港の雨がさの列重たいね
ちさくても海外の旅勉強だ
浅間山機嫌なおしておとなしい
母鴨は泰然として子鴨は必死

高槻市　指宿千枝子

夕焼けこやけお寺の鐘がひびかない
夕日ぽとり空も私も黄昏れて
道草を命の限り楽しまん
寝坊する夫をくすぐる猫じゃらし
エネルギーを溜めて明日の夢を見る

高槻市　片山かずお

婆ちゃんの色だと孫がいうピンク
孫に甘過ぎると嫁に叱られる
独り酒おいしそうだが寂しそう
ショッピングブランド店に用はない
頑固過ぎ変人扱いをされる

高槻市　島田千鶴子

AIに人の情けは分かるまい
無言劇一日続け肩が凝る
これくらいの損で済んだと後日談
少しずつ老いのリズムになる暮し
素っぴんの時を狙って鳴るチャイム

高槻市　初代正彦

さりげない顔も偶にはして夫婦
細身でも突っかい棒の心意気
曲がり角過ぎたあたりの正念場
いざとなれば灯りを消して身構える
ど忘れも老人力と気にすまい

高槻市　富田美義

遺伝子を受け継ぐ子等と墓参り
初孫の名前みんなで取り囲む
夏休みスマホに勝る趣味見つけ
打ち水の路地の仕来たり有難い
スマホから手が離せない超多忙

高槻市　富田保子

老人は好きなテンポで歩きます
暇あればパソコンしてる夫の部屋
日傘から男の歩幅新しい
喪のハガキもらい始まる長い闇
孫の背が伸びた伸びたと夫婦仲

高槻市　原洋志

各停でスローライフを噛みしめる
ハイタッチ互いに元気もらい受け
魔除け札賞味期限が書いてない
修正液の中で昨日を掻き混ぜる
あの角を曲れば染まるもっと秋

高槻市　松岡篤

夏日陰冬日当たりを散歩する
台風も礼儀わきまえ来て欲しい
買った日の翌日何と半額に
ふるさとの家は鍵など錆びている
菓子折にお菓子以外は怖いです

豊中市　池田純子

飼い主も一緒に遊ぶねこじゃらし
スキップが上手に出来てケーキ買う
闘病の友も観ている丸い月
迷わない線で画かれている椿
台風が来るぞ来るぞと羊雲

豊中市　上出修

じじばばが大はしゃぎする七五三
縦糸に横糸紡ぎいい夫婦
はやぶさ2どんなもんだと町工場
避難所でろうそく囲む不安な夜
トランプに会うたび負担重くなる

豊中市　きとうこみつ

真白のハンカチにある心意気
のど自慢音痴な人を混ぜてある
ふるさと納税あの手この手の泉佐野
門限を忘れてならぬシンデレラ
食欲をそそる団子につく焦げめ

豊中市　藤井則彦

一円の不足ポストが睨んでる
たっぷりと知識あるのに知恵がない
座右の銘を咄嗟に訊かれ口籠もる
偶然の出会いが無二の友を生む
將棋戦指すより待つに見る力

豊中市　松尾美智代

灼熱の暑さいきなり萩の風
曼殊沙華そこ迄秋は来ています
上り調子です私の転換期
没句積んで私の宝読み直す
神のもとへいつもやさしい人でした

豊中市　水野黒兎

ふと足を止め秋を知る初紅葉
ピカソでも写実派だった青年期
カーナビの案内終り迷う路地
極小の精密機械蟻歩く
よく喋る妻はもともと鳥だった

富田林市　片岡智恵子

夢のなか天女になったのは定か
夕焼けの色吸い街は暗くなり
同じ日に友二人から訃報聞く
私の持ち時間無駄無きように
菓子箱の底に小判は時代劇

富田林市　関よしみ

眉すべてやさしい位置で弥勒仏
美らの酒ユンタ三線太い眉
譲るもの譲る米寿は深緑
盃に写り込んでるみんな友
一筋の滴り私呼びにくる

富田林市　山野寿之

軋む音錆びつく音の聴診器
無茶諭す母の優しい語り口
心境はあれやこれやの草を抜く
人間を三度リセットしたい古稀
垣間見る息子もやっと匂う父

寝屋川市　伊達郁夫

メール来ぬ部屋で乾いている孤独
トンネルの向こうは虹と決めている
ありがとうこの一言だけを遺書にする
運命と悟れば肩が軽くなる
おおまかに言えば私もニートです

寝屋川市　冨山ルイ子

塔まつり一回目三句抜けている
塔まつり三回目一句抜けている
栞師の三回忌に三句抜ける
塔まつり七回目一句抜ける
今は親友と逢えるうれしさ塔まつり

寝屋川市　平松　かすみ

お土産は野苺だった幼少期
岸壁の母の其の後がわからない
遊休品あれこれ出して身軽なり
銭湯が老人ホームに様変り
ケアハウス沢山どこにしようかな

寝屋川市　森　茜

マンネリの流れを変える今朝の秋
虫干しの亡母の小紋にふっと伽羅
コスモスを栞り返ってきた詩集
金木犀軽い約束ばかりして
さりげなく装う屈託ないように

羽曳野市　安芸田　泰子

少しずつ嘘が崩れてゆく膝頭
見栄張った付けが財布にのしかかる
欲みんな捨てると風が凪いでくる
空を翔ぶ夢果せぬまま羽が萎え
台風に握られている予定表

羽曳野市　宇都宮　ちづる

街中のカメラ疚しさないけれど
病院で振り回されて午後三時
娘の振袖孫にも着せて元をとる
きのこ飯秋を満喫した夜長
頑張れじゃなく頑張ってるネと言う

羽曳野市　徳山　みつこ

マイハート攫ったままに夫は天
きっとみな善人だろう下がり眉
病む友へ願いを込めて花切手
なんだ坂こんな坂とはもう言えず
八十路越え卒寿の坂を目指さんか

羽曳野市　中川　ひろ介

レジ袋食べて孤独死奈良の鹿
足るを知るわかっていても増えるモノ
返納し菜園にした駐車場
あたりまえの事がしあわせ大病後
泥掃除するラガーマン見て感動だ

羽曳野市　藤原　大子

夏痩せもせず果物の秋が来た
サンマ焼く匂い待ってる換気扇
手にしたら恋焦がれたは嘘のよう
ロボットに負けない笑みが人にある
穏やかになった夫はちと微妙

羽曳野市　三好　専平

台風も胡瓜も超になってきた
ゴミ溜めにうずもれて住む頑固者
原発がこわれて人もこわれだし
今の世は電話嫌いで丁度よい
コロッケ屋に長蛇の列の天満かな

羽曳野市　吉村久仁雄

悩んだら初心に答聞いてみる
損切りを覚え生き方楽になる
心中の君はフォトより美しい
無から有生きてやがては無に還る
愛よりも情けで命永らえる

東大阪市　北村賢子

近未来地球水浸しの恐怖
教育者たる人のいじめが情けない
決められた定め楽しく生きている
喜寿過ぎてまだ羽ばたける趣味の道
聞きなれぬ鳥の声聞く秋の天

東大阪市　佐々木満作

出口調査開票の楽しみを削ぐ
テロップに知人の名あり狼狽える
病院のテレビは消音の字幕
情報の渦に取り残された孤独
句会中着メロが鳴る照れくささ

枚方市　丹後屋肇

元気で長寿二者採択の笑い皺
おかえりとインコ迎える午前様
カーテン越し同病はてしない会話
ブルーシート躍って一夜寝付けない
足音が途絶える亡妻も亡妹も

枚方市　二宮山久

老犬と歩調あわせる病み上がり
図星だと笑いとばせる妻がいる
ライバルも会社離れて友となる
励ましの一言苦労の味がする
うさ晴らし特効薬のウォーキング

枚方市　山口弘委智

持ち替えても裏返しても人なさけ
今日の知恵今日を必死に使い切る
古書店に並ぶ詩歌の文化の日
徳利も猪口も手造り沁みる酒
存えて拵え旨い朝餉の香

藤井寺市　太田扶美代

青空も混じってました処方箋
去年より一羽増えていたツバメ
涙涸れたら立直れると思う
風は秋亡父と話がしたくなる
萩の道犬も散歩を待っている

藤井寺市　鴨谷瑠美子

明日は晴れ空はわたしの胸にある
コスモスの花恋は幼き日にあった
愛しいひとがぽつんと灯る萩の道
ドア閉まる音が嫌いで見送らぬ
間違いの電話がのんびりとかかる

藤井寺市　鈴木いさお

アポ無しでいきなりやって来た老化
肺気腫と折れ合いながら生きている
疑似餌だとうすうす知っておりました
美人ではないが問題ありません
一芸があったらそれでいいのです

藤井寺市　髙田美代子

何時迄も今のままではないドラマ
あの頃の知人残りはほん僅か
梅田一番地の地下街で迷う
芋粥がおいしいものと知った朝
七五三この子もやがて選挙権

藤井寺市　吉田喜代子

千葉台風変らぬ声の妹は無事
煩わし留守電にして守る歳
久し振り友と会いたくなる気候
暖かいお茶が美味しくなりました
字が不得手久方振りに筆を持つ

箕面市　大浦初音

たいそうな血筋じゃないが絶やせない
ほどほどにしておかないともたぬ歳
心の中みえない傷もあるのです
後姿そっくりになる亡父と兄
手料理に愛情ひとつプラスして

箕面市　酒井紀華

日々新た残り時間を使い切る
酒は魔物わたしは魔女で万華鏡
ロボットが人間臭い顔をする
守備範囲うごかぬ位置に辞書をおく
他愛ないおしゃべり続くウツぬける

箕面市　出口セツ子

頼られるうちが華だと思う老い
頼まれるとホイホイ何でもやってます
支部長をやめたら暇で困るだろ
犬散歩二万歩マネはできません
賑やかな中で聞き役性に合う

箕面市　広島巴子

秋の色求め東北フルムーン
生きながら極楽浄土中尊寺
瑞巌寺心を奪う荘厳さ
大内宿タイムスリップぶらぶらと
白虎隊悼み黙祷鶴ヶ城

八尾市　内海幸生

絶筆に魁夷の迷い星一つ
台風が電気の怖さ告げて去る
オール電化停電ありは誤算なり
蚊を叩く高僧の真似できぬから
食べられぬ胃にご馳走が夢にくる

八尾市　寺川はじむ

老いの歯車擦り減り馴染み出すふたり
プライドが顔出し纏まらぬ会議
予期しないバントに夫が面喰う
プライドの箍を緩めて座が円い
ラグビージャパン図式を越える猛トライ

八尾市　宮﨑シマ子

源氏平家の血が伝わってる祖谷の村
名月から私を見てる父と母
今頃言うても遅い今日はもう暮れた
お連れが居るので安物は買わぬ
ばあさんになってから人生が長い

八尾市　村上ミツ子

生きていかねば消費税上がっても
何もできない時がどんどん過ぎる
なんとかなると悟らねば眠れない
鍵かけておいた本音があばれだす
決断をするのは次の曲がり角

八尾市　山根妙子

恩恵がこんな身近に化学賞
増税の仕組みうやむや神無月
嫋やかなコスモスに似た人が好き
街の名が好きで途中で降りてみる
高齢者いきなりなった訳でなく

大阪府　米澤俶子

新米の炊ける匂いに飢えた日を
枯れてゆく里を案じている地蔵
また一つ空地が消えてケアハウス
倒れても起きるコスモス見習おう
もうとまだ上手に使うおばあちゃん

岡山市　大石洋子

ひとかかえの花を買う日のやけっぱち
金金金どこかでみんな狂いだす
バーゲンに弱い私の百円均一
可愛いというほめ言葉罪とする
覆面禁止マスク族ですどうしましょ

岡山市　工藤千代子

赤ちゃんが笑う日本は平和です
アリバイがぽろぽろ崩れ秋に入る
お布団のなかで言い分けふと浮かぶ
役降りて平和保っている無口
腕相撲両手でかかって来いと父

岡山市　丹下凱夫

柿熟れるだけでうれしくなっている
バッカスに呼びとめられて回り道
殿を走り温めている命
スキップがうまく出来ずにずっ転ける
さざ波になって運河は暮れてゆく

岡山市　前田恵美子

ふわりふわり優雅な暮らし身につかず
本音言える人がいるから生きられる
本音言う人との会話盛り上がる
旅に出て自分らしさを深呼吸
鱗雲浮かぶ数だけためらった

笹岡市　藤井智史

愛が消えるまでダイヤを切り刻む
政界にヨードチンキを塗っておく
ストレスに乾杯　焼酎はロック
姫になる努力　王子になる気迫
愛してくれるAB型の宇宙

岡山県　大杉敏夫

賽の目で決める此の世が面白い
盟友の訃報へ祈るコップ酒
神のみが知る天国の番外地
年金の残高知らぬまま彼の世
鬼も蛇も逢うた此の世にある未練

岡山県　髙岡茂子

墓参り子と孫杖に行く仙台
七回もすべってころぶ山の墓
伊達家の寺にひっそり眠る御先祖さま
墓からは北上川と芭蕉の碑
白萩が道案内の金色堂

岡山県　田中恵

曼殊沙華畦一面を通せん坊
野仏にそっと紅差す茜雲
絵手紙のさまになってる虫喰葉
屈折の中でみつけた花の種
磨崖仏の前で石を積んでいる

岡山県　永見心咲

塩っぱさの中に確かな愛がある
良い人と言われそれだけとも言われ
小さいが母は万能鍋である
完熟のアボガドの種からサンバ
百歳は望まぬ心して老いる

岡山県　藤澤照代

猫飼えばネコねこ猫と数珠繋ぎ
コスモスと並んで秋の風を聴く
繋いだ手ときどき離し夫婦です
イヤリング揺らし悲しみ蹴散らして
茶をすする夫の背中が老いて来た

岡山県　山縣のぶ子

一寸した油断で腕を吊っている
若い日の新たな夢をふくらます
母さんが松茸一本提げて来た
喧嘩にもバランスとれた半世紀
満月が澄んでいるから明日がある

広島市　岸本　清

温暖化しっぺ返しが半端ない
内科医が笑顔でくれた二重丸
長寿化で恋の寿命も延びました
笑いにも温度差がある三世代
テレビ前笑いころげる妻がいる

竹原市　岩本笑子

秋になったね彼岸花赤い
クリを剥く母の昔話聞く
サルビアが萌えてゆっくり四季回る
そうなんですコマーシャルに返事する
また増えた薬を食後もてあまし

三原市　鴨田昭紀

職退いてやっとわたしの彩になる
縦にしか振らないバネ仕掛けの首
誤りもある人生の時刻表
モノクロで悲惨な昭和史を語る
多数派にふわり寄り添う妥協癖

岩国市　上村夢香

台風は人災と知るこのごろは
先生方日本国中歩くべし
修行が足りぬ母の味にはまだまだで
秋祭り神様どうぞ草を刈る
ミニパトの後ろを走るスイスイと

宇部市　平田実男

言葉より先に涙のご対面
実家では顔も心もノーメイク
ライバルは竹馬の友で仲が良い
来春は曾孫二人が増える幸
潤滑油ですと今宵もワンカップ

下松市　有海静枝

良い人の着ぐるみ脱いで引いた風邪
山枯らすヒト科の所為だ街に熊
許された経験のない冷凍魚
刺すような視線にも屈せぬ背骨
たっぷりの愛で育った子の無邪気

防府市　坂本加代

この地球にんげんだけのものじゃない
足腰の弱さを見せぬトラクター
観光は古い日本が魅力的
テープカットだんだん人が多くなり
埋め立てて海岸線が遠くなる

鳥取市　池澤大鯰

善戦を続けています負けつづけ
成功のイメージ抱き場へ臨む
歌は下手スポーツ苦手出しゃばらぬ
山の神さまもう放っといてくださいよ
晩酌の酎が切れてた休肝だ

鳥取市　奥田由美

高いほど肌に馴染まぬ美容液
親切といらぬお世話の岐路に居る
猛暑にも耐えた恵みで野菜鍋
同居後に堪忍袋が試される
子も犬も強力すぎる自己主張

鳥取市　加藤茶人

便秘には無縁粗食の繊維食
昔なら美徳質素も今はケチ
嫁に気を使うだろうな子に遠慮
片足で乗れば体重減るのかも
餌代が高く付く趣味釣り日和

鳥取市　岸本宏章

そんなに無理していないのにすぐ疲れ
探し物ひとり芝居が多くなる
医者と店あれば田舎が暮らしよい
何事もなかった今日に感謝する
歩行者をほとんど見ない歩道橋

鳥取市　岸本孝子

名物の駅弁を買う旅みやげ
コマーシャルで途切れとぎれのドラマ見る
ひと芝居打ったあげくの後始末
脱いだり着たり決断力のない女
永田町では二千万円などお小遣い

鳥取市　田賀八千代

追伸に待っているよと泣かす人
この町に地球を汚すゴミはない
風になりいきなり噂やってきた
ハートマークだけのメールが今日もきた
燃え尽きたハートで今は猫を抱く

鳥取市　田中天翔

八十の大黒柱に梁が要る
梁になると決めたわたしに杖が要る
私は象夫は蟻のハート持つ
いきなりのお迎えなんて真っ平だ
コスモスが揺れて拉致の子戻れない

鳥取市　棚田大

どなる奴逆にどなられくらくらに
句のとおり動いてみたらにらまれた
先を読めそう言う奴の声弱い
秋が来るいろいろな秋浮かべちゃう
現代も心のドアを締め忘れ

鳥取市　谷口回春子

人間も蟬も黙らす酷暑の日
プライドがバーゲンセール邪魔をする
家宝ですシベリアからの亡父の遺書
今の世は夫唱婦随に誤字がある
煽られて煽り返して地獄道

鳥取市　永原昌鼓

暴風雨人の無力を見せつける
ドア叩く音で誰だか分かる客
夏バテの筈が体重また増える
ローソクの炎が揺れる七回忌
ぐるぐると地球は回り朝が来る

鳥取市　中村金祥

警報が津々浦々に鳴り響く
医者通い気力体力金もいる
豊かさはまた雲の上税上がり
袋小路に入る世界の首脳陣
キャッシュレス人の心も消えていく

鳥取市　夏目一粋

老いゆけば背丈一ミリずつ縮む
人はみないのち縮めて生きている
東大を受けたエースが泣いている
年金を貯めて疑問符浮いてくる
ああだこうだと言い張って日が沈む

鳥取市　平尾菜美

味わって食べる程度の開放感
力強い第九の音に目が覚める
考える葦がスマホを煙に巻き
減反へやっと実りの花が咲き
いらいらの風おし殺す経を読み

鳥取市　副井ゆたか

自販機もコンビニも無い英の主都
世界遺産ブルージュぶらり一万歩
ブリュッセル　チョコの名店目白押し
こりゃ美味いランチに食べたムール貝
時差慣れた頃に帰国のタイミング

鳥取市　福西茶子

あの世へのはなししながら日向ぼこ
ハイハイハーイ逆らいませんお殿さま
腹ぺこなのに試食の列に並べない
昨日まで幸せだなと思ってた
ご放念下さい泣けば治ります

鳥取市　前田楓花

終章も支えてあげるそのつもり
大都会が好きと子供は街に住む
湯の町も淋しくなった下駄の音
ごめんなさいアポ無しだったので番茶
木枯らしが吹くと毎日鍋料理

鳥取市　山下凱柳

遊び心まだまだあるぞ老けられぬ
AIも自然の脅威止められぬ
安倍内閣キーマンなるか進次郎
シブコスマイル魅せられ俄かゴルフファン
天の声言うけどどんな声なんだ

鳥取市　吉田孔美子

ぴったりの形見十年もう離そ
ぴったりの天寿にしようゆるゆるで
体格を仰ぎ愛犬向き変えた
フェリー特等ヌードモデルを真似てみる
閻魔さま現の宿に今暫し

鳥取市　吉田弘子

庭掃除随所に夫の面影が
たまに来るポストに最早喪のハガキ
雑草も実る秋です前を向く
独り居に虫一匹も仲間です
外食をすれば財布が文句言う

倉吉市　猪川由美子

人生は予期せぬことで充ちている
人間同士は結局分かり合えぬ
軽減税率で食と新聞先ず安堵
財産持つと死後の手続き面倒だ
雅子皇后やはり不安が残ります

倉吉市　岡﨑美知江

一日のいくさをしめるひとり酒
明日開く花の小さな息づかい
ゆったりと反対を言う力持ち
日だまりで静かにお話しませんか
道楽で長生きしてるわけじゃない

倉吉市　田中紀美恵

美辞麗句まくしたてては背をむける
盆が来た亡母の魂手のひらに
脆い刃で猪の料理まずくなる
西瓜はなたたけば甘い味になる
太陽が隠れ夕日と手を繋ぐ

倉吉市　牧野芳光

三顧の礼で貰った鉢が枯れていた
自叙伝の始めは空の見える屋根
一時間よりも大事な秒がある
青春のキラリ酸っぱいものもある
弱いから心が過ぎた日に揺れる

倉吉市　山中康子

子の長所どんどん伸びる褒め上手
エアコンを睨まぬ過しよい季節
風邪ひかぬ血色よいとほめられる
よく食べて怠け放題お手の物
たまにするトイレ掃除がやっとこさ

米子市　池田美穂

くもの糸下りてスランプ抜け出せた
詠みながら文字がにじんだ事もある
新米の苦労釜から吹き上がる
母の米今年が最後かもしれぬ
お隣の猫デイサービスは我が家へと

米子市　伊塚　美枝子

おじぎする稲穂におじぎして通る
秋風に誘われて行くぶらり旅
平和な世被爆伝える資料館
縮景園みどりの中に被爆木
物言わぬ被爆樹木が凛と立つ

米子市　後藤　宏之

夢ばかり追って人生無駄使い
ほどほどのところで目覚しが鳴った
返信をすぐくれる人くれぬ人
ルール無視突き進むだけ恋の道
五割引ポイント五倍猫だまし

米子市　後藤　美恵子

目をこすり犬のデートのお供する
ブロック塀フェンスに変えて風通る
趣味入門鍵は要らない遣る気のみ
頬杖を転がるペンが叱咤する
三年は座っていたい石探す

米子市　中原　章子

ひとときのほろ酔い気分至福です
履きなれた靴でよかった安堵する
人の為に動く心はおとろえぬ
ほめ言葉心の隅に住みついて
硬と軟バランス保ち賞をとる

米子市　成田　雨奇

待ってはいないが台風外れたのか
鵜が来たぞ渋柿熟したぞ
カーポートに干し柿吊った見えるかい
ひさびさの居酒屋病気自慢する
台風に市役所踊らされている

米子市　野川　宣子

服脱いで仮面外すとああ我が家
脱いだ靴そっと揃える幼い手
男にも女にもある守備範囲
ほどほどに幸せですと墓の前
娘と嫁が手出し口出し忙しない

米子市　吉田　陽子

小鳥も蟬も鈴虫もみな耳に棲む
半日も歩けば晴れる家事放棄
歩道橋ふわり旅情に包まれる
早足の記憶ばかりがある小路
ダルマさん買って目標見つからず

鳥取県　門村　幸子

一杯のトマトジュースに朝来たる
ごっつんこ壁にぶつかり「生」おもう
「検査セーフ」やっと普通に景色見え
鏡覗く晴れやかであれ健康度
しあわせはご飯の炊けるいい匂い

鳥取県　斉尾くにこ

ご機嫌でいること大人でいること
青ネギを足すと笑ったカップ麺
リスペクトしているからの嫉妬心
過去未来ひとりにもどるエレベータ
愛しい人が静かに笑っている

鳥取県　竹信照彦

目覚めよし血圧もよしテレ体操
ひと呼吸おいて始まる今日がある
十年目の金魚に朝のご挨拶
さて何がどうなることか我が家計
年金者ボーナス無しが身に応え

鳥取県　細田裕花

頑張った君の背番号は誇り
会話減る背丈が伸びた分くらい
女子会の足並狂う診断書
そよ風を演じ過ぎたか疲れ気味
ミサイルに抵抗しつづける言葉

鳥取県　山下節子

母の勘アンテナよりも正確だ
ありがたい横でサポート妻が居る
難読の地名ローマ字あって読め
作戦を読まれていたか臍を噬む
自慢話聞きあきました横を向く

松江市　石橋芳山

ノックオン・スクラム・トライ血が騒ぐ
秋空にふわりニーチェになっている
大海は自由か魚群れている
肝っ玉キリリと吊り橋を渡る
頬杖の向こうで揺れ出した記憶

松江市　松本文子

哀しみを時々青くする若さ
俎板の上で歴史を切り刻む
元気だった頃の街角振り返る
師の句碑を見守る海に陽が沈む
たくさんの涙流した湖暮れる

出雲市　伊藤玲峰

呆けぬよう五七五を欠かさない
暑さ去りおいしい秋を賞味する
役終えた案山子に足湯させてやる
胸底の影一匹が出てゆかぬ
私の生きるリズムも五七五

雲南市　菅田かつ子

乗せられているナと思うが出る元気
放浪の旅に出てゆく白い雲
コーヒーを供え遺影へ話しかけ
おーいおい亡夫の声がしたような
口げんか出来るあなたはもういない

風立ちぬ十七回忌の香ゆらす
分水嶺跨いでやってきた手紙
目の手術生きてきた皺見せつける
少年よ好奇心持てノーベル賞
施設暮らしのわたしにも来る台風見舞

東かがわ市　川﨑　ひかり

ひとりでもあれこれ悩むお献立
消費税灯油三缶買い溜める
一文字も乱れぬ母の遺言書
内乱の犠牲幼児の細い腕
威圧感一糸乱れぬ兵の列

松山市　栗田　忠士

木守柿が一つあるぞとカラス鳴く
犬掻きのままで昭和が往きました
滑って転んで僕はやっぱり昭和人
縺れたりほぐれたりして生きている
人間の声する方へ寄って行く

松山市　古手川　光

為残しが一気に攻めてくる終期
全国一位うれしくないんです猛暑
台風よそんなに日本好きなんか
秋晴れが私の鬱を吸い上げる
改葬をして故郷へさようなら

島根県　伊藤　寿美

好き嫌いあって鰻が食べられず
通販の笑顔温もりなど要らず
あなたらしくないと弱音を叱られる
介護2の友にメールで励まされ
素っぴんの顔年齢は正直で

松山市　柳田　かおる

なぜだろう土の匂いにほっとする
お祭りなのに金木犀が香らない
有頂天努力の汗を無駄にする
ロスタイムもっともっとと悔いばかり
日本を支える分母たりないよ

西予市　西田　美恵子

深呼吸胸のつかえが少し取れ
夢も見ずバッタンキューで朝が来る
菊日和しばらく君を待ってます
空に雲私に今は何も無い
少し海馬にかすみがかかっているようだ

唐津市　坂本　蜂朗

ちょっと無理しながらちょっと長く生き
香典をまた包んでる生きている
友の通夜小声でオイと言ってみる
故郷まで妻付いて来て根を下す
団栗が背比べしている平和

松山市　宮尾　みのり

戦争も無いに膨らむ防衛費
冤罪の怖さ還らぬ青春譜
産休を取れと知事どのご推奨
誘われたエステへ母の足弾む
税さえあがりゃ理念もほうり投げ

唐津市　山口高明

天高し何時もモグモグつけが来た
留守番と水遣り頼み夫婦旅
荒波の業で洞窟20ヶ所
船と入る洞窟怪し天の闇
海は凪ローソク島の陽がまぶし

熊本県　岩切康子

白く黒く噴煙吐いて阿蘇に秋
オリンピックイヤー台風さんお静かに
辞書引いて鍛える手指の活性化
草刈りの匂いに湧いて出る生気
満心が服の綻び知らぬまま

熊本市　杉野羅天

後悔もくよくよもしない過去その他
超快速月日の流れこわくなる
月末の楽しみふえる塔誌来る
仏さまと手作りのすし食べました
老いの愚痴そうですよねと語る風

北九州市　小松紀子

彼岸花今年も同じ楚楚と咲く
避難所設置防災無線早々と
轟音を残す夕暮訓練機
納得をするまで聴くよ深夜便
思いたち足はやっぱり球場へ

（前月分）岩国市　上村夢香

西澤抄

（つづき）

釜の中旬のお米の鼓笛隊
うれしい日ピンクのバラに耳打ちを
ディスプレー庭の枯れ木が息を吹く
秋の空女心と鬼ごっこ

沖縄県　宮すみれ

前　たもつ前会長追悼句会

日　時　12月14日（土）13時より
会　場　住まい情報センター（大阪くらしの今昔館）
　5階研修室
　大阪メトロ「天神橋6丁目」
兼　題　（各題3句）
　「山びこ」
　「　前　」
　「保　つ」
　＊追悼句（　1句）
　＊席題あり
　＊欠席投句　12月11日（水）必着
　　84円切手5枚
投句先　〒569-1124
　高槻市南芥川町9-28-901
　　松岡　篤宛
　（電話　072-655-1920）
主　催　南大阪川柳会

自選集

新米が届いた新秋刀魚を買った
ほのぼのと風邪をもらったひと想う
赤とんぼが消えた夕日の中に立つ
一生懸命でしたと日記には書いた
大会は終わった　師の句碑に礼

小島蘭幸

遠来の友をもてなす津軽三味
足元が丈夫なうちに友とあう
腐葉土の褥で虫は冬仕度
夕焼けを漕ぐブランコと風の私語
真夜中の電話不吉なベルの音

福士慕情

神無月神もきっと来る公園
生涯は保険で任すこの生命
ころころと予定の変るのも家族
生涯現役介護惜しまず力こぶ
一本の絆が光っているのも介護

宮西弥生

被災地に追い打ちかけにくる豪雨
異常気象もう異常とは言えぬほど
世界中戦火燻りだしてきた
分断が蔓延りだした地球上
ラグビーのにわかファンが湧いて出る

村上玄也

裏切って出たジグソーの一ピース
ゴキブリは瞬殺避難指示は無い
ガラケーと死語で堂々生きてやる
O型のウラの性格がピッタリ
派手に熟れても渋柿は腐るだけ

森山盛桜

得心する

残酷に老い突きつける朝の鏡
てのひらの今もすぐさま過去になる
現実の辛さどれほど足掻いても
出来ぬことは諦め出来る事はする
不本意だけれど得心するつもり

八木千代

昭和平成令和と歩む秋の道
老老介護ひたすら風に逆らわず
秋の本棚読みたい本を積んだまま
短日へなお終活のはかどらず
訃を聞くたび明日の我が身へ秋の風

山本希久子

北風に吹かれて参る一心寺
冬蛍往ったり来たり泉岳寺
先生はなぜ走るのかみそか蕎麦
晦日そば食べて射手座は鯖を読む
人生の大波小波旅立ちぬ

板尾岳人

よく弾む手毬そろそろ適齢期
打ち上げた花火開いた事がない
寝て暮らすこんなしんどい事はない
良い話だったと寝てた人が言う
うとうととしながら人間に戻る

川上大輪

言霊の幸ある国ぞ五七五
母楕円父正方形の家育ち
抱く為の両手と目指す為の足
北斎の絵から波音聞えそう
擦過傷屋台の酒で洗っとく

北野哲男

うつらうつら猫も金魚もわたくしも
城の見える町でゆっくり根を下ろす
あと一枚脱げばこっそり翔べたのに
わたくしの背骨は本で出来ている
秋風に過ぎたことだと諭される

木本朱夏

しあわせは令和も同じ稲の出来
農に生き農をつらぬく太い腕
夢を追う鏡だ丸くまるく拭く
ちぎれ雲ちぎれた訳は語らない
鍬を振る汗から生まれ出る希望

斉藤劦

冷や飯のおかげ逆風には強い
老後などなんとかなると飲み歩く
飲み重ね国家財政支援する
悪口を吐いてふわりと眠りつく
酒臭い小便が出る午前二時

新家完司

主義のない男の粋な処世術
根が真面目ですから指切りはしない
どんどんどんどん良心の呵責
投げキッス誰も受けとってはくれぬ
残高微妙脳細胞も通帳も

高瀬霜石

私誰　顔認証に問うてみる
平和かも同じ仕種で夜が明ける
ゴールデンバットも消えて世は令和
真夏日となる神在月の大異変
五七五底に流れる師の教え

竹治ちかし

バースデー自作自演の茸づくし
瓢箪を6ッ描いた飯茶碗
突然をもてなす知恵は揖保乃糸
ど忘れを笑い飛ばして秋の空
となりから今年も美味い祭りずし

津守柳伸

丸かった人生いまは点になり
仏壇のほかは花のない部屋である
音のするものなにもない夜の部屋
赤飯をひとりで祝う誕生日
秋空に負けてはいない曼珠沙華

都倉求芽

逆縁の痛み一入冬間近
四十九日息子オトンに会ったかな
逝った子が居たらと思うことばかり
子の分も長生きせよと言われても
親不孝者時には恨みごとを言う

西出楓楽

待たすこと待つこと平気ビール飲む
ひぐらしや別れる道の右左
ソーダ水訛りおかしくおもしろく
九十歳(きゅうじゅう)の白髪光り夏袴
戦争を知らぬ娘ばかり盆踊り

土橋螢

元号派西暦派あり十二月
基督の釈迦の鐘聴く十二月
歳時記と遊べや師走十二月
形容詞ともあれ着いた十二月
付録かもしれぬ八十路の十二月

仁部四郎

年末がなければ正月も来ない
波の瀬に揺られて正月を迎え
年の瀬があって解決できること
大晦日まだもう一人帰らない
十二月八日知ってる世代減り

三宅保州

第16回 川柳『信濃川』新春誌上大会

＊新作2句・定型のリズムでお願いします。

課　題　「か　み」

選　者　13名共選
相田　柳峰・みぎわはな・平井美智子
坂本　加代・永見　心咲・倉益　一瑤
瀬戸れい子・吉道航太郎他

締　切　1月31日　消印有効

投句料　1000円
(野口英世さんか郵便小為替)

賞　1位　魚沼産コシヒカリ　10キロ　他

投句先　〒940－2042
長岡市宮本町3丁目－2433
相田　柳峰宛

川柳塔の川柳讃歌 ⑰⑨

上方芸能評論家　木津川　計

後期高齢今も小さなこころざし

上田　和宏

詩人の杉山平一は90歳で詩集『青をめざして』を上梓した。その中の「マッチ」はこんな詩だ。「アンデルセンの少女のように／ユメ見ることのできるマッチを／わたしはまだ何本かもっている」と。さらに詩「出発」の末尾で「何処へと人はきくが／未来は見えぬもの／とにかく行くのだ／おのずからひらけるのが／道というもの／前へ前へ　何かがぼくを押すのだ」とも。享年98だったが希望を失わなかった。和宏さん、こころざしと共に。

昔の十年今一年で過ぎ

前田　洋子

年をとるほどに歳月は早く過ぎる。70代は1年毎に老化するが、80代はひと月毎だ。90代は日一日死に向かう。それに、1年の長さは年齢分の1としたもので、10歳の子供は10分の1だから1年が長い。私は84歳だから84分の1、あっという短さである。男の場合の死亡適齢期を70代末から80代半ばとすると、いよいよ後がないだけに杉山平一の「マッチ」に希望を託すのである。洋子さんが持っているマッチは数十本の筈です。夢が一杯です。

円満のポイントまん中にチワワ

緒方　美津子

アメリカと日本の家族像は全く違う。アメリカの家族の中心は夫婦であり、その周りに子供がいる。日本は「子はかすがい」で子供が家族の中心なのだ。その子供は成長すれば独立する。すると、かすがいがはずれるからぎすぎすしたり、隙間風が吹いたりする。犬や猫が大人気になるのも「ペットはかすがい」の役を果しているからだ。美津子さんご夫婦の円満もひとえにチワワくんのお陰である。ありがとうと礼を言い、大事にすることです。

趣味いくつこころ豊かに生きている

岸本　宏章

趣味には力がある。それを私は「趣味力」ととらえて、つとにその力の大きさを説いてきたものだ。どういう力か、以下列記する。①向上心を与える。②達成感のよろこびを味わせてくれる。③夢をふくらませてくれる。④遊びのよろこびを知る。⑤人生を楽しみながら生きる、以上の五点だ。いまの70代は60年代高度成長期の青春で〝ど根性〟を煽り倒された世代だった。豊かな趣味を楽しんでこそ人生の収支は合う。宏章さんも趣味と共に。

青信号点滅したら次を待つ

片山　かずお

何をしても動作が緩慢になった私である。ステッキをつかねばよろける。だから急いでは歩けない。広い交差点では渡り切らないうちに信号が点滅する。渡る途中に緩衝地帯があると、そこでも青信号を待つ。動作だけではない。判断にも決断にも暇がかかる。すべてがのろいし、とろい。案じているのは喋りである。一人語り劇場を続けているから呂律が回らなくなったら店仕舞いと心得ている。かずおさん、慌てず、ゆくとしましょうか。

ヘルバーがときどきもらすどっこいしょ

加島　由一

「どっこいしょ」は仏教用語で、富士山など霊山に登るときの掛け声「六根清浄」（ろっこんしょうじょう）がなまったものと言われる。この原義に従うなら、迷いを断ち切り、心身を清めてヘルバーは努めてくれているのだ。有難いと思うと同時に、高齢での働きにいたわりのことばをかけてあげることだ。由一さん、ご自身の動作にも「どっこいしょ」と言うのは、老いた体へのいたわりですよ。

川上大輪選

河内長野市　原熊　知津子

振り向いてくれない君が気にかかる
真っ直ぐ立つそのままの君それがいい
照れてると少年になる君が好き
こだわりが私をわたしらしくする
斜め視線上目づかいの十五歳
先端の光るナイフのような人

大阪府　奥野　健一郎

代役はいっぱい居るとプロデューサー
サービスの悪いお店は忘れない
立ち直らせてくれたのは君のお世辞
何ひとつ武器もたぬから神頼み
反論の前に濃茶をひと啜り
立派だね打たれる杭になったとは

三田市　生田　えい子

母の背をさすって想う幼い日
孫の目を盗んで食べるアイス棒
ポッコリのお尻振りふり保育園
気もそぞろ足がもつれて胆冷やす
ナビに無い抜け道探す片田舎
鍵忘れ孫の帰りを庭で待つ

神戸市　近藤　勝正

独り居の愚痴を金魚も聞きあきる
空耳か背中伸ばせと亡母の声
七草は昨日おぼえたはずなのに
うらやまし骨の心配ないクラゲ
靴底の土に語らす徘徊路
上弦の月に希望を膨らます

貝塚市　吉道　あかね

コスモスの海オカリナの風が吹く
故里の友の訃に溶けてゆく
ふるさとがだんだん遠く老いて来た
残す物捨てる物あり衣更え
別腹のせいで向かないダイエット
これからも見よう見真似で生きて行く

三木市　山口　ヨシエ

ひたひたと潮満ちて来る思慕追慕
着地点変えてわたしのテリトリー
たっぷりの陽射しに蘇生する詩嚢
たおやかに生きる明るい絵を描いて
輪になって燥ぐおんなの愛百話
回り道訣れた人の影を追う

伊丹市　延寿庵　野　鶴

足湯して無縁な人と弾む毬
安らぎの風やんわりと座禅堂
手のひらに秋を一枚乗せて酌む
シャボン玉こわれたままで旅終る
せかせかと刻が逃げ行く砂時計
返信がカバンの底で欠伸する

池田市　上山堅坊

二次会の付いた句会は宝物
別荘に住んでいるよな独り者
雨ポツリ洗濯物を思い出す
真ん中でしっかり舵を取った亡妻
鋏よ鋏どうして君は隠れるの
黄昏をほんのり赤く染める趣味

和歌山県　森下よりこ

わだかまり自然にとけてゆく歳に
孫の指ことさらやさし肩に触れ
表情が美しい指先の会話
年金と折り合いつけて日々平和
ひとしきり手足動かし朝始動
一日の準備体操自分流

今治市　渡邊伊津志

十指皆一本ずつにある苦労
すんなりと平和を作る難しさ
目の黒いうちは消すまい好奇心
真実が見えぬ空虚な目に出逢う
核心をじっと握っている笑い
耐えた日がまた蘇る八月忌

安来市　原　徳利

独りでもできる誕生日の祝い
笑えない話に掛ける塩コショウ
気の利いた話今夜も呑めそうだ
認知テスト今日は何日何曜日
ひと月の感謝を込めて暦剥ぐ
迷惑を掛けない程のちさい欲

佐賀県　真島久美子

裏ばかり読んで猫背になっている
新鮮なはず金曜の化けの皮
ままごとの延長線で鍋を買う
天秤に乗ったつもりの待ちぼうけ
つむじ風どうあがいても会えぬ人
ＬＩＮＥして触れて私と同化して

仙台市　月波与生

じいさんになって開いた玉手箱
掃除機を開けると猫のいた匂い
天国にも行けずティッシュ貰ってる
太陽光パネルの裏の行き止まり
裏声で歌う私の挿入歌

黒石市　千葉風樹

シャッター街ヒトに会いたいヒカリゴケ
信号の黄色に架かる丸木橋
ねちねちと写経でつなぐ赤い糸
神様のくれた笑顔という権利
空き缶を蹴ったら人が消えました

五所川原市　むらの　ひとり

使い手は選ばないけど使い捨て
人の道有罪無罪の擦過傷
雑草は大統領も怖くない
段々と正座ができる経の中
幸いに争いになる物もなし

白河市　鈴木たけし

上からの目線で測れない高さ
忘却はあるが削除キーはない
不揃いのはずのジャガイモLばかり
更地にもなれない里の休耕地
天敵に耐えても虫が蝶になる

横浜市　加藤佳子

大阪の風は本音で暖かい
一人旅まだまだいけるフォルティシモ
四天王寺太子の偉業ここに知る
八戸の里司馬遼太郎忍ぶ旅
六万の蔵書に浸る記念館

神戸市　奥田宗光

もう少しこのままがいい腕の中
目覚ましは夫が刻むネギの音
手拍子は痛くなるまでアンコール
大型台風ここまで日本いじめるか
平穏なリズム戻して回復期

神戸市　斎藤隆浩

グレイヘアに優先席を譲られる
ブレーキを踏める間はベンツ乗る
健康寿命もっと延ばしてぴんころり
ハードルも下がる投句日近くなり
削除キーうっかり触り水の泡

神戸市　松倉正美

蔵整理鑑定に出す宝無い
掻い掘りで出るわ出るわの外来種
美味いパン求めて並ぶ長い列
流行る店親爺頑固でママ美人
歯目ときて次にくるのは脳味噌か

神戸市　山根弘華

踏まれても意地と度胸で昭和生き
片意地を張って友から爪弾き
呆け演じ今日の別れはおだやかに
令和あけ昭和のきおく枯れはじめ
〆切に名句浮かばず大慌て

尼崎市　清水久美子

私の自負が許さぬ片思い
対等に付き合えぬなら切り捨てる
子飼いなら良くも悪くも負いましょう
損得を考えてないてんこ盛り
夢よりもバカを見させる宝くじ

伊丹市　岡村風琴

わけありと書いてバーゲンよく売れる
ボブ・ディランゆっくりハート燃え上がる
ヤジロベエ風の形をしかと見る
人間の狭間を繋ぐ万華鏡
花筏迷う形でゆるり行く

小野市　田中辰夫

時間は役立つ妻の捨てぬ物
通り雨角槍出した蝸牛
わかってる誉めて育てと言うけれど
やんわりな妻の言葉に角を見る
老いてなお恋は真っ赤な曼珠沙華

三田市　稲角優子

幸福をさがしあなたの切符買う
続き柄しみじみ妻と書きました
乳房はるこの幸せにはずむ夢
授かりし君は神の子絵本読む
風の声友の訃報をそっとおき

三田市　辻開子

秋なすを五十で食べて美味しさを
年ごとにサクラ咲く日が怖くなる
冷え込みが老いの体を進ませる
道の駅旬と鮮度に飛びついた
朝寝でき今日一日は元気です

三田市　中山寅男

銀ブラで脈が時々ハイジャンプ
杖つけど気品溢れる歩き方
採血で人見知りする我が血管
教壇にママの香りだ一年生
誤診だと信じた身体軽くなる

宝塚市　太田としお

犬誉めて奥さん誉めてお近づき
たかが野球されど野球のトラファン
お願いします私の時は散骨に
老いましたとっても苦痛墓参り
物干しで家族構成透けて見え

丹波篠山市　藤井　美智子

祝傘寿子孫全員顔揃え
米寿まで元気で登ろう八十路坂
相手にも自分と同じ思いやり
胸の内どんな思いも許される
貧乏性また出てしまう苦笑い

西宮市　髙橋　千賀子

役目終え雀と遊ぶかかしの子
俺よりは妻が上だと判るポチ
古着でもおしゃれ上手なおばあちゃん
パソコンで一人遊びが上手くなる
見直しても削るところの無い家計

奈良市　加藤　江里子

再会で過去がゆっくり動き出す
ジョーカーがずっと私の手の中に
玄関にぽつんと残る母の杖
コンサートの余韻コートに包む夜
ノーサイド人生もまた明日がある

生駒市　児玉　規雄

ラグビーのボールにも似た我が人生
僕に無い勝負服とか勝負飯
どこまでも右肩上がりの消費税
菓子折の底に隠れる悪だくみ
空気など読まずに吸って吐いている

和歌山市　倉橋　悦子

消費税爽やかな秋重くする
前走る蛇行運転化粧中
新薬を試す人間モルモット
素直にも頑固にもなる腹の虫
吹っ切れた地球は今日も回ってる

和歌山市　定松　宏枝

定刻に行ってしまった路線バス
節くれたこの手だんだん母に似る
人生は山あり谷あり棒グラフ
広告の無料の文字に二重丸
不信感捨ててすっきり秋の空

和歌山市　西川　千鶴

丁重に辞退しました玉手箱
今生はリハーサルだと思ってる
終活をそろそろしろとちちろ鳴く
独りには独りの意地がほっといて
愛妻家他人に言わせりゃ恐妻家

和歌山市　まつもと　もとこ

産声を包み優しくなるタオル
この恋を書き終えるまで走るペン
みかけより強いぞ茹でたモロヘイヤ
キャッシュレス諭吉が遠い人になる
お金よりポイント貯めて得ですか

背中押すアクティブな十月の風
秋色に染まりたくなり嵐山
粋がって背伸びしている痩せ我慢
撫でられて転がりそうな自尊心
正論を呑んで風邪ひく天邪鬼

大阪市　石田孝純

十二月正月なんか来ていらん
十二月奥の手すっと妻が出す
どら声を武器にしているお父さん
M生れに教えこまれた低姿勢
隠し事なんにもなくてよく睡る

大阪市　柴本ばっは

ノーベル賞今年も秋を輝かす
妻多忙茶花の手入れ怠らず
新聞が好きで退屈せぬ余生
爽やかな気分補聴器買い替えて
転んだらたいへん手摺頼りです

大阪市　樋口眞

辛くても何時かは底を抜け出せる
戦争だった辛いと言えぬ親も子も
父さんはまぐれだったと又ニヤリ
忘れたい事も思い出懐かしい
行先を何度も迷い銀杏散る

大阪市　森廣子

免許返納夫婦出かけてバスを待つ
寝て八時起きて三時でビデオ見る
ゼニになるニュース役者の離婚劇
犬逝って帰宅出迎えなし悲し
小銭ない神社立寄りパスにする

堺市　古川光雄

心の糸切っちゃ繋いで四十年
ジグソーパズル最後のピース見つけたり
つないだ手強く握って歩く母
犬にゃ名をボクにゃちょっと呼ぶ家内
月面探査 月見が野暮にみえてくる

池田市　倉本一弥

終活に理想の葬儀プラン立て
レシートにどこに行ったかばらされる
仏壇に留守番頼み旅仕度
二千万有るか無いかを子が尋ね
テレビ見て夫と夜長をもてあます

泉大津市　助川和美

じじばばが二手に分かれ孫の世話
ずるずると老後資金が消えてゆく
残高ゼロぽっくり逝くか宝籤
がらがらぽんこれが最後の運だめし
父と母待つと思えば恐れぬ死

河内長野市　穂口正子

河内長野市　渡邊　修

古希過ぎりゃ無職の欄は先に書く
菓子底は必ずさぐる新部長
増毛剤周囲見渡しそっと買う
ほめられて女房素っぴん押し通す
あおり御免車前後に貼るシール

高槻市　三谷白黒

バレるまでやめなくて良い偉い人
去年より丸くなってる自分です
孫が言う仕事は畑趣味は囲碁
現金が安心ですよ年寄りは
節約が還元よりもお得です

豊中市　荒木郁子

アイデアの田圃アートが観光地
お試しに弱くついつい乗せられる
伝統の祭受け継ぐ子供の目
日没を待ちおもむろに風の盆
消費税アップそれでも頑張るわ

豊中市　貝塚正子

挨拶は笑顔ですると決めている
間食はしないと決めた明日から
おしゃまな子ママの真似してパパ叱る
どうしよう服が縮んで着られない
やけ酒も銚子二本でけりが付く

豊中市　齋藤奈津子

打ち水も増税分を控え目に
相合い傘小さい方が僕は好き
曖昧があって仲間とうまくいく
おみやげで風向き変わる妻の顔
笑いの壺ぴったり合ったのが決め手

津山市　髙橋由紀女

脳内を分別出来ず大雑把
イケメンにまだときめいて老いの性
往年の百日草が咲き誇る
窓際の温さに集う至福時
前頭葉に日毎そっぽを向かれてる

広島市　松尾信彦

頑張った足腰褒めてきょうも飲む
里帰り消えた柵顔を出し
エプロンのポッケにあった目分量
子に抜かれ子に諭されて目を細め
ところでと本音を入れる一筆箋

尾道市　小畑宣之

世界平和まずは身近の家庭から
休刊日忘れて今朝も取りに行く
苦労してまた苦労して実る幸
「実はね」が妻の口癖秘密好き
お金持ち義理と人情忘れ勝ち

作句して認知症など寄せつけぬ
ねころべば戦の傷がしゃべりだす
もう初心お忘れですか影笑う
切りつめた暮らしに嬉し柿たわわ
にっこりと笑い鏡と対話する

瀬戸内市　宮宅比佐恵

わらべ歌で締めた最後のクラス会
そうじゃのう　のうやのうやのクラス会
この辺でキリをつけたい顔ですな
しっかりと食べていますが痩せている
つり橋を揺する勇気はもう持たぬ

府中市　岸田　武

栄光の跡は見せない再生紙
履き慣れた靴で余生の群れに居る
たちまちの命を貰う給水車
釣竿の先に吊るしてある自慢
哀しみを怒りを知っている反旗

三原市　笹重耕三

ゴキブリを追って転んで逃げられる
耳遠い母と内緒が話せない
父の髪三日使った加美の素
五体満足生まれりゃ少し欲も出る
高いヒール履いて走った若い頃

山口市　青木隆子

秋のシナリオ栗が弾ける音がする
紺碧の海は裏切らないだろう
回転木馬でゆっくりと四季巡る
振り向けば蛇行している足跡だ
底の無い空へオブジェの雲が浮く

山口市　中前幸子

それぞれの道を歩んだ友の文
群れて咲き折れても起きるコスモスよ
南瓜切る力任せか要領か
話し下手せめて愛嬌聞き上手
昨日の失敗朝シャンでドンマイ

鳥取市　大前安子

足元はいつも怪しい月明かり
台風のニュース予定もみんな飛び
まわり道したから会えた流れ星
散りかけの花びら誘い風が吹く
宿根になる心配の種ポトリ

鳥取市　山野すみれ

マイバッグ地球に優しことをする
保険証くすり袋は旅の友
ずれてきた開花の時期の彼岸花
庭の花仏花に合わぬものばかり
ミスしたら早めに詫びて軽くする

倉吉市　大羽雄大

倉吉市　宮田風露

秋の食逆戻りするダイエット
目的地あと一歩だが腰おろす
名月に見とれて足は水溜り
空の旅雲の変化を楽しんで
娘と孫とひ孫ねぶたの里で合う

倉吉市　若松由紀子

隠すもの何にもなくて日々平和
八十路坂イエローカード抱いて寝る
気持にはついて行けない頭足
ありがとう感謝の言葉すぐに出ず
枠にはめ育てた息子なぜ歪む

米子市　川本美津子

ブレーキをかけて夏バテ予防する
泣き言を詰める袋を捜してる
面倒な事はボケてるふりをする
長生きは金と相談して決める
ビール飲み今日の自分を誉めている

米子市　妹能令位子

ちょっとだけ不幸で人が寄ってくる
角隠し絶滅危惧種の花嫁
断捨離をやった端から拾う母
博識が彼の魅力を邪魔してる
独身の子がいて老後見通せぬ

米子市　戸田真理子

どん底にいるから光だけを追う
嬉しくて淋しさが増す亡父母の夢
几帳面で三角定規離せない
ドアの向こうきっと笑顔に違いない
ハズキルーペかけても読めぬ格差の世

鳥取県　飯野菖子

花が咲く庭は私の自由です
朝市へ私の野菜トップです
子育てに親は台風にもなって
鍬を振るこれでしっかりリハビリに
過去のこと胸に畳んで天国へ

鳥取県　橋本整

お爺さん早くおいでと亡妻が呼ぶ
もうすこし行かぬと答え目が覚める
年重ね涙腺締らぬそれも幸
温暖化地球泣いてる叫んでる
室内でウォーキングして元気です

松江市　山根邦代

好物を知ってて届く誕生日
友の声笑いで元気貰い受け
跡継ぎのいない農家の米づくり
何もかも投げ出してする好きなこと
褒められりゃ素直に受ける年となり

益田市　篠原紋次郎

一円玉元気になって活躍す
今宵また演歌に学ぶ詩心
雨の日もじっと我慢の地蔵さま
喉よりも手足で歌うのど自慢
極楽へ行く道にある交差点

阿南市　小畑定弘

浅蜊汁生きねばならぬ一人分
老人も跳べというのか水たまり
祭笛そして私は村を出る
カミソリと呼ばれたこともある履歴
ママ一人小さな店の灯を点す

松山市　郷田みや

ショートメール誤解したのはあなたです
辻褄を合わせた後にある弛み
思い違い追いかけたのは影でした
失点を恐れまたまたファーボール
香らない金木犀のひとり言

今治市　永井松柏

ドローンに覗かれていた金魚鉢
円周率ぐるり女の長電話
分別の足で歩いている百足
カップ麺で何とかしのぐ妻の乱
アリバイは無いがススキの穂が揺れる

大洲市　花岡順子

自己制御できないほどの有頂天
土壇場へ意地は張らないだんごむし
道半ばそろそろ息が弾みだす
ありのまま生きて揺るぎのない柱
聴診器熱い鼓動を聞いている

宮崎県　黒木栄子

ありがとう義姉はやさしい風になる
耳たぶへ錠前掛ける頑固者
わたくしの本心母は知り尽くす
再発の不安抱いて娘は歩む
懸命に一家支えた母の背な

沖縄県　あらさくら

話し合う苦楽持ちよりいこいの場
ほしいもの出すばあちゃんはドラえもん
母の背にライフスタイル描かれる
人のクセノートに書くと個性的
飛びきりの笑顔つくって病室へ

福岡県　本田さくら

主なき家を守るか曼珠沙華
窓あけりゃしあわせ呼ぶか今日の風
不便でも田んぼに山で良しとする
若いねといわれ世辞でもうれしいな
勤労感謝孫のお守りで明けくれる

やがて逝く地獄極楽紙一重
白無垢に染まった色が鬼になる
地下足袋に残る敗戦後遺症
金婚式苦難のり越え金メダル

弘前市　髙森一呑

過ぎ去った武勇伝だが枯れてない
手加減はいらないのです意地がある
負け方が上手になって上がる株
こだわりを捨てて気楽な揺れ加減

黒石市　北山まみどり

寒いので冬の余白で過ごします
過去のこと漬物石に聞いてみる
踵から冬のサインが送られる
冬物がタンスの中で騒ぎ出す

栃木県　廣瀬良磨

退職後心配事が無い悩み
頭と体バランスとって趣味二つ
激太りベルトの穴が慌て出す
GSとフォークソングが青春譜

富士見市　中島通則

親祖父母みんな楽しみ運動会
年末の旗日なくなり肩落とす
クリスマス遊戯出し物考える
夢を持ち続けることの素晴らしさ

東京都　髙岡弥生

オイこらと監視カメラに言わせたい
騙されまいぞ緊張の電話口
ラグビーのルールテレビで学んでる
髭をはやせば強そうな選手達

横浜市　巌田かず枝

温暖化防止少女に喝を入れられる
あたりまえが幸せと知るこの歳で
修理代高いが捨てる気になれぬ
タピオカティー飲んで時代についていく

神奈川県　小田幸子

正論が自己主張につぶされる
傲慢と偏屈同居無敵なり
明日に向け進歩信じる九十四歳
人類よ地球のあえぎ聞こえぬか

名古屋市　冨田末男

志持てば歴史が動き出す
越境をすれば持てそう夢数多
過去形の母の話に情がある
それぞれのらしさが生きている絆

名古屋市　山本三樹夫

漁火が心の荒み和らげる
愛犬の癒しの褒美日日介護
残り灯を大事に歩む喜寿の道
温暖化エゴで防止が進まない

運転手さん近いところですみません
忘れ物頭に浮かぶ妻の顔
匿名で自分勝手の投書箱
腹八分細く長くの人生路

江南市　脇田雅美

ひとりだけ雨女いて傘の旅
白黒をつけたがってるワイドショー
ポンポンツーポポポポMRI
ピアス穴閉じない程度オシャレする

豊橋市　小松くみ子

帰るとこあれば別れていた本音
運動と思って続くアルバイト
流行など気にせずおしゃれ自分流
ラグビーで諦めないをまた学ぶ

豊橋市　西郷紀美代

コップ酒笑い上戸に鞭入る
軒先の風鈴チリン寝酒かな
虫の音に杯重ね秋夜長
もう一杯妻が目をむく秋夜長

石川県　堀本のりひろ

川柳で気持のワカル仲間たち
吐露すればつかぬことでもらくになる
他人のミスばかり目につく注意力
ない袖は振れず被害はありません

神戸市　石川克美

人が好き触れ合う人は全て好き
日捲りを剥ぐたび遠くなる昭和
窓全開秋のムードを独り占め
妻の留守択って宅配やってくる

神戸市　大頭としお

半世紀都会の端に刻み住む
我が人生失言試練悔やまない
言い訳の一束今は笑いネタ
ぐつぐつとぶり大根が間を醸す

神戸市　興水弘

友からの便りあの声思い出す
未熟でもヒト科生まれの私です
コスモスの花が騒いで秋になる
目に見えぬ壁が私をこばんでる

神戸市　田本古鈴

客観視坐禅組んだら出来るかな
バイキング気ばかり焦り味わえず
見られてる意識を持って街歩き
増税に負けんぞ五パー節約だ

尼崎市　寺嶋恵美子

いつ帰るん母が呼ぶから帰省する
雨傘を君の方へと傾ける
もらった飴鞄の下でへばりつく
今からは好きな事だけやって行く

尼崎市　山田厚江

姑と嫁が連合俺痩せる
八十路過ぎ最近特に神頼み
女子会は自慢話とふり返る
ヘソクリに頑張ってねと妻のメモ

伊丹市　平井富夫

宿題をママはパソコン検索中
誤字発見投函済みの五七五
京町屋老舗百年まだ若手
増税前妻の強制小遣ゼロ

三田市　幸田厚子

百数年大樹の木犀むせかえる
秋の夕三味の音さえも物悲し
手アイロンお膝の上でシワのばし
悪人も幼い頃は皆天使

三田市　住吉美和子

追い焚きを苦笑いするぬるい風呂
寡黙でもその一言が味になる
今日の事明日とは違う風見鶏
言い訳はやめた真っ直ぐ見つめ合う

三田市　東内美智子

秋なのに投げ出す暑さ草むしり
診察も番号呼ばれあれ私
姦しい話途切れる事がない
手は貸さずうまく夫に煽てられ

三田市　森玲子

山上の贅沢足下に摩天楼
膝小僧堅いベッドを覚えてる
チコちゃんにいつか仕返しせにゃならぬ
不味いというサインを込めて食べ残す

宝塚市　岸田万彩

朝起きて鏡に向かいよろしくね
床につき今日一日を振り返る
自分から魔法のクスリ笑顔です
相手には何の不足もないけれど

丹波篠山市　澤良子

颯爽と歩く姿を夢に見て
若者よ動く歩道でなぜ歩く
法事する故人を知らぬ曽孫たち
亡き人の植えた柚の木孫の手に

丹波篠山市　横溝安子

あわてるなくよくよするな私流
守宮来て挨拶だけで帰って行く
つらい時なにごとも無い顔しとく
ＡＩの凄さに口が開いたまま

奈良市　尾畑なを江

ハイキング蛇のどくろに立ち往生
飛んでいけママのまじない特効薬
小学生暗算できる消費税
共通の苦労話に親近感

奈良県　室田行久

和歌山市　北原昭枝

ままならぬ足に時雨が急き立てる
靴の底日々のくらしにある平和
しみじみと語る再会菊日和
今更に馴れ初めおもう秋夜長

和歌山市　佐藤まき

白波立つ台風近い白良浜
温暖化台風威力増すばかり
神だのみどうぞ被害のないように
バラエティー真似て笑えぬ激カレー

和歌山市　鍋島澄子

墓参り造花が増えて老いを知る
脳回路アンテナこわれ遅い指示
笑い顔みたく平癒を一願寺
浮き草も視線あびればスターなり

和歌山市　福島一雄

菜園の茄子ピーマンは優れ物
掛け蒲団毛布かタオル日々迷う
日本中お家の屋根に青シート
近頃はピーポーの音よく聞こえ

岩出市　村中悦男

くどいよと娘に言われる年になり
かくし味妻真剣に指図する
午睡にも目ざまし掛けているノルマ
後何年生きて一体何残す

和歌山県　三枝眞智子

おとなしく聞けば本音が見えてくる
躓いた日からリズムが狂い出す
ノーと言う勇気が妥協許さない
ヘルパーの支えに甘え萎えてゆく

京都府　北野クニオ

台風が千葉のインフラズタズタに
柘榴の実笑っているよ青い空
もくせいの甘い香りに気が和む
お彼岸を知っているよな曼珠沙華

大阪市　中村民子

日没のつるべ落しの気忙しさ
上見ない今の暮しに不自由無い
会話にはジェスチャー入りの遠い耳
ちょうど良い軽く降る雨庭いじり

大阪市　中村峰子

考えず明日があると歌った日
めんどうだ明日明日明日と先延ばし
明日できるような気がして早寝する
また明日明日があるのか気にかかる

大阪市　降幡弘美

増税のおかげで減った消費グセ
ゆっくりと歩きトラブル回避する
サンプルはいい香りだと思ったが
インスタに映えると言って流行らせる

男なら苦労厭わず生きる夢
異文化も世界は一つ譲り合い
未来見る地球の姿恐ろしい
増税も半年過ぎれば忘れ行く

大阪市　前川善之

いじめ方子どもに示す教師たち
キラキラネームなぜか悲しい虐待死
ラグビーの醍醐味知った日曜日
パワハラよりも教師の資質問われてる

大阪市　宮本千恵子

まっさらな鏡替えたい倦怠期
主役が影になる脇役の演技
平和な朝波風立てず凡凡と
杖持たずスッテンコロリ見栄を張り

堺市　楠井輝子

ふところはしっかり閉めることにする
朝晩に安否気遣うメールくる
新しい仲間が増えるシニア塾
便利さに甘えぬ方が身のためだ

堺市　羽田野洋介

秋風に炊込み御飯すすめられ
男子まで可愛さを売る時代なり
トニックを匂わすそなた昭和だな
マイナンバーなんの事かとよく聞かれ

泉大津市　磯野不二夫

停電のニュースを聞いて電池買う
年の瀬に干支に感謝しぼたん鍋
のらんとこ食欲の秋体重計
シーズンに一度だけでも土瓶蒸し

吹田市　岩口のぞみ

張りつめた空気を破るいいジョーク
女房の敬語でキケン察知する
ストレスの正体悟る妻の留守
一日参食リズミカルです元気です

寝屋川市　岡本勲

友からのふるさと便に温い秋
もたもたとしてたら老犬が睨む
しあわせは両手に受けてオブラート
過去はみな真珠の箱に入ってる

寝屋川市　川本信子

上寿しの出前お皿が私留守
ブランドを目立たぬ様に持ち見てね
白髪目立ち化粧で若くはりきって
招かれて観劇付きで食事有り

寝屋川市　坂本ミヨノ

誕生日今年も届く孫の声
今年こそ花見行こうと逝きし友
宅急便今年だけよとイカナゴが
入れ方で新茶でさえも変る味

枚方市　谷英也

派手好み風に煽られ裏が見え
準備中おぶうどうぞと京町家
急ぐ人お先にどうぞあおりなし
絵の世界価値の行方は鑑定団

羽曳野市　磯本洋一

余裕欠きついつい愚痴を吐き捨てる
留守番も雑事が多く草臥れる
我家の夫婦関係ウィンウィンです
老いらくの恋プラトニックで火傷する

八尾市　前田紀雄

歳時記にルール違反が多すぎる
歳相応に見られ落ち込むお年頃
熨斗の束ガッツと掴み力士去る
亡母さんの服がなんだか似合いすぎ

大阪府　髙木道子

友庇う美しい嘘師は知らず
文明は悲し機能美ばかりでは
子の野球ポジション競う親の席
理解不能積善の家に不幸あり

大阪府　中内孚彦

赤トンボ追うた記憶が消えぬまま
縁あった人達偲ぶ食べ歩き
やめにした今更過去の自己批判
軽々に気楽と言えぬひとり旅

美作市　岡本余光

若いですねお世辞だって元気でる
目の覚めた化石に夢を問うてみる
キャッシュレス財布なしでは落ち着かぬ
地球の悲鳴聞こえて来ぬか温暖化

広島市　田桑恵子

金木犀ふと立ち止まり風に聞く
私の所為かも知れぬ夫が病む
スマホ夫婦会話ないまま席を立つ
働き方改革息子の帰宅変らない

竹原市　土井輝恵

閻魔のラインただいま地獄満杯と
本離れ馴染みの本屋消え淋し
八十楽しテレビチャンネル世界旅
診察待ち柳誌とお茶は必需品

竹原市　若年幸子

なせばなるとはいえ若くなれません
分娩室なつかしいよな恐いよな
赤ちゃんの泣き声に酔う老夫婦
孫二人小さい弟いつくしむ

三次市　伊藤寿子

柿畑お前も俺も茜色
干し柿の皮むく爺の得意顔
夏に耐え我武者羅に食う秋の空
空っぽの頭に詰めた秋の色

鳥取市　上山一平

倉吉市　伊藤嘉昭

子を想う貴菜の愛が福を呼ぶ
蒜山の思いは深しママ真由美
しあわせは美由紀の笑顔で花開く
まちわびる愛しい美樹と呼ぶ声を

倉吉市　田中けいこ

日々のろのろ間に合わぬ事ばかりだよ
気が知れぬ空缶道に捨てる人
のど飴を風邪の予防に持ち歩く
バタバタの体操をして朝起きる

倉吉市　堀かずこ

年とった言われたくない生きてるもん
いやな事ひと夜ねむって明日を待つ
よく転ぶ私の元気歩くこと
月あかり影の先には我が家見え

境港市　中井虎尾

便秘ぎみ牛乳飲んで太っちゃう
妻ボケたなげく私も共にボケ
赤い葉や黄葉の影に冬のぞく
残り葉と別れにピューと木はないた

境港市　藤原久直

この家をどちらが継ぐか阿弥陀くじ
青い空飛行機雲が天を割る
親と子が共に使ったこの机
ワッハッハ笑って邪気を吹っ飛ばす

米子市　黒田紀美江

敬老会デビューの夫におめでとう
団塊はラジオ体操だけ上手
ドアの鍵かけた筈だが開く不安
福耳も金は貯まらず身はやせる

鳥取県　下田茂登子

施設には行きたくないと駄駄を言う
一日のトイレ回数忘れてる
独りなり庭の広さに気が滅入る
孫の顔見たことないが孫はいる

鳥取県　西谷悦子

山裾をカマキリお先とウォーキング
ウォーキング足喜んでいるような
服装も気に止めて透析通う
病院の待ち合い女性の話咲く

松江市　相見柳歩

見つめあう心とこころ縫い合わせ
ちゃんづけで呼ばれています五十代
先生と話したいこと飲みながら
アイドルが作ってくれる歌の森

松江市　中筋弘充

神様に聞くなぜ子が先に逝ったのか
婿殿を忘れた義母と散歩する
血を吸った疑いがある曼珠沙華
盛者必衰泡立ち草が消えていく

喜寿の坂まだまだ元気ストレッチ
ラグビー日本僕に勇気をくれている
ラグビーにあやかり夢を叶えたい
スポーツのテレビ観戦忙しい

出雲市　黒目　ひでお

金木犀逝ったあの人思い出す
名ばかりの秋に額の汗をふく
一列にむすんで開く曼珠沙華
涼風を口いっぱいに入れてみる

雲南市　永見　安子

予約して二時間待ってハイ二分
失せもせず古アンブレラ古女房
菩薩夜叉どっちにしてもカミ一重
そこの猫進入禁止を無視するか

高知市　三谷　松太郎

数学者憲法論に筋通し
ウィンウィンと両国握手何だろう
食べ物は小さくうすく切ってくれ
好きな酒飲めばカユミが目を覚ます

唐津市　岩崎　實

脱水の走る仲間とゴールイン
パワフルに尽す同士のボランティア
両親のごきげんとりは三歳児
たて横の人間模様おりあわす

沖縄県　禱　モモト

温故知新

小出智子川柳集『蕗の薹』から

コートの衿立てて愚かなこと思う
肉親をいつも忘れぬ風呂の蓋
アイスクリームが言い訳をしてくれる
親切な人がどこにも一人居る
礼装をすると私でなくなった
いいことがあるではないが化粧する
背伸びしてひっくり返りそうになる
うちの子も隣の猫も過保護とか
まじまじと見れば仁王さんはにかみや
銀色で描く故里の冬景色
妻にしか解らぬ箱が棚にある
正直な鏡へあかんべえをする
一番星わたしに孫ができました
びっくり箱ぐらいで妻は驚かぬ
俎板の上でそおっと眼を開ける
靴捨てる時も祈りに似しものが
風船が破(わ)れたぐらいの事でした

（宮すみれさんは39頁にあります）

橘高薫風句抄

（『橘高薫風川柳句集』平成十三年発刊）

桐一葉猫も座禅の向うむき
さんふらわあ号へ洋上初日の出
うたせ湯に印結ばねど結跏趺坐

川口弘生先生を偲ぶ

つらつら椿つらつら大和郡山

鹿野城山神社祭礼

幟差の一人ひとりが鹿之助

高鷲亜鈍さんへ

赤いべレー老いてますますフォーヴィズム
日日恐懼昭和とともに生きてきて
屠蘇祝うわが家の龍虎おだやかに
お元日香水匂いすぎぬこと
絵双六妻も子供のときの顔
還暦の妻と易々諾々と旅

武蔵野陵　二句

茫々五十年醜の御楯は呆け立つ
死にぞこない生きぞこないへ白い雨
花が散る幣衣破帽をなつかしみ

柴又帝釈天

これはこれは寅さん陽気草だんご
夏は陽画冬は陰画の佐渡の旅

栗谷春子さんのご夫君を悼む　二句

この世からあの世は見えずさし向かい
あの世からこの世は見えてさし向かい
生きているうちは明かせぬ吾亦紅
老司祭黒にも無垢の衣あり
アメリカンフットボールは麻薬かな
ヘルメット着けて一弾頭となる
青芝にQB牛若丸の生まれかわり
ぶち当たれぶち当たれ音小気味よき
ヘルメット挙げ雄叫びや勝鬨や
モナリザも拈華微笑に違いなし
湖の雨を水底から見つめ

佐渡小木にて

夏空に映りそうなるたらい舟

高鷲亜鈍氏を悼む

白黒の次の世へこそ立たれけり

嗚呼　藤沢桓夫先生

さわやかやこんなに小さい仏さま

淡島幻想

完璧な乳房に逢うた母以来
羽衣を盗られたような風邪を引き

英語 de Senryu㊻

麻生路郎句集『旅　人』

英 訳　吉村　侑久代　Kim Horne

無力な男　みみずのやうに　ちぢかんだ

incompetent man
shrivels up
like an earthworm

若い燕切符を買うて渡される

young boyfriend
handed return ticket
bought by her

---

incompetent 無能な　能力のない　*shrivel up* 縮こまる　*like* ～のように
earthworm ミミズ　卑屈な人　*young boyfriend* 若いボーイフレンド
handed 手渡される　*return ticket* 帰路の切符　*bought by her* 彼女に買ってもらった

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句㊱ヒロシマを詠む俳人、重本泰彦

日英俳句集『わたしのヒロシマⅡ』(ISBN4-87440 溪水社 2005)

重本泰彦氏は1930年に広島で生まれ、被爆しました。その後42年間にわたり大阪で高校の英語教師を務めました。退職後は広島に戻り、原爆とあらゆる生き物の生命を詠み続けています。テーマは一貫してヒロシマの原爆です。1995年に『わたしのヒロシマ俳句』、2005年に『わたしのヒロシマⅡ』を出版しました。後者には第二次世界大戦終結50周年を記念した「ノーモア・ヒロシマ会議ロンドン」での講演も収録されています。

I think of Iraq/ under the cherry blossoms/ A-Bomb blast center
爆心地イラクを思ふ花の下

Hiroshima--/ I never grumble/ about the scorching sun
ヒロシマの炎天われは愚痴いはず

Hiroshima Day/ I believe there must be bones/ under the paved streets
ヒロシマ忌舗装の下に骨あらむ

Christmas Eve--/ A-bomb Dome standing/ in the dark
闇に立つ原爆ドームの聖夜かな

誹風柳多留一二篇研究 78

伊吹和男・山田昭夫
石川道子・小栗清吾
細井龍夫
清博美

666 **たのもしく見せて娘をうれといふ**

伊吹 女衒。貧しい人たちの世話を面倒がらずに行い、相談事にものって頼りありそうに見せて、金に困っているなら娘を売れという。

娘をうれと善兵衛や源兵衛いひ　傍四20

清 賛。

667 **むなぐらの外に女房は手を知らず**

伊吹 亭主が腹を立てれば、殴ったり蹴ったり自在であるが、女房だと泣きながら胸にしがみついてくるだけ。

むなぐらをとつての跡が女なり　拾六24

清 賛。

668 **見世先にてい主ぶらつく三丁目**

伊吹 三丁目は、薬種屋町ともいうべき本町三丁目。屠蘇を求めるのは女房だと思うので、ここをぶらつく亭主は、四目屋で売っているような薬はないかと探しているのだろう。

気かよわくつちや四ッ目やハかわれぬよ　天五義3

山田 雨譚註「木薬屋」。『雨譚註万句合研究』では次の如し。

山路＝三丁目は本町三丁目で薬屋の町です。亭主が薬を買いに行き買いそびれているのだと思いますが。

山沢＝木薬屋の亭主が店先をつらつら監督している程度の解で如何ですか。

山路＝成る程、木薬屋の亭主で良いですネ。店先での動作として

小栗 不明。先人の解も、なぜぶらつくのか（それが特異な風俗だったのか）わかりません。

清 なるほど、先人の解がありましたか。小生は山沢説に近く、干してある薬種の手入れをしている図と考えていました。第三者から見るとぶらついているように見える。

669 **座敷らうばん頭なきにしもあらず**

伊吹 『太平記』巻四で、児島高徳が桜の木を削って書き付けた、

天莫レ空二匂践一、時非レ無二范蠡一

から。座敷牢に入れられた放蕩息子に対し、范蠡が越王匂践にしたように、番頭が親父に取り成してくれる。

坐敷牢時に范蠡伯父き也　拾四24

山田 賛。文句取の句。

清 賛。「文句取辞典」に「無きにしも非ず」で立項したが、「番頭無きにしも非ず」で立項し、捩りとした方が良いかも知れぬ。

670 **乳が出て夏のかせぎの邪魔に成**

伊吹 子持ちの遊女や踊子、芸者の類。冬な

らば隠せもしようが、薄着の夏では着物に乳がにじんで、商売の障害になる。

おとり子ハむすめのざいにち、が出る　天五鶴3

山田　賛。雨譚註は「おどり子のおろしたの」だが、礎解の方がベター。

清　子供を堕ろした場合、乳は出なくなるのか出るのか、そこがわからぬ。乳が出て商売にならぬとあれば、子供を産んだ踊子とする方がいいように思う。つまり、雨譚註は疑問ということ。

671　**もち花とかきが四ッ手に生ッたやう**

伊吹　餅花は、粟餅とともに目黒不動の名物。不動尊の縁日は正・五・九月の二十八日。柿とあるので、九月の縁日に品川直行の仲間から託され、餅花と柿が駕籠に生えているような有様で帰る男である。

餅花か四ッ手の中へ二ッ三ッ　三40

山田　賛。まさに運搬車。

小栗　賛。

婪のたね有ルをたよりに目黒道　安六松3

という句があるところを見ると、柿も目黒の名物だったらしい。

清　賛。

672　**一トふくろ証文持ッて後家あるき**

伊吹　金貸しの後家。証文の束を一袋分持って、亭主が貸した金の取立てに廻る。

後生のわるいしやうもんをごけハもち　三二25

小栗　賛。礎説、単に「亭主が貸した金の取立てに廻る」だけなのか、自ら金貸しにはげむ「金貸しの後家」なのか判然とせず。「亭主」以下は不要では……。

清　どちらともとれるが、俄後家が亭主の貸した金を、とする方が川柳的か。亭主が死んだ後、証文をみつけ出してでは、ストーリーの作りすぎになるか。

673　**白むくを五六の中でくけて居る**

伊吹　五六は、『日本国語大辞典』に、⑥縦横が五幅（いつの）と六幅（むの）の蚊屋。三畳間に釣る蚊屋。

とある。一幅は八、九寸から一尺。絎けるは、縫い目が見えないように縫う。三畳の間の蚊屋の中で、お針が八朔の白無垢を縫っている様子を詠んでいる。

あついのにお針手おもいものをぬひ　二二10

小栗　賛。蚊の出る時分に縫う白無垢とはナーニ。

清　賛。

674　**ねかさないばんあんのじやう月の事**

伊吹　いつもと違い寝かしてくれないほどの持てようだったが、やはり下心があって月の紋日に来てくれと遊女から頼まれた。

かこち顔にていゝ出すハ月の事　天五満1

山田　賛。「オレがそんなに持てるワキャないよ」。

清　賛。

675　**やう〳〵と袖口を出る嫁のみやく**

伊吹　医者に厳しく脈拍を求められて、妊娠を恥じる若嫁はようやく袖口から手首を出す。

袖口をおし上ケて見るよめのミやく　天四礼3

うつ向てみやくを見せるかとまつたの　拾二19

ばあ様に娵ゑいやつと腹を見せ　安五仁3

清　賛。

特別寄稿

麻生路郎と澤田四郎作——川柳塔電子化事業の意義とともに

奈良女子大学研究院人文科学系・准教授　磯部　敦

南海電鉄岸里玉出駅下車、玉出口から西に向かって延びている玉出本通商店街を通り抜けて国道二十六号線を渡ったあたりに生根神社がある。かつてこのあたりは玉出本通三丁目に編成されていて、その三十六番地に川柳雑誌社があった。「次第に煙の都へと移つて来た本社は此度玉出町でも最も繁華な通りの裏町へ来た。入口に立つたら、近くバス開通の十五件道路を右手に控へる事僅か五六歩」のあたりである（『川柳雑誌』九十八号、昭和七年三月、六一頁）。同誌九十九号編輯後記によれば、この年の「三月廿八日から葭乃の経営で小さな喫茶店が開店される運びになつてゐる」という。これが「サロン・キング」、のちに句会をはじめ諸氏交流の場ともなったキング喫茶店であった。日本近代文学においては「新短詩型運動に打ち込」み「大阪の川柳界に貢献した」（『大阪近代文学事典』、和泉書院、二〇〇五年）と評される麻生路郎であるが、私が麻生を知ったのはまったく別の方面からであった。

澤田四郎作をご存じだろうか。奈良県五位堂に生まれた民俗研究者で、東京帝大医学部在籍時から柳田國男らと交流を持ち、来阪後は大阪民俗談話会（現在の近畿民俗学会）を結成して運営に尽力した人物である。澤田については、奈良女子大学なら学研究会作成の小冊子『「知」の結節点で澤田四郎作人・郷土・学問』（二〇一七年）をご覧いただきたい（なら学研究会ウェブサイトでPDF版を公開中）。岸里玉出駅玉出口から、今度は東に向かって少し歩いていったあたりがかつての玉出本通一丁目であるが、昭和六年、ここに澤田は小児科澤田医院を開業した。玉出口の目の前にあったという南海電鉄玉出駅も澤田や麻生らの住居ら辺も今はもう面影の一片すら残っていないのだけれど、彼らは玉出駅をはさんで東西に住していたご近所さんであった。医院併設の澤田邸には宮本常一や渋沢敬三をはじめ各地から民俗研究者や友人たちが立ち寄っていて、よく寝泊まりしていたことから「澤田ホテル」などとも言われていたのだが、来訪者は宿泊名簿よろしく芳名帳に一筆書くことになっていた。その芳名録も現存するのは遠野市立博物館が所蔵する昭和十年の『五倍子居芳名録』一点のみであるが、錦糸織りの表紙に箔散らしの見返し、本文には奉書を使用しており、研究でも生活でも交流を重視する澤田らしい一品になっている。そして、表紙中央には墨書きで「奇縁壱年　二／路郎題」、すなわち麻生路郎筆になる題簽が貼付されているのであった。この芳名録こそ、私が麻生路郎に興味を持つきっかけとなったものでで

あった。

芳名録を繰っていけば、その所々に麻生の名を見出すことができる。昭和十年二月二十二日に井葉野篤三と澤田邸に来ているが、井葉野は、澤田邸からさらに東進するところの帝塚山に住んでいた小説家で、澤田と交流の深い人物である。同年四月十二日には岩崎柳路とともに訪れ、「満洲にて　路郎／夕日あか〳〵汽車は直線」（柳路は「熱何ですものと女は花々し」）を書している。九月十二日夜には麻生とともに宮本常一も来訪しているが、澤田邸で開催されていた民俗談話会に麻生の名が見えないことから宮本とはたまたまの同席で、麻生と澤田は民俗研究とは別の文脈でのつきあいであったようだ。昭和八年の『澤田四郎作日誌』を見てみると、十二月十七日に「平素、種々後援してもらつてゐる人々を招」いて忘年会を開いているが、松阪青渓、持田卓三、井葉野篤三らとともに麻生路郎の名が見え、澤田との密な交流が浮かびあがってくる（磯部ほか「翻刻澤田四郎作『日誌』（昭和八年分）」、『なら学研究報告』一号、二〇一九年）。一方、川柳雑誌社の機関誌『川柳雑誌』からは麻生のメインフィールドにおける人脈を見てとることができるが、前出の岩崎柳路はもとより、客員の食満南北（けまなんぼく）や大西長三郎、藤里好古、同人の石曾根民郎らは澤田とも交流のあった面々である。こうした諸史料をとおして浮かびあがってくるのは諸氏の専門分野での交流と、それと隣り合わせで重層的に展開していた交流のありようだ。『川柳雑誌』『川柳塔』は川柳専門雑誌であると同時に、こうした人的交流、ひいては地域史や文化史などへのポテンシャルをも合わせ持った雑誌なのである。

今回、この雑誌の創刊号から千号超もの号をウェブ公開した川柳塔電子化事業を、雑誌をPDF形式にしてウェブ上で公開した、などと簡単にまとめてしまってはいけない。精粗はあるものの、OCRによる文字認識によって本文データ検索は可能となっているし、かつ結社を超えて誰もがアクセス可能なオープンデータとして提供されている。これらは学術研究における基礎的な研究環境でもあって、川柳塔ウェブサイトに「電子化された川柳塔誌を、皆様にご覧いただき、ご活用いただいてこそ本事業が意味あるものとなります」とあるとおり、まさにそれを可能にする環境として提供されているのである。デジタルアーカイブとは、デジタル化した史資料を公開して終わりなのではない。諸記録の活用をとおして議論の視点を提供するものであり、それはまた未来のあり方にかかわってくるおこないでもある。と同時に、史資料の原物それじたいの保存・管理・継承もまたデジタルアーカイブの範疇にある。その時々の最先端技術があろうとも、原物がなければ対応できないことは多い。デジタルアーカイブとは、原物とデジタルデータをひっくるめて未来に継承していこうとする覚悟の謂いでもあるのだ。したがって、こうした電子化事業でもっとも重要なのは管理の主体と公開の場の永続性になるわけだが、紙面から発せられる熱量に接するに、この電子化事業もこうした熱に支えられてきたのだろうし、これからも支えられていくのだろうと強く感じる。かくして、川柳塔電子化事業は学術研究や文化史料の観点においても快挙なのであり、雑誌を提供された方々、データ化の作業から公開と管理に携わった方々、事業を支えた会員諸氏など関係するすべての方々に、私は心からの敬意を表する次第である。

愛染帖

新家　完司　選

（投句271名）

痩せたサンマ塩をふったらまた痩せた　三田市　尾崎　一子

（評）せめて一度ぐらいは季節の味を、と買い求めたが…。何が原因か知らないが、これまで通り気軽に楽しめるように願いたい。

苦手ですセーラー服の募金箱　弘前市　髙瀬　霜石

（評）駅や街頭で「お願いしま～す」と笑顔の女学生たち。男として無視するわけにもならず、「10円玉」というわけにもならず…。

美男子の遺伝子がまだ出ない孫　鳥取市　奥田　由美

（評）先祖から受け継がれている「美男子」のDNA。「さぞかし孫も…」と期待しているのだが、まだその片鱗も表れていない。

しぶしぶと付いて行きますフルムーン　横浜市　菊地　政勝

（評）うきうきルンルンだったハネムーンからウン十年。主導権は完全に相手に握られて、こちらはまるで手荷物運搬係である。

生き方がサンドバッグになっている　笠岡市　藤井　智史

（評）パンチや蹴りを食らうのが仕事のサンドバッグ。だが、そのように自認して開き直ると、打たれ強くしぶとい存在になる。

偶然に生まれ必死に生きている　米子市　吉田　陽子

（評）自分の意思で生まれたのではないのに「生きるのに必死」。そして、やっと楽しくなった頃に「はいそれまで」はないだろう！

海中でニヤニヤ笑うレジ袋　黒石市　千葉　風樹

（評）今のペースでレジ袋などの消費を続けると、30年後の海は魚よりプラスチックの方が多くなる。レジ袋は笑い鯨が泣いている。

武器などは持たぬと案山子言っている　岡山県　田中　恵

（評）鉄砲など持たず「睨み」だけで頑張っている案山子。どれほど機械化が進んでも、その余裕とユーモアの文化は残してほしい。

煮魚の骨をきれいに残し合う　西宮市　福田　正彦

（評）ふたり仲良く、向かい合っての夕食。長年連れ添った夫婦は仕草まで似てくるというが正にその通り。ご馳走さまでした！

全没を癒してくれる畑仕事　河内長野市　木見谷孝代

（評）さまざまな方法がある「全没治療法」。しばらくは川柳から離れて土と会話するのもベスト。充分に癒されたらカムバックだ。　大阪市　古今堂蕉子

前たもつ小声の呼名聞けぬ秋　唐津市　仁部　四郎

行き行きて死亡叙勲の細き記事　箕面市　中山　春代

天井を歩くカマキリ寂しいか　熊本市　杉野　羅天

コクワガタぽとりと胸に午前四時　和歌山市　古久保和子

吸って吐くだけのこの世が息苦し　宝塚市　丸山　孔一

意識してボーとするも生きる術　佐賀県　真島久美子

さよならをすぐ言いそうな海の色　池田市　太田　省三

タワービル今宵の月を独り占め　尼崎市　山田　耕治

八十歳普段の朝があればよい　羽曳野市　徳山みつこ

裏切らぬ私の影と快走中　今治市　渡邊伊津志

柔らかい頭で嘘を噛み砕く　長岡京市　山田　葉子

待つ暮らし終えて私の第二幕　弘前市　稲見　則彦

深夜便情報源となっている

三田市　堀　正和
洗濯機朝から夫婦からみ合う

鳥取市　山野すみれ
おかしいな淡いピンクの脈が打つ

横浜市　川島　良子
月下美人になってアナタを酔わせましょう

丹波篠山市　酒井　健二
アメリカに負けたおかげで得た自由

米子市　池田　美穂
やさしさが消えた乳房がしぼみだす

河内長野市　渡邊　修
謝罪の場余計かんぐる仕立服

尼崎市　寺嶋恵美子
菓子底に越後屋真似た金の板

櫃原市　居谷真理子
生き辛い世だから友よ声を出せ

岡山市　丹下　凱夫
深呼吸いっぱいしても叱られぬ

松山市　郷田　みや
天辺に脳ありふらついて歩く

三田市　上田ひとみ
ご先祖に事情話して墓じまい

宇部市　平田　実男
青レモン齧り焼酎飲んでいる

堺市　坂上　淳司
ダイオウイカのような街路樹夕焼ける

大阪市　平井美智子
育休へちょっと厳しい上司の目

奈良市　辻内げんえい
昇進に不利か男の育児休

男鹿市　伊藤のぶよし
ふる里の賽銭箱も鎖つき

鳥取市　田中　天翔
難病の友からもらう逆エール

宝塚市　岸田　万彩
惚けたって帰巣本能忘れるな

豊中市　齋藤奈津子
川柳塔まつりやっぱり大きいな

福井市　伊藤　良一
いつ死んでもいいと思った二句も抜け

大阪市　小野　雅美
増税の襲撃防ぐキャッシュレス

尼崎市　清水久美子
年金の親が死ぬまでパラサイト

鳥取市　福西　茶子
ひらがなで会話している京都人

羽曳野市　宇都宮ちづる
京御膳眼で味わっておちょぼ口

枚方市　丹後屋　肇
建前の資料をコピー機が笑う

岡山県　藤澤　照代
部下の時言った我儘聞く立場

三田市　福田　好文
ケーキ二個食べて治らぬ恋の傷

香芝市　山下　純子
税上がるたびやめようと思う酒

高槻市　原　洋志
金の要る話は狸寝入りする

鳥取県　斉尾くにこ
マザコンと悪妻のまま共白髪

妻という地位が重荷になってきた

高槻市　片山かずお
ドライブレコーダー夫婦喧嘩も記録する

奈良市　大久保眞澄
人の欲塗れて地球温暖化

生駒市　飛永ふりこ
無記名のアンケートにはちょっと盛る

倉吉市　大羽　雄大
何か変ゴキブリ見ずに秋が来る

大阪市　笠嶋　恵美
亡き父の椅子が私の帰省待つ

藤井寺市　太田扶美代
海外と文化の違うイルカショー

ヤル人を批判ばかりのヤラヌ人

聴いていると瞼が閉じてくるお経

飾っても飾らなくても老けている

青汁とサプリで秋を潜ります

骨密度煮干しを食べて上げている

低血圧こぶ茶を飲んで家に居る

ノートにただ書いてみただけ遺言書

塩竈市　木田比呂朗
反則のノックオンから先ず習い

大阪市　磯島福貴子
あんちょこ片手俄か仕立てのラガー女子

京都市　清水　英旺
ナショナリズムむくむくラグビーW杯

加西市　山端なつみ
ラガーマンぎゅっとハートを鷲掴み

大阪市　若本　安代
勝ちが見えラグビーファンになりました

広島市　岸本　清
ラグビーは無理だが押しくらならできる

神戸市　大頭としお
川柳は生きる支えの応援歌

箕面市　広島　巴子
人生句今の私は下五なり

土佐清水市　辻内　次根
見飽きない入選句には自分の名

鳥取市　山下　凱柳
徹夜して作り投句も又も没

三田市　北野　哲男
耄碌と笑われながら五七五

奈良県　渡辺　富子
ひらめきが口笛吹いて逃げていく

安来市　原　徳利
川柳と酒を取ったらダンゴ虫

倉吉市　山中　康子
川柳を投げたら何も残らない

松山市　栗田　忠士
スイーツもお酒も駄目と血糖値

河内長野市　村上　直樹
悩み事目でじっくりと聞く名医

大阪市　樋口　眞
異常値に主治医もさてと思案顔

丹波篠山市　長谷川善輔
レントゲン医師の顔読み安堵する

三田市　大西　重男
ボロクソに言われて耐える医者の言

神戸市　山根　弘華
卒寿です部品かえずに白寿待つ

鳥取県　門村　幸子
意に反し頻繁出入り保険証

仙台市　月波　与生
心臓に悪い病院の会計

高砂市　松尾柳右子
診察券まとめ娘は運転手

河内長野市　山岡冨美子
医者通い出来ているからまだ元気

高槻市　島田千鶴子
かかりつけ医師が入院どないしょう

神戸市　山口　光久
貧乏な暮らしに妻はなぜ肥る

岡山市　大石　洋子
迷ったすえ鮭の切り身がカゴのなか

米子市　竹村紀の治
買い溜めはしないポックリ怖いから

鳥取市　前田　楓花
せっかちな私がいつも待たされる

三原市　鴨田　昭紀
自転車にも付けるドライブレコーダー

松山市　柳田かおる
ロボットの声にだんだん慣れてきた

堺市　村上　玄也
鈍臭くなったか時が早よ進む

富田林市　中村　惠
おばちゃんの会話に聞き役はいない

川西市　山口　不動
名月やピタリ冷房毀れけり

大阪市　内田志津子
脂肪増え骨量減った変なジム

河内長野市　穂口　正子
孫の描くわたしくっきりほうれい線

八王子市　川名　洋子
秋なのに秋刀魚お前は細すぎる

三原市　笹重　耕三
毎日が休日血圧が上がる

米子市　伊塚美枝子
犬だって呼べばまともな返事する

羽曳野市　吉村久仁雄
だんじり祭りの里へ気が急くパリ帰り

香芝市　大内　朝子
欲捨てた心スリムになりました

神戸市　奥澤洋次郎
命より前に預金が尽きてゆく

神戸市　冨永　恭子
果実酒がとろんと香る秋夜長

鳥取市　上山　一平
木犀の香りを利くや酒の燗

大阪市　藤田　武人
まだ青い紅葉に熱燗を注ぐ

羽曳野市　中川ひろ介
熱燗とおでん常連ママ目当て

堺　市　矢倉　五月
乾杯に渋面ごめん歯痛です

藤井寺市　鈴木いさお
干乾びた脳がお酒で蘇生する

堺　市　澤井　敏治
養生訓ひろげたそばに空徳利

大阪市　奥村　五月
医者の注意かたく守るが酒は別

松江市　梶瀬みちを
旨い酒噂話が加速する

札幌市　三浦　強一
壁を塗る手付となって酔っている

河内長野市　中島　一彌
バッカスがお灸を据える二日酔い

大阪市　谷口　義
台風が鉢巻きをしてやって来る

鳥取市　岸本　孝子
萩ススキ活けて団子が仲間入り

奈良市　尾畑なを江
お月見にこの世の事は忘れませ

高槻市　初代　正彦
リチウムイオン電池　君って凄いんだ

河内長野市　原熊知津子
時代は変わる転がりながら姿かえ

三田市　多田　雅尚
エキナカで不用のピアノ甦る

鳥取市　倉益　一瑤
寂しくてメールへハート三ツつけ

大阪市　岩崎　玲子
死ぬるまでプラトニックの愛放つ

豊中市　水野　黒兎
残る歯は十本なのにまた痛む

沖縄県　宮　すみれ
キャッシュレス右往左往のメカ音痴

大阪市　江島谷勝弘
自販機に五百円玉残ってた

貝塚市　吉道あかね
この顔で又十年のパスポート

美作市　岡本　余光
何事も成せずそれでも生きられる

大阪市　栃尾　奏子
こども部屋二段ベッドにある宇宙

鳥取市　池澤　大鯰
昔なら過保護のうちだ送り迎え

大阪市　大川　桃花
一心寺へ三年振りのひとり旅

堺　市　奥　時雄
芸術なんだろねリアルな裸婦像

岡山市　永見　心咲
救急車行き先告げずとも走る

伊丹市　延寿庵野鶴
CO2殖えてヒト科の首を絞め

防府市　坂本　加代
思い入れ強すぎ記憶ずれてくる

岡山県　高岡　茂子
絆創膏でピアスの穴をかくす孫

四條畷市　吉岡　修
靴音がしたのにノックせず過ぎる

大阪府　高木　道子
在りし日の夫より遺影によく喋る

河内長野市　藤塚　克三
デパ地下で増税分を先ず試食

京都市　藤井　文代
繋がってるつもりでいます脳回路

池田市　奥園　敏昭
個人差と言って慰め老いの足

米子市　後藤美恵子
自分の手で頭のハエはまだ追える

西予市　黒田　茂代
ストーブタンク重たくなってエアコンに

広島市　松尾　信彦
雨の朝ほっとしているスニーカー

大阪市　横山　里子
あやとりの指が覚えていた梯子

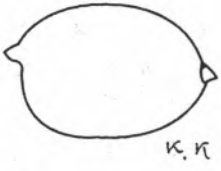
大阪市　平賀　国和
トラ違い囲碁の虎丸日本一

共選欄

檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句338名）



「しみじみ」　水野黒兎　選

白湯を飲む空気の美しい朝だ　橿原市　居谷真理子
献体を決めた夫婦の夜のしじま　島根県　伊藤　寿美
やっときた秋をそーっと掬い上げ　宝塚市　岸田　万彩
泡立つもの沈めしんみり仰ぐ月　奈良県　渡辺　富子
青春の欠片しみじみ聴く汽笛　岡山県　田中　恵
佐渡情話しみじみと聞く囲炉裏端　伊丹市　延寿庵野鶴
にんげんに生まれて酒も少し飲む　海南市　小谷　小雪
しみじみと演歌を聞いて寝ています　羽曳野市　三好　専平
老いふたり猫より先に逝けません　箕面市　中山　春代
食用菊秋をしみじみお仏壇　西宮市　福島　弘子
結び目をほどくごめんねありがとう　大阪市　栃尾　奏子
しみじみと見ればなるほど臍のゴマ　米子市　竹村紀の治
秋の夜長防人歌諳んじる　大阪市　田中ゆみ子
ひぐらしに魂奪われる墓参　堺市　奥　時雄

「しみじみ」　鴨谷瑠美子　選

聞いたげる秋の夜長に憂さ話　神戸市　敏森　廣光
夜更けまで父母を語らう兄弟会　三田市　福田　好文
亡くなってしみじみ思う姉妹愛　八尾市　宮崎シマ子
踊り終え背なにしみじみ冬が来る　鳥取市　倉益　一瑤
佐渡情話しみじみと聞く囲炉裏端　伊丹市　延寿庵野鶴
腹立てて石蹴ったころしみじみと　八尾市　内海　幸生
アデランスか帽子か悩む小金持ち　三田市　野口真桜子
生きてきた証しみじみ老いを知る　東大阪市　北村　賢子
しみじみと回想しない今生きる　笠岡市　藤井　智史
たらればとしみじみ悔いがこみ上がる　大阪市　近藤　正
しみじみと話しいい人だと知った　羽曳野市　徳山みつこ
この頃はじっくり夫見ていない　奈良県　渡辺　富子
十六夜にちょっとセンチになる二人　富田林市　山野　寿之
しみじみと若い力を憧れる　倉吉市　山中　康子

子殺しって最低だなあ吾亦紅　堺市　内藤　憲彦
嫁ぐ子に父は黙ってビール飲む　神戸市　山﨑　武彦
しみじみと声を殺して読むみすゞ　豊中市　藤井　則彦
松茸のかけら鎮座する駅弁　河内長野市　中島　一彌
ありがとう今日も私は頑張った　三田市　上田ひとみ
ヒロシマの詩を聴く僕はサユリスト　堺市　坂上　淳司
横町の人情ここはまだ昭和　高槻市　初代　正彦
お好み焼きを独りっきりでつつく　岡山市　工藤千代子
よく動く口でしみじみには向かぬ　松原市　森松まつお
生に死に触れてまあるくなる犬歯　黒石市　千葉　風樹
不可解な生き物なんですの　女　香芝市　大内　朝子
島酒とおじいも語る今昔　沖縄県　宮　すみれ
しみじみと私を捜す秋夜長　羽曳野市　藤原　大子
箪笥の傷に子育ての日甦る　大阪市　米澤　俶子
難聴へパイプオルガンしみじみと　西宮市　亀岡　哲子
誤解曲解しみじみこの世ややこしい　西予市　黒田　茂代
深酒の身にしみじみと朝の冷え　堺市　柿花　和失
大欅としばし語らう秋の夕　尼崎市　藤井　宏造
親子だとしみじみ思う鼻の位置　寝屋川市　廣田　和織
カプチーノしみじみ秋を深くする　和歌山市　福井　菜摘
昔昔と話せば長くなるふたり　藤井寺市　髙田美代子
凸凹でよくぞ来ましたダイヤ婚　鳥取市　福西　茶子

よく動く口でしみじみには向かぬ　松原市　森松まつお
生命線しみじみ眺め冬間近　寝屋川市　伊達　郁夫
先生が先生苛め世も末だ　八尾市　前田　紀雄
しみじみと竹馬の友と米寿会　鳥取市　上山　一平
妻立てば夫が手を貸す老い二人　羽曳野市　吉村久仁雄
しみじみと波に呑まれてゆく老化　高槻市　原　洋志
ひぐらしに魂奪われる墓参　堺市　奥　時雄
しみじみと聴けば熱燗冷めている　枚方市　丹後屋　肇
キャッシュレスしみじみ不安掻き立てる　神戸市　冨永　恭子
買う買わぬしみじみ思うゼロの数　大阪市　奥村　五月
島酒とおじいも語る今昔　沖縄県　宮　すみれ
三回忌逝った子の服袖通す　加西市　山端なつみ
お古着て父をしみじみ真似てみる　堺市　内藤　憲彦
生いたちとダブるドラマが身にしみる　広島市　岸本　清
似た人に会うたび蘇る昔　高槻市　片山かずお
二ページの日三行の日日記帳　京都市　都倉　求芽
難聴へパイプオルガンしみじみと　西宮市　亀岡　哲子
しみじみと皺の深さをいとおしむ　河内長野市　辻村　ヒロ
生と死をしみじみ思う九十三　大阪市　津村志華子
ひとり酒しみじみ歌うひとり酒　安来市　原　徳利
しみじみと美空ひばりの歌に酔う　岡山県　田中　恵
着地してしみじみ撫でるパスポート　広島市　松尾　信彦

地球の歴史人間の業神の愛　神戸市　上田　和宏
幸せをしみじみ思う栗ごはん　高槻市　島田千鶴子
はるかなる日常小津の映画観る　大阪市　高杉　力
しみじみと父母おわす小津映画　横浜市　加藤　佳子
境遇が似てしみじみと馬が合う　高砂市　松尾柳右子
母になる予感しみじみ十三夜　大阪市　津守　柳仲
離農跡しみじみ眺む開拓碑　札幌市　小沢　淳
しみじみと聴けば熱燗冷めている　枚方市　丹後屋　肇
アタタマリマスカとコンビニのタイ人　仙台市　月波　与生
秋風に吹かれてきたか蝉むくろ　寝屋川市　森　茜
歳月をいとしくさせる人と往む　貝塚市　吉道あかね
青錆のレール重い日も軽い日も　松山市　柳田かおる
今生の滋味のひとさじ三分粥　五所川原市　むらのひとり
しみじみと波に呑まれてゆく老化　高槻市　原　洋志
しみじみと担い手の無い田の思案　美作市　大杉　敏夫
息弾む稜線の風しみわたる　下松市　有海　静枝
斬られ役しみじみ語る泣き笑い　松山市　栗田　忠士
ルーペ掛けると友の訃報が迫りくる　羽曳野市　吉村久仁雄
しみじみと竹馬の友と米寿会　鳥取市　上山　一平
しみじみと語る左遷地の月日　大洲市　花岡　順子
琵琶湖ほど飲んだだろうか米寿まで　高槻市　松岡　篤
しみじみと飲むためにある大吟醸　岡山市　丹下　凱夫

旅路には見えぬ段差が多すぎる　神戸市　大頭としお
もどかしい動作しみじみ歳おもう　大阪市　津守　柳仲
現実をしみじみ思う高齢化　津山市　高橋由紀女
ブルドッグしみじみと見て面白い　羽曳野市　三好　専平
嬉しいときはマンボ飲んだらひばり節　河内長野市　村上　直樹
しみじみと気になり出した物忘れ　大阪市　榎本　舞夢
マドンナも西へ逝ったという便り　川西市　山口　不動
よう続いたとしみじみ思うフルムーン　堺　市　澤井　敏治
しみじみと見詰められるの苦手です　鳥取市　田中　天翔
時時は回顧してみて和みたい　名古屋市　冨田　末男
後ろから夫が老けたなあと言う　奈良市　大久保眞澄
日にち薬しみじみ癒やす心ケア　羽曳野市　中川ひろ介
視点変えしみじみ見ればいい男　河内長野市　原熊知津子
カネやんは本当に偉大だったなあ　三田市　北野　哲男
結び目をほどくごめんねありがとう　大阪市　栃尾　奏子
酒を飲めたら秋の深みがわかるのに　倉吉市　牧野　芳光
歳月をいとしくさせる人と住む　貝塚市　吉道あかね
しみじみと言うたら耳を傾ける　奈良県　安福　和夫
信じた道今しみじみと秋の月　三田市　尾崎　一子
物忘れ増えて思うは母のこと　豊橋市　小松くみ子
ありがたし健康体をくれた父母　大阪市　江島谷勝弘
ドングリを拾う子等無し世の移り　西宮市　福島　弘子

後ろから夫が老けたなあと言う　奈良市　大久保眞澄
しみじみと自問自答の風のみち　三木市　山口ヨシエ
しみじみと静寂の夜のコップ酒　橋本市　石田　隆彦
指切りの指しみじみと嘘ひとつ　三田市　稲角　優子
しみじみと想えば雨になる今夜　笠岡市　藤井　智史
道の駅になった母校で胡瓜買う　大阪市　石田　孝純
人生劇場さあさあクライマックスだ　弘前市　高瀬　霜石
しみじみを自分に問うている夜更け　富田林市　中村　恵
思い出を月に預けて独り往む　土佐清水市　辻内　次根
信じた道今しみじみと秋の月　三田市　尾崎　一子
新酒飲むしみじみ秋のど真ん中　寝屋川市　伊達　郁夫
嫁に来た夜汽車は既にありません　松江市　栂瀬みちを
行く末をしみじみ思う冬銀河　千葉市　海老池　洋
しみじみはここと家計簿見せられる　唐津市　仁郁　四郎
二ページの日　三行の日　日記帳　京都市　都倉　求芽
かよわない心時計の針の音　岡山市　永見　心咲
やりきった余韻に触れる足の裏　佐賀市　真島久美子
しみじみと湯豆腐掬う過去掬う　羽曳野市　徳山みつこ
木枯らしや二人の家に灯がともる　河内長野市　森田　旅人

秀　句

三回忌　私が妻でよかったか　寝屋川市　平松かすみ
おじいさんになったあなたを見たかった　長岡京市　山田　葉子
踊り終え背なにしみじみ冬が来る　鳥取市　倉益　一瑤

君はどのあたり星空澄み渡る　和歌山市　松原　寿子
しみじみと語る戦争物語り　鳥取市　土橋　螢
「ふるさと」をハモる涙のクラス会　高槻市　初代　正彦
点滴のしずくは命闘病記　西宮市　緒方美津子
思いやりしみじみ沁みる時を経て　大阪市　中村　峰子
地球の歴史人間の業神の愛　神戸市　上田　和宏
戦禍見るにつけて平和の有り難さ　堺　市　村上　玄也
しみじみ感謝打ち込む趣味のある日々を　大阪市　古今堂蕉子
語り部があの日を語るしみじみと　藤井寺市　鈴木いさお
勿体ないしみじみ付いた戦中派　札幌市　小沢　淳
しみじみと呑んでウトウト酔っている　鳥取市　前田　楓花
よく聴くと津軽訛りの岩清水　弘前市　福士　慕情
履歴書に書けぬしみじみした特技　仙台市　月波　与生
手相では生命線が細く見え　和歌山市　福島　一雄
しみじみと縁を織り込む人生譜　今治市　渡邊伊津志
好物はみんな身体に悪いもの　弘前市　高瀬　霜石
かよわない心時計の針の音　岡山市　永見　心咲
しみじみと平成御代を振り返る　河内長野市　藤塚　克三
秋の夜長防人歌諳んじる　大阪市　田中ゆみ子

秀　句

しみじみと飲むためにある大吟醸　岡山市　丹下　凱夫
行く末をしみじみ思う冬銀河　千葉市　海老池　洋
しみじみと鐘が鳴るはず十二月　唐津市　仁部　四郎

「支える」

（投句　232名）

奥澤　洋次郎　選

世界中支え合えたら平和なり　鳥取市　竹信　照彦
虐待を防ぐ地域の支え合い　西宮市　高橋千賀子
半分は壊れているが支えている　河内長野市　梶原　弘光
たよりないアンタ残してまだ逝けぬ　羽曳野市　中川ひろ介
総理の友情を税金が支え　仙台市　月波　与生
家計簿を支えるパパの時間外　唐津市　仁部　四郎
離れても家族は一つ支え合う　河内長野市　黒岩　靖博
輪の中で私もしっかり手を握る　三田市　上田ひとみ
闘病の日日を支えた保険金　南あわじ市　萩原　狸月
支えてた無休の妻が家を捨て　松山市　宮尾みのり
下手糞が裏で支えている句会　奈良市　宇賀　史郎
日本の農を支える実習生　西宮市　福島　弘子
電柱が暮らし支えているを知り　奈良県　長谷川崇明
損をする人が支える賭け勝負　池田市　上山　堅坊
支え切れない愛が柿の木から落ちる　今治市　永井　松柏
原発は汚れた金に支えられ　宝塚市　岸田　万彩
譲れない気持が私を支えてる　和歌山市　まつもともとこ
褒めてほめてあなたを支え続けてる　鳥取県　細田　裕花
支えたいと思った人はあなただけ　豊橋市　小松くみ子
支えがいないのでわたし別れます　大阪市　江島谷勝弘

支えにはならない人と五十年　大阪市　内田志津子
妻よ子よ支えてくれてありがとう　鳥取市　谷口回春子
9条が日本の平和支えてる　豊中市　上出　修
一巻の書を支えてた裏表紙　札幌市　小沢　淳
あだ花も良しと根っこは動かない　橿原市　居谷真理子
父母を見送り杖が欲しくなる　唐津市　坂本　蜂朗
銑の汗日本支える町工場　富田林市　山野　寿之
一本のペンが支えてくれる明日　大阪市　平井美智子
十代が地球支える気候スト　羽曳野市　徳山みつこ
ひたすらの負けじ魂老母の杖　東京都　川本真理子
懸命に支えてくれた痩せ蛙　神戸市　山口　光久
寝たきりの母を支えて嫁き遅れ　唐津市　山口　高明

佳　句

脇役が黙々支え主演賞　豊中市　水野　黒兎
母子手帳国の未来を支えてる　犬山市　関本かつ子
支え合いぶつかったりのどんぶらこ　生駒市　飛永ふりこ
サポートはしたいが俺も溺れてる　三田市　谷口　修平
惚けたって家を支えたあなたです　倉吉市　岡﨑美知江

人

病む父を支えて母のヨイトマケ　大阪市　森　廣子

地

心技体支える母の旨い飯　笠岡氏　藤井　智史

天

長男の僕が支えた母子家庭　鳥取市　岸本　宏章

軸

喧嘩の合間病病同士支え合い

「返　事」

（投句　234名）

古久保　和　子　選

ハーイハイ軽い返事に重い腰　鳥取市　福西　茶子
呼ばれたら一発返事今日も晴れ　和歌山市　福井　菜摘
いい返事冷凍保存しておこう　今治市　永井　松柏
二次会も参加しますと出す返事　塩竈市　木田比呂朗
黄信号にお返事少し遅れます　海南市　小谷　小雪
ギリギリの返信汗が浮いている　倉吉市　大羽　雄大
検討をしますにうっかりと期待　三田市　堀　正和
パタンと閉めるぶっきらぼうな返事　三原市　鴨田　昭紀
弁当箱御馳走様と空っぽに　大阪市　磯島福貴子
ラブレター確かにポスト入れたのに　岡山県　藤澤　照代
封筒で出すいい人にいい返事　橿原市　居谷真理子
ラブレター返信付きで出してみる　神戸市　敏森　廣光
満月の下でお返事いたします　奈良市　山本　昌代
飲み会の誘い返事はすぐにする　高槻市　片山かずお
不時着か返信メールまだ来ない　防府市　坂本　加代
相槌を打って仲間の色にする　三原市　笹重　耕三
幸せに暮らしていると見栄を書く　香芝市　大内　朝子
骨のない男いつでも生返事　弘前市　福士　慕情
子の返事二行以上のことはない　大阪市　髙杉　力
耳鳴りか亡母が返事をしてくれた　富田林市　片岡智恵子

芋煮会誘いの文は標準語　池田市　太田　省三
返事がない時も先生 先に行く　倉吉市　牧野　芳光
どっちともつかぬ返事に酒がいる　大阪市　柴本ばっは
斬り込んでみたがまあるくあしらわれ　札幌市　三浦　強一
ティーカップの底をさまよい返事する　倉吉市　岡崎美知江
二つ返事してから闇のど真ん中　八幡市　今井万紗子
腕組んで考え込んだのが返事　土佐清水市　辻内　次根
東京ドーム何個分だと聞かれても　弘前市　髙瀬　霜石
生返事くらいは出来るでしょう雪　佐賀県　真島久美子
句読点想定内でする返事　富田林市　関　よしみ
ハイハイと二つの返事拗ねている　三田市　北野　哲男
返信をていねいに書く秋のペン　三木市　山口ヨシエ

佳　句

ドライブへのお誘いソプラノで返事　西予市　黒田　茂代
もっともな理由を連れて来た返事　神戸市　冨永　恭子
呼ばれたらポップコーンを真似てみる　男鹿市　伊藤のぶよし
質問を忘れるくらい来ぬ返事　黒石市　北山まみどり
やわらかく言えば返事もやわらかい　大阪市　若本　安代

人

反抗期返事無いのが答えです　貝塚市　石田ひろ子

地

渡せないままの返事を抱く文箱　大阪市　平井美智子

天

答えなら多分夕陽の向こう側　高槻市　原　洋志

軸

返答に困った時のララララララ

初しぶ教室

題 ― センター

居谷 真理子

「センター」という言葉にこだわらなくていいのです。真ん中、中央、中心、中堅、ほかにも都心や半ば――。真ん中にも真ん真ん中やど真ん中。もちろん内容で表現できればそれらの言葉も使う必要はありません。ちなみに私が今年覚えたのはセンタースクラム、ラグビーの用語です。

（原は原句　参は参考句）

原 水引でセンター飾るいや栄え　一平
とびぬけて面白い着眼でした。センターという言葉要りませんね。むしろカタカナが雰囲気を壊しています。

参 弥栄を祈る堂々の水引

原 中央左右バランスとれた日は何処へ　(東)美智子

参 前後左右バランスとれた日もあった

原 センターを外れて気楽わが人生　秀　爺
下六です。重くなりました。

参 センターを外れ気楽な道を行く

原 退職後センター志向消えぬまま　秀　爺

参 退職後まだ中央に向く視線

原 マスコミに囲まれ笑顔時の人　亜希子
マスコミが囲むのはたいてい時の人です。従って「時の人」は不要。笑顔を強調して。

参 マスコミに囲まれ最高の笑顔

原 我が家では親父の居場所ど真ん中　久　直
最近では珍しいお宅かも

参 我が家では今も親父がど真ん中

参 令和でもうちは親父がど真ん中

原 ソロアーチセンターバックして唖然　和　之

参 センターを唖然とさせたソロアーチ

原 センターも思惑あって選んでる　(高)弥　生
おっしゃりたいことがよく分かりませんでした。ごめんなさい。

参 思惑がからみセンター役決まる

原 立ち話道の真ん中犬あくび　奈津子
五・七・五とブツ切れの感じです。「犬あくび」は省略して「道の真ん中」にポイントを。

参 立ち話道の真ん中陣取って

原 コンチキチン祭太鼓がセンターに洋　一
コンチキチンといえば祇園祭のおはやし。

参 コンチキチンとりまいている人の波

原 センターに居て周囲に気を使い　由紀子
中六で落ちつきません。

参 センターに居て皆さんに気を使い

原 キャプテンの号令響く野球場　厚　江
キャプテンはやはりチームの中心ですよね。句に人間味を加えて。

参 キャプテンの声がナインを引き締める

原 事故の元センターラインはみださず　(高)千賀子
交通安全の標語のような…。発想を広げて川柳にしましょう。

参 生き方はセンターラインはみ出さず

原 目立ちた我利いつもセンターピースする　厚　子

参 目立ちたがりいつもピースでセンターで

原 猿山のボスの引き際いかばかり　閑
「いかばかり」のとぼけようも面白いのですが

参 猿山のボス引き際を考えず

参 猿山のボスも歳には勝てなんだ

原 わたくしのセンターにいる黒い蛇　よしお
思いきった句です。「センター」の語が軽くて浮きます。

参 わたくしの芯にまきつく黒い蛇

原 センターがヒットを阻止し夏終る　(川)信　子

言わずと知れた高校野球

参 センターの好捕が夏を終わらせた

原 地球儀の中心はまず日本にす　弘　美

「日本にす」の「す」が苦しい。

参 地球儀の中心やはり日本でしょ

原 真ん中はどっちの味方ヨ敵の人　(澤)良　子

分かりにくい句でした。句意が変わるかもしれませんが

参 敵陣の真ん中に居る風見鶏

原 イデオロギーセンター付近僕の位置　ひでお

このままでもいいのですが、動きを加えました。

参 イデオロギー中道を行く僕の足

原 なんやかや言えどセンター恰好良い　(貝)正　子

面白い句です。

参 悪口も浴びてセンターかっこいい

原 センターベンツマネキンの尻良い形　(貝)正　子

ファッション用語の「センターベンツ」。むずかしい言葉をよく川柳になさいました。マネキンでは動きがないので

参 センターベンツモデルの尻は良い形

原 真心のセンターフライ受けとめる　睦　子

独自の表現。こんな句は大好きですのでいじってみたくなりました。お許しを。

参 真心が落ちてきました真上から

原 福祉センター老いの出入りが目立ちます　風　露

参 福祉センター出るも入るもご老人

原 投げる球狙いはセンターはずしてね　開　子

参 真ん中は外せと捕手が言うた球

原 センターで跳ねる子きらり輝いて　正　美

「跳ねる」はダンスでしょうか

参 センターで踊るあの子が持つオーラ

原 決定権うちのセンター未だ母　隆　子

参 決定権未だ握っている老母

原 中枢部日本全国金配分　行　久

漢字だけでまとめた句。下六が残念。

参 中枢があっちこっちに金を撒き

原 センターで趣味の花咲け定年後　佳　子

参 中心に趣味を咲かせる定年後

原 癌センター命永らえ祈りかな　ゆ　き

難しい句材に挑戦なさいました。

参 癌センター祈りの中に立っている

原 姑にセンタ部分仕込まれる　ミヨノ

参 姑に家事のかなめを仕込まれる

原 家計簿がプラマイゼロで奇跡的　令位子

センターという題で「プラマイゼロ」とは、お見事！

参 家計簿がプラマイゼロという奇跡

原 お約束センター試験日降る雪　くみ子

合計十七音なんですが、リズムがねえ。

参 お約束の雪にセンター試験の日

［佳　句］

センターもレフトフライも居場所なし　不二夫

センターより居心地のいい隅の席　勝　正

センターの高さ不足をプチ整形　(高)道　子

おっとっとセンターライン越えている　(二)千　代

［今月の推せん句］

野球が好きにセンターに彼がいた　山川　寧

センター返し仕事も恋も正統派　倉本　一弥

役を終えまだ真ん中にいるお臍　中島　通則

お知らせ

初歩教室年間賞は取りやめと致します。

今後は教室「**卒業**」を目指してお励み下さい。また、卒業後は是非とも川柳塔社同人としてご活躍下さるようお勧め致します。

川柳塔鑑賞

同人吟　川端一歩

―11月号から

なんてことピンチの裏にまたピンチ

古今堂　蕉子

「もっと笑いの川柳を」その先頭に立って奮闘されている。そのユニークな発想と仲間を束ねて引っ張っていくエネルギーはすごい。ピンチが何度続こうがへこたれる人ではないと思います。

信じてる背を押す味方居ることを

石田　ひろ子

「人が人を呼ぶ」と言いますから、作者自身のまわりにいい友だちがいて背を押してくれるのでしょう。こんな優しい川柳を読むと思わず叫んでしまいます。「川柳っていいなア」。

川柳塔の表紙毎号楽しみに

七反田　順子

表紙のきり絵毎月楽しみにしている人は多いと思います。お名前は前田尋氏。川柳塔誌NO．939号より、直原玉青先生の後を引き継いでおられます。

鏡しみじみこれが老いるということか

大久保　眞澄

淡谷のり子さんは『美しく年をとりたい』の随筆で、「この年になってもまだ仕事が出来る、歌もうたえる」と喜びを語っています。私たちも川柳を詠めることを喜びましょう。

マイバッグ持てば地球も生き延びる

村田　博

地球の汚染も温暖化も一人ひとりの心掛け次第で改善ができるでしょう。同時に、国際的な規制各国の抜本的政策も必要かと。許せないのはこれに背を向ける国や人たちがいることです。

太鼓持ち一度はやってみたかった

後藤　宏之

発想がすごい。一般的に太鼓持ちは悪い印象が強い。何故それにと疑問がわきますが作者は知っています。太鼓持ちの本当の喜びと悲しみを。

心配をかけない嘘を考える

夏目　一粋

何度も読み返し胸にジーンと沁みました。本当をぶつけ合って乗り越える道もあるでしょう。でも多くは作者のように気配りをして生きる人が多いのではないでしょうか。

寅さんになるか山頭火目指すか

堀　正和

残りの人生同じ生きるなら、どちらかを体験したいとは思いますが心で思っても実行はむつかしい。私流の寅さん、私流の山頭火なら出来るかも。

眩しいなあ勝者敗者の甲子園

酒井　紀華

春と夏、球児たちの真剣な汗と涙にいつも感動をします。眩しいがピッタリ。思えば甲子園と川柳塔はほぼ同年兵です。両方の歴史は眩しい金字塔です。

福祉とは幸福とある広辞苑

雪本　珠子

「憲法25条は…」とはよく聞くセリフですが、広辞苑にあるとは知りませんでした。その他の辞書もこの表記が広がっていけばいいですね。

ITに古稀のテンポを噛われる

藤井宏造

IT・AIなどの進歩で日常生活が変わり従いて行けない。ITは上からの目線だ。今に見ていろお前の弱点を見付けてやるから。

いい音やなあ路面電車へひとり言

大川桃花

アベノから住吉神社へ今も路面電車は走っています。句はその様子でしょう。昭和30年代、市電は大阪市内を縦横無尽に走っていました。「市電から川柳仲間が多く生まれました」

高齢者居るなと分かるテレビ音

松岡篤

思わず「そうだ」とうなづきました。娘が来てまずやることは「音が大きい」とテレビの音量を下げて言います「近所迷惑や」と両隣とも高齢者なのです。

飲みすぎて十二時間も寝てました

江島谷勝弘

ユーモア川柳が少ないと言われて久しい。作者もユーモアがうまい一人だが、同人から一日も早く、豆秋・史好さんを継ぐ人が生れて欲しい。

迷惑を掛けぬ長生きなんかない

菊地政勝

そうですね。さすればどう長生きをすればいいのでしょう。元気のうちに、この人のためならと回りの人が言ってくれるように良いことを積んでおくこれしかないみたいですね。

酒飲んで湧いた遣る気はすぐ醒める

藤塚克三

親友の高須賀金太が言っておりました。「『川柳大阪』を大きくしてやる」と翌日「何か悪いことを言ったかな」と。死んだら僕との約束守れないじゃないか。

人類の損失日本人が減る

奥時雄

壮大な作品に驚きました。でもじっくり考えるとその通り。あの苦難を乗り越えて今の平和を築いて来た民族なのだから。礼儀のよさは天下一品。

人生の踊り場あたりシャンと立つ

鴨谷瑠美子

作者は今やすべての面で絶好調。歴史ある藤井寺川柳会を着々と広げつつあり、川柳づくりもどこの句会でも上位に多く入選しています。

戦死者がくれた平和を噛みしめる

吉村久仁雄

あの戦争でわが同胞多くの命を失った。その多くは敵の弾でなく、食うものを与えられずの餓死でした。「噛みしめる」のことば心して味わいたい。

言葉では慰められず手を握る

寺井弘子

「句は人なり」と言います。作者の句には人柄が滲み出ています。握手をされた人も感動したことでしょう。

ゴミ減らすスイカの皮を漬物に

金川宣子

環境汚染をよくするにはお金も知恵も必要ですが、まず一人ひとりの心掛けが大切かと。

不登校でも君の居場所はきっとある

今井万紗子

この句が教育の頂点だとおもいます。教師も親も回りの者もこの目で接したら明りが見えるのでは…。

騙し絵の中へ左脳が行ったきり

横山里子

遠くからわが家の灯り見て安堵

小谷小雪

水煙抄鑑賞

—11月号から

矢倉五月

皆元気墓の話に盛り上がる

定松定枝

いづれ近いうちにはと思いながら、実感の湧かぬ老人が寄ればつい話題になりますが、それとて今は元気だからですね！私も友人と他人事の様に盛り上がって話しますが、誰も重病な人がいない場で出来る事です。元気だからこそ出来る話です。穿ちがよく効いています。

まだ返納しません恋の免許証

石田孝純

世間も家族もこればかりは返納を強制できません。嬉しいですね。いくつになっても返納せず若さを失わず、楽しく元気に生きましょう。

恋の免許証はどこで収得されたのでしょう。教えていただいて、私も更新の手続に行きたいくらいです。

リサイクルショップにあった母子手帳

月波与生

昨今のいたいけない幼児殺しの親のニュースに鳥肌が立ちます。与生さんはそれをこんなにクールに諧謔の効いた句に仕立てあげられたのです。脱帽の他ありません。

リサイクルショップと母子手帳の取り合わせの凄い発想につくづく参りました。今の日本は狂っているのでしょうか。

効く効かぬより気休めに飲むサプリ

清水久美子

ゴキブリを追いかけ今日のリハビリに

土井輝恵

老いは老いなりに何とか健康を維持しようと頑張っているのです。サプリメントもリハビリも思いつく限り試してみる涙ぐましい日々です。その努力の結果日本は百歳まで生きられる国になったのですね！

家電の声に応えたくなる独り者

上山堅坊

独り身には身に応える実感句です。同感同感と読みました。

おっちゃんが猫撫声でペット呼ぶ

中山昭美

思わずウフフの句です。いつも強面で無愛想な男が人が変わった様にやさしく甘い声でペットを呼ぶ様。目に浮びます。陰で妻は何じゃらホイと思っています。対称を孫とせずペットとしたところに成功ありと読みました。

背を伸ばし蝉の遺言聞く大樹

森廣子

盛夏の激しい蝉の鳴き声が遺言だったとは…、それならば次の出会いまではとしっかりと聞いてやる樹、蝉はいったい何と言い残したのでしょう？次に産まれてくる時はもっと沢山の子供達に出会えますよう。きな臭さの無いきれいな空気を吸えますよう。そして増々大樹になった緑一杯の日本でありますように。

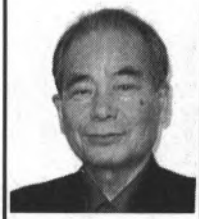
蝉一匹でいろんな事を思いました

文句無し聞える見える食べられる

柴本ばっは

8月のあいさつ一語で足りました

近藤勝正



追悼 前たもつさん

西出楓楽

「えっ！今何とおしゃいました？もう1度お願いします」。

10月4日20時頃のこと、前たもつ夫人からの電話がかかりました。

「前がなくなりました」。

こんな悪い冗談があろうはずもなく、真っ白になりそうな頭を必死でこらえながら、冷静に受け入れるほかありませんでした。

夫人の話によると、日課になっている早朝ウォーキングに1人で行かれ、帰宅後、何時ものように夫人と2人分の朝食の準備をされたそうです。

食後しばらくして、鳩尾のあたりが痛むからと、近所のかかりつけの医院へご夫婦で歩いて行かれました。

医院ではすぐ心電図を撮られた結果を見て、救急車が呼ばれ国立大阪医療センターへ。到着後緊急手術準備と慌しく状況は流れました。

廊下でたもつさんとナースの世間話を聴きながら、夫人が手術承諾書に署名しておられる間に容態は急変、あっと言う間に天国へ旅立たれたそうです。

4日13時50分、急性心筋梗塞でした。

昭和7（1932）年生まれのたもつさんは平成4（1992）年、寝屋川市小学校校長を退職され、同年から川柳を始められました。その後NHK文化センター教室で、橘高薫風先生から10年間薫陶を受けられ、作句力に磨きをかけられます。

どのような経緯で趣味として川柳を選ばれ、薫風先生を師として選ばれたかを聞かなかったことを、今後悔しています。

お2人の出会いは運命的ともいえるものがあり、たもつさんは薫風先生に心酔しておられ、先生はたもつさんに全幅の信頼を委ねておられました。

先生が平成13（2001）年春の叙勲で、木杯一組台付を賜与された時の祝賀会の準備運営には、粉骨砕身の働きをされ大成功に導かれます。

川柳塔本社ではその人柄・リーダーシップ・作句力を認められ常任理事から副理事長を務められ、その後相談役として大所高所から川柳塔を見守って下さっていました。

平成20（2008）年、喜寿を記念して川柳句集『山びこの詩』を上梓。「川柳は人なり」の言葉の通り、真っ直ぐな人柄の表れた心打つ句集でした。

平成23（2011）年、夫人やご家族に導かれてキリスト教の洗礼を受けられてから、一層人柄に磨きがかかり、たもつさんを褒めこそすれ悪く言う人は、誰ひとりありません。

人が忽然と消えるマジックのように消えてしまわれたたもつさん。自宅は歩いて10分足らずの距離で、お互いに往き来して川柳の話をしていた間柄です。

月並みな言葉ですが本当に惜しいお方を失いました。この空白が生涯に埋まる日が来るでしょうか。今はただ呆然と悲しんでいます。

『麻生路郎読本』余滴 (55)

路郎の「川柳人協会」③

桒原道夫

「川柳雑誌」昭和11年7月号で、路郎は川柳人協会の創立を発表したが、「川柳人協會々則」も掲載している。

第一章　總　則

第一條　本會ハ川柳人協會ト稱ス

第二條　本會ハ事務所ヲ大阪市に置ク

第三條　本會ハ川柳の社會化並ニ向上ヲ圖ルヲ目的トス

第四條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一、會員相互ノ研究並ニ親睦ヲ圖ルタメノ會合

二、其他必要ナル事業

第二章　會　員

第五條　本會ノ會員ハ之ヲ名譽會員及正會員ノ二種トス

第六條　正會員ハ會費トシテ一ヶ年三圓又ハ半ヶ年一圓六十錢ヲ前納スルモノトス　會費前納ト共ニ正會員章ヲ發行ス

第七條　既納會費有効期間ヲ經過シタル後、次期ノ會費ヲ納付セザルトキハ其ノ資格ヲ喪失スルモノトス

第八條　名譽會員ハ理事長之ヲ推薦ス

第九條　會員ハ毎月柳誌「川柳雑誌」ノ配布ヲ受クル外左ノ特典ヲ享有スル事ヲ得

一、柳書柳誌ノ取次並ニ割引

二、本會及川柳雑誌社主催ノ句會其他諸會合費ノ割引

三、特種會合ノ會費免除

四、川柳紙上相談

五、一路集應募資格

第三章　役　員

第十條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長一名　常任理事二名

理事若干名　評議員若干名

第十一條　理事長ハ川柳雑誌社々主之ニ任ジ其他役員ハ理事長之ヲ推薦ス

第十二條　理事長ハ會務ヲ總理シ理事ハ之ヲ補佐ス

第十三條　評議員ハ本會ノ重要會議ニ參與ス

附則　本會則ハ評議会ノ決議ニヨリ變更スルコトヲ得

事務所は、大阪市西成区玉出本通三丁目、川柳雑誌社内である。協会の目的は、川柳の社会化と向上であり、そのために会員相互の研究と親睦を図る会合をするという。

路郎は、「川柳雑誌」同年8月号「川柳人協會にお入り下さい」では、それを次のように訴えている。

〈川柳人協會はホントの川柳を社會に弘く知らせるためと、川柳の愛好者がお互ひに仲よく手を繋ぐために生れた横の運動をするのが目的です。從つて協會の總會は全國各地で次ぎ〳〵に開會され、斯界の大家が出席して講演や句作によつて向上發展を期する一方、相互の親睦を圖る機會を作りたいと思つて居ります。川柳人協會が主體となり各地吟社の共同後援で大會なども開きたいと存じます。

會員は毎月「川柳雑誌」といふ柳誌を配布される外、諸會合に際しては會の性質により入場料の割引又は免除、其他いろ〳〵の特典を受ける權利を持つて居ります。入

會は誰でも何時からでも出來ます。申込書に會費一ヶ年分三圓、半ヶ年分一圓六十錢を添えて協會へお送り下されば正會員章をお届け致します。（略）〉

会則と右の文章を読むと、川柳人協会に入ると「川柳雑誌」が配布されるという点に誰もが首を傾げることだろう。会費は1年3円、半年1円60銭。当時の「川柳雑誌」の代金は1年3円60銭、半年1円80銭であり、川柳人協会員の会費より若干高い。どんな違いがあるのか。会則の第九条の五に、「一路集應募資格」とある。「一路集」は「川柳塔」にも引き継がれている課題吟の募集欄である。「川柳雑誌」には、雑詠の「近作柳樽」があったが、それには投句できないということで差を付けたのだろうか。一方、会則の第九条の二では、川柳人協会員にだけ句会費の割引等の特典を与えている。これでは、川柳人協会は、「川柳雑誌」の販売を拡大するためにもあると疑問を持つ人も当然出てくるだろう。その点について、路郎は、「川柳雑誌」同年9月号「川柳人協會と私」で、次のように述べている。

〈川柳人協會の仕事について誤解する第一のものは、「川柳雑誌」を川柳人協會の機關誌とする點にあるのであらうと思ふ。

その第一は「川柳雑誌」を刊行した上に、例へ薄つぺらなものでも川柳人協會の機關誌を刊行することは容易でない。それよりも協會の目的はもつと外にある。協會は協會らしい仕事をはじめねばならぬ。徒らに費用ばかりかゝる機關誌を出してその繼續に苦しむよりも「川柳雑誌」の一部を間借りする方が樂々と仕事をやつて行けると思ふ。仕事の內容については次號あたりからボツ〳〵發表する考えである。第二は「川柳雑誌」も川柳人協會の會員が增加すれば多少とも經營上にお蔭を蒙ることになる。しかしそのお蔭を蒙る點にケチくさい反感があれば何をか云はんやであるが協會のために又私費を投ずることも考慮に入れていただかねばならないのである。

私の經營する「川柳雑誌」が間貸しをして多少とも稼いだと解釋されても私が川柳界に働くと稱して自己の生活を保證せうと解釋されても何等はづるところはないのである。それは日本帝國の爲に一身を犧牲に供して戰ふ軍人にしても彼等は俸給をもらつてゐるのである。恩給さへももらつてゐるのであると言ふ事を考へて頂きたい。私は自己の從來の職業を放擲して柳界の爲に働く以上私が辛じて生活し得るものは當然柳界によつて與へられるものと確信してゐるものである。「川柳雑誌」の刊行によつて或は私の貧しい柳話や選句によつて或は私の自由な揮毫によつて生命の保全を期したいと考へてゐるのである。

右に述べた私の言辭が御承認願へれば軍人が一死以つて國にむくゆると等しく私が川柳人協會を設立して柳界の爲に骨を埋める覺悟を御理解願へる事と思ふ。何分の御聲援がお願ひしたい。

× ×

終りに川柳人協會の仕事は川柳人の意志の總和によつて行ひたいと考へてゐる。從つて協會の總會の如きも先づ大阪や東京から始め、全國の理事や評議員の投票決議によつて總會地を決める事はオリンピックのそれの如くやらうと思つてゐる。私をお信じ下さるならば或は川柳人協會の創立が柳界にとつていゝ事だとお考へになるならば出來るだけ勇敢に卽刻入會の申込みをして頂きたい。〉

（次回に続く）

108

クリスマスを詠う

12月に入ると約束事のようにジングルベルのメロディーが聞こえてきます。日本人にとって「クリスマス」は、今や年中行事の一つになっていますが、このような諸外国とはいささか趣が異なる「日本型クリスマス」とも言うべき行事が定着したのは、明治時代の終わり頃からのようです。

ハロウィンに負けてはならじクリスマス　高杉　力
ジングルベル聞いて心も走り出す　上出　修
ジングルベルに買物客もあおられて　松村　理江
クリスマスソング伴奏嬉しそう　阿部　紀子
クリスマス家族蛍光色めいて　柴崎　昭雄
ひび割れの街でジングルベルを聞く　上田　紀子
ジングルベルにまぎれ悲鳴はきこえない　澁谷さくら

数年前から若者の間では「ハロウィン」が盛り上がっているようですが、中高年にとっては馴染み難い感じがします。

あの軽快なジングルベルを聞くと身も心も弾むようですが、被災地ではそのように浮かれてばかりはおれません。

また、内戦が続く国では市民が逃げ惑い、貧しい国では子供たちが飢えた手を伸ばして救いを求めていますが、ジングルベルに浮かれている街角には届きません。

節電と相性悪いクリスマス　竹信　照彦
クリスマスLEDの独壇場　多田　雅尚
クリスマスカード平和な雪が降る　星野　かよ
宛先を街のあかりで見るサンタ　宇都満知子
イエス様は信じないけどクリスマス　仁賀　俊雄
クリスマスどうしているのお坊さん　奥村　五月
クリスマスお寺はとうに寝てしまい　西島　○丸

ビルの窓や街路樹を彩る電飾も、節電のせいかいつの間にかLEDの冷ややかな光ばかりになってしまいました。

仏教国である我が国にクリスマスの行事が定着したのは、良く言えば「宗旨の違いなど気にしない」「楽しければ良い」という大らかな国民性でしょう。悪く言えば「節操の無さ」とも言えます。もちろん、住職が「イエス様は信じないけどクリスマス」などは有り得ません。他の宗教を攻撃することもありませんので「とうに寝ている」かもしれません。

クリスマス盛り上がらない老いの家　出口セツ子
ケーキを崩すたった一人のクリスマス　倉益　一瑤
クリスマス孤独の部屋は静かなり　小澤　幸泉
マニキュアもクリスマスだとさり氣なく　山口　美穂
知らぬのが良い事もある子のサンタ　加藤　茶人
コスプレのサンタを見つけ固まる子　高岡　弥生
クリスマスソングと共に消えた恋　加藤　鰹

子どものいる家庭ではケーキを買ったり、ツリーにプレゼントをぶら下げたり賑やかなことです。しかし、その楽しい時期も束の間、子どもが巣立った後は「二人だけ」あるいは「一人だけ」のクリスマスとなって盛り上がりません。

クリスマスソングの代表的なものと言えば、山下達郎の「クリスマス・イブ」と松任谷由実の「恋人がサンタクロース」でしょう。その懐かしいメロディーを耳にすると、楽しかった数々のシーンと共に辛い思い出も蘇ってきます。

第34回 国民文化祭・にいがた2019（10月6日）

第34回 国民文化祭・にいがた2019「開港150周年―みなとまちロマン新潟で川柳の祭典」選考結果、事前投句は1,719名、当日参加は333名。大会各賞は下記のとおり。（太字は同人）

一般部門・入賞句

文部科学大臣賞

島あげて医師を波止場で出迎える　東京都　秋広　まさ道

国民文化祭実行委員会会長賞

小さなグー大きなパーが受け止める　**鳥取県　竹村　紀の治**

新潟県知事賞

校内の夢の島です保健室　宮城県　雫石　隆子

新潟県教育委員会教育長賞

修羅越えて私の水になりました　宮城県　丸山　あずさ

第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会会長賞

戦争の匂いの消えぬ島の錆　宮崎県　間瀬多　紋章

新潟市長賞

盆踊り覚えわたしの街になる　千葉県　橋本　祐子

新潟市教育委員会教育長賞

わたくしの中のドナーを抱きしめる　千葉県　鈴木　和枝

第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭新潟市実行委員会会長賞

お守りが背中で踊る通学路　岐阜県　紙谷　清

一般社団法人全日本川柳協会理事長賞

淀みなく弔辞を読んで風になる　岩手県　熊谷　岳朗

新潟県川柳連盟会長賞

あさってへ百の蕾がスタンバイ　大阪府　森井　克子

二次選者　小島　蘭幸・岡崎　守・赤井　花城・平田　朝子・竹田　光柳

（投句208名）

折角の秋も、台風被害による野菜の高騰や生活必需品の値上げ、おまけに消費税率も上がり、一〇％やら八％やらで混乱し、あげくに世はキャッシュレスへ移行しつつあるとかで、初詣のお賽銭もカードでピッとするのかしらん。

こうなったら、最後まで生き残ったゴキブリみたく現金主義を貫いてやる！とひとり怒っているわたくしです。

では、ナビを。

協力はしない八十路のキャッシュレス　西宮市　福島　弘子

（評）今更ペーペーだなんて、あ、ペイペイでしたか、どっちにしてもお断り願いたい心境デス。

美しくなくてはならぬ毒きのこ　羽曳野市　中川ひろ介

（評）人間にしても美人は何かしら毒を持っていそう。でも、だからこそ惹かれてしまうのでしょうねえ。

今の世も生きていたとは越後屋さん　大阪市　磯島福貴子

（評）ほんと、あのニュースには笑い事では済まないはずなのに笑わされてしまいました。越後屋に悪代官、今も。

着飾るとプラスチックな声を出す　五所川原市　むらのひとり

（評）プラスチックな声、に思い当たるふしがあります。どことなく逆撫でされているようなアレです。

おあいこだ僕のぼやきと妻の愚痴　藤井寺市　鈴木いさお

（評）結構お似合いの御夫婦かも知れません、どちらかの一方通行だったら寂しいですものね。

難波へ行こうかインバウンド下火　堺　市　内藤　憲彦

（評）外国人観光客が減って大変なところも多いようです。とは言うものの、まだ沢山いらっしゃるのも事実。

アイドルもバンダもそれぞれに悩み　河内長野市　山岡冨美子

（評）共通点はどちらも人気者で他人がほっておいてくれないこと。独りは寂しいと思われがちだけど、まだマシかも。

逆上がり私もできた頃あった　香芝市　山下　純子

（評）若かった頃は、とは言いたくありませんが、今はもう無理です。第一、足もお尻も上がりませんもの。　羽曳野市　吉村久仁雄

水飲んでも太る米食っても痩せる

（評）水を飲んでも太るのは笑えますが、お米を食べても痩せるのは何だか切ないです。思いどおりにいかぬ世の常。　高槻市　島田千鶴子

時にする衝動買いで憂さ晴らし

（評）そんなに高価なものでなくっても、買い物すれば不思議とストレスが緩和されます。女子は特にね。　貝塚市　石田ひろ子

おばあさんになった月夜のかぐや姫　弘前市　高瀬　霜石

一笑に付されたことは百度ある　西宮市　西口いわゑ

ペンを持て前頭葉が申します　米子市　八木　千代

君が代へ辿り着くかも楕円球　大阪市　笠嶋　惠美

貧乏は気楽金持ちしんどいな　三田市　堀　正和

ゆっくりと昼寝ぐらいはさせてんか　松山市　宮尾みのり

ちまちまと貯めオレオレに持ってかれ　橿原市　居谷真理子

丸顔の馬で速くは走れない　石川県　堀本のりひろ

コップ酒故郷の空にワープする

大阪市　柴本ばっは
ガンバッテうちが応援してまっせ
尼崎市　清水久美子

河内長野市　梶原　弘光
浪費家の妻に特効薬が無い

香芝市　大内　朝子
カネカネの大人を叱るグレタさん

札幌市　三浦　強一
わたくしの忍耐力を試される

大阪市　江島谷勝弘
貯金箱壊して買ったカブトムシ

豊中市　上出　修
なんとなくヤバイ予感をしてしまう

岡山市　氷見　心咲
よく見てよ僕はブランド牛ですよ

弘前市　福士　慕情
怖くない動物愛護デーだから

松山市　柳田かおる
家計簿の赤字思案の預金箱

防府市　坂本　加代
多色刷りにしますあなたの呼吸まで

佐賀県　真島久美子
満腹になるまでコイン食べている

大阪市　高杉　力
封印は解かないニッポンのアリス

奈良市　山本　昌代
若者よつもり貯金などするな

大洲市　花岡　順子
ふたりして出かけましょうか秋の空

池田市　太田　省三
ほらごらん私の方が背が高い

生駒市　飛永ふりこ
片鱗のままで引退する選手

仙台市　月波　与生
小太りをいやに諌めるキリギリス

大阪市　栃尾　奏子
家出したふるさと鍵は開いていた

箕面市　出口セツ子
あきらめた朝に真実見えてくる

鳥取市　福西　茶子
貯金箱割りたくなくて貯めません

三原市　笹重　耕三
もう少し痩せて人魚になるつもり

大阪市　森　廣子
ソテーにしますかしゃぶしゃぶにしますか

黒石市　北山まみどり
矛盾したこんな形で君に逢う

弘前市　高森　一呑
いつだって心の中はパリモード

大阪市　藤田　武人
待つだけの人生ポツン土となる

神戸市　奥澤洋次郎
国宝の木魚叩けば良い音色

東京都　川本真理子
溜るのか三途の川の渡し賃

東大阪市　佐々木満作
そのままに置きたい夢は夢のまま

三田市　谷口　修平
サーカスの豚を調教しています

河内長野市　大島ともこ
夕立ちがお詫びに架けた虹の橋

和歌山市　古久保和子
ずっと待っていましたお声かかるのを

大阪市　田中ゆみ子
ばあちゃんは現金主義で小金持ち

奈良市　宇賀　史郎
表現の不自由窓を閉めなさい

富田林市　関　よしみ
キャッシュレス無用になった貯金箱

大阪市　宇都満知子
鼠さんお渡しします全財産

八王子市　川名　洋子
正午です影が小さい上天気

豊中市　藤井　則彦
同じ物食べて夫婦の腹回り

松江市　相見　柳歩
膨れっ面そろそろ棚に上げようか

和歌山市　まつもともこ
惚れられる縦横ともに太いのに

三木市　山口ヨシエ
叩いても割れない強いメンタルで

さあ急げ令和元年すぐ暮れる

2月号発表
(12月15日締切)

(平本　霧石人　画)
柳箋に2句

本社 十一月句会

◇十一月七日（木）午後一時
アウィーナ大阪

ようやく秋めいてきた七日、十一月句会は一二六名（内投句者九名）の参加で開催された。句会に先立ち、過日亡くなられた同人細川花門さん（神戸市）と相談役前たもつさん（大阪市）のお二人に黙祷を捧げた。

今月のお話はふあうすと川柳社の長川哲夫さん。題は「『遺言』というかたち」。遺言書の執行を信託されることも多い銀行にお勤めの経験から、本来愛する人を守るための遺言にまつわる川柳を紹介された。「お菓子なら仲よく分けた幼き日」の子供に親は「『内緒だぞオマエだけに』と皆に言い」、「開けたらばホームの園長宛でした」という落ちだったり、「梅干しの壺に手を入れ探す遺書」が「『筆跡が父と違う』ともめ始め」たりもする。興味深いお話を伺った。前段に、川柳塔が日本の川柳会を牽引する、という嬉しい励ましがあったことも付記したい。（眞澄）

月間賞は初代正彦さん（高槻市）

（司会—真理子・志津子）（脇取—扶美代・隆彦）（受付—寿之・福貴子）（懸垂幕墨書—耕治）

（清記—憲彦・勝弘）

席題「買う」　佐々木満作　選

美しい景色を買っているツアー　山岡冨美子
失言も多いが友の手腕買う　石田　隆彦
バーゲンと聞けば自然に足が向く　山下　純子
反感を買って正論押し通す　小野　雅美
買い物はいつも目薬貼り薬　新家　完司
隣国の不買運動悲しいな　田中ゆみ子
我が世の春生きた証に日記買う　今井万紗子
初競りの蟹落札は私です　平井美智子
月の土地買いましてんとおばあちゃん　柴本ばっは
迷ったらあかんどっちも買うときや　上田ひとみ
円を売りユーロを買っている総理　三宅　保州
大金を積んでも買えぬ孫曾孫　米澤　俶子
建前は夢を買ってる宝くじ　森松まつお
お金では買えない君の愛が欲し　木嶋　盛隆
新しい靴新しい夢を見る　上田ひとみ
鞦韆を買うトランプの好き勝手　村上　直樹
今日こそは今度こそはと穴馬券　柿花　和夫
出来合いの料理が流行るこの時世　榎本　舞夢
見られたくないものを買うセルフレジ　片岡　加代
可愛さを買って一緒になったのに　山岡冨美子
安いうち買って置きます月の土地　森　廣子
古本は読む新本は積んでおく　上田　和宏
嵐果てせめて理由ありリンゴ買う　緒方美津子
メルカリで農家自慢のトマト買う　きとうこみつ
エコバッグ持参で減らす温暖化　磯島福貴子
妻のメモに無いもの買うて叱られる　山田　耕治
身の丈で失笑買った文科省　前田　紀雄
千鳥足買った土産はしかと持つ　延寿庵野鶴
レジ袋提げた男の秋の影　長川　哲夫
努力買い赤点の子も師は褒める　水野　黒兎
こんなにも弾む本買うた日の夜は　上野多恵子
頂点を買うから孤独ついてくる　たむらあきこ
売られても喧嘩は買わぬ平和主義　大内　朝子
積まれても人の寿命は買えません　中島　一彌
重いので土産は話だけにする　阿部　俊八
修羅場でもぴくともしない度胸買う　大西　將文
価千金買うに買えない京の秋　和気　慶一

佳

木枯しへ御座候をふたつ買う　片岡　加代
買いすぎた美味しい秋をもてあまし　指宿千枝子
皆の嫌がること買って出た無口　米澤　俶子
やさしさも一緒に買った道の駅　石田　隆彦
才能より熱意を買って伸びた部下　藤井　則彦

人

いわし雲みて夕飯を買いに行く　澤井　敏治

地

安心を買う手作りのミニ野菜　原田すみ子

天

今日も又ゆとりを呉れる花を買う　伊達　郁夫

軸

思い付きで買った品物お蔵入り

兼題「腹」　緒方美津子　選

昨日のうつ腹に収めて電車乗る　寺嶋美恵子
グウグウとカリカリ忙し腹の虫　寺嶋美恵子
腹巻に全財産とパスポート　萩原　狸月
お腹の中すっかり見せて無二の友　松尾美智代
腹割って話してからの無二の友　大内　朝子
原発で私腹肥やしたお偉方　藤井　則彦
腹いせに蹴った小石にけつまづく　渡辺　富子
腹帯を締めた時から母の顔　藤井　宏造
うかうかと乗った自分に腹が立つ　中村　恵
褒め言葉孫に言わせる腹話術　北野　哲男
取り分けてもらうと腹が物足らず　椙元　世津
自腹やろな総理主催の観桜会　坂上　淳司
引っ込めた涙腹へと満ちてきた　小野　雅美
八十路の悟り些細なことに腹立てぬ　山本希久子
英会話 腹のたしにもならぬ僕　内藤　憲彦
腹割って話せぬままにきた冬至　椙元　世津
グレタさんの一喝腹に落ちました　前田　紀雄
腹に顔画かせて踊る太鼓持ち　荒川　鈍甲
腹案は最後に出そう電子辞書　酒井　紀華
秋一人腹から笑うこともなく　横山　里子
満腹を知らない子等も住む地球　山野　寿之
腹の内けっして見せぬ古だぬき　村上　玄也
全没でも飲みに行くぞと太っ腹　斎藤　隆浩
肚決まる空が一気に広くなる　西出　楓楽
腹据えてかかる子育て親育て　中村　恵
満腹になれば許せることばかり　平井美智子
据え膳も食えぬ自分に腹が立つ　川端　一歩
満腹の赤子はとろり夢の中　大内　朝子
腹割って話して見切りつけました　古今堂蕉子
腹が立つ小判に化けた電気代　前田　紀雄
仕事などしていませんが腹は減る　新家　完司
片腹が痛いと思われてないか　立蔵　信子
腹八分わかっちゃいるが守れない　鈴木いさお
原点に腹ペコだつた日の記憶　片岡　加代
自腹切ったことありますか総理殿　三宅　保州
腹帯と優しい加護で母になる　山根　妙子
この腹に三キロ程の皮下脂肪　森松まつお

佳

粥腹で戦後を耐えた父の骨　木本　朱夏
腹一杯で幸せだった昭和の子　平賀　国和
腹据えて現実を見るのは女　原田すみ子
外交は高度な腹の探り合い　太田としお
腹にないことは言葉になりません　田中ゆみ子

人

被災地に腹から笑う日よ早く　油谷　克己

地

すきっ腹あのころ頭冴えていた　山岡冨美子

天

健康で五臓六腑が笑ってる　福田　正彦

軸

ヒト科には十月十日という掟

兼題「かわいい」　小谷　小雪　選

かわいいはアニメのファンの国際語　萩原　狸月
仕草までママそっくりのオママゴト　石田ひろ子
鬼になる前はかわいい妻でした　石田　隆彦
追伸にかわいい文字で好きとある　鴨谷瑠美子
年下の彼が頼んだ苺パフェ　栃尾　奏子
いきなりのハグに爺ちゃん頬染める　松浦　英夫
あの頃の君はコスモス揺れる髪　上田ひとみ
ぐい飲みもかわいいのへと変えられた　堀　正和
豆紳士レディーに晴れの七五三　米澤　俶子
ふくらんだ頬は怒っているらしい　立蔵　信子
車椅子みんなで押したかわいい手　伊達　郁夫
初恋のミヨちゃんかわいかったなあ　藤井　宏造
無理をせずかわいいおばあちゃんになろう　安土　理恵
耳までも震えていたねプロポーズ　小野　雅美
時々は憎いこと言うおちょぼ口　北野　哲男
可愛いと言われ戦力外と知る　森田　旅人
かわいがり過ぎて横着子も犬も　村上　玄也
七十五みんなかわいく見えてきた　江島谷勝弘
わが連れは童女で夢の中に居る　荒川　鈍甲
口惜しがる顔かわいいと言われてる　澤井　敏治
ばあばいつ死ぬのと澄んだ目で聞かれ　西出　楓楽
かわいさが過ぎてとうとう籠の鳥　田中ゆみ子
駅長帽タマはうとうと列車待ち　村上　直樹
かわいいを演じ肩凝り偏頭痛　平井美智子

ジャンケンポンいつもパー出すもみじの手　敏森　廣光
初恋はリンゴを持ったお下げ髪　和気　慶一
人参が苦手な世界チャンピオン　栃尾　奏子
乳母車　電車の中を和やかに　松岡　篤
かわいさはあなたのためにとっておく　山下　純子
秋日和童になった丸い背　内田志津子
いびつでもみんなかわいい私の子　伊達　郁夫
かわいいとパンダの前の感嘆符　石田　隆彦
かわいいと言われて番犬がしょげる　山岡冨美子
ふわふわの羊時々雲になる　鈴木　かこ
あんなにもかわいい顔で毒を吐く　大西　將文
恋すれば少し可愛くなるのだが　村田　博
かわいい目で見つめられると弱い僕　中川ひろ介

佳

小さいは小さいなりの実をつける　太田扶美代
花いちもんめ可愛い子からいなくなる　藤井　宏造
ひらひらとかわいいだけで謎がない　木本　朱夏
老いてなお羞じらいのある女がいい　荒川　鈍甲
カワイイと言わせるきみに縛られる　たむらあきこ

人

面白くも可愛くもない他人の孫　川端　六点

地

失恋のそれから翳のある可憐　たむらあきこ

天

あさってはもっと可愛くなるつもり　澤井　敏治

軸

愛犬の逃亡防ぐ発信器

兼題「枯れる」　吉村久仁雄　選

外見は枯れても内にまだ火種　伏見　雅明
枯れているお方で広い人の幅　喜田　准一
盆栽の枯れてあるじの七回忌　萩原　狸月
姿見の枯れた己にギョッとする　米田　恭昌
まだ一カ所枯れないとこが残ってる　清水　英旺
枯れる前に逢っておきたい人がいる　山崎　武彦
毒舌の枯れた親父の丸い背な　村上　玄也
ひらがなで枯れた句作る粋な人　堀　正和
木枯しが二人の肩を近くする　藤井　宏造
大聖堂無くて寂しく舞う枯れ葉　村田　博
感謝する気持をいつも枯らさない　藤田　雪菜
枯れ木では終わらぬ意地を端役持ち　村上　玄也
枯れぬよう心にまぶす膨らし粉　小野　雅美
金婚へいい塩梅に枯れた愛　森松まつお
落葉樹に憧れている常緑樹　きとうこみつ
ことときれてなお流木の美しさ　栃尾　奏子
観客をしっとり濡らす枯れた芸　居谷真理子
時として枯れる夢見る水中花　永田　紀惠
枯れるだけ枯れた棺が軽すぎる　中村　惠
雑草も枯れて静かな庭になる　山田　葉子
夢と欲まだまだあって枯れません　敏森　廣光
煩悩が枯れてつまらん奴になる　西出　楓楽
来年はもっと咲かすと舞う枯れ葉　木嶋　盛隆
枯れてなお次代へしかと種残す　渡辺　富子

莫山の墨跡にみる枯れた味　鈴木いさお
喜んで枯れる新緑を夢見て　宇都満知子
成行きにまかせて枯れておりますの　大内　朝子
枯れてこそ人も味わい深くなる　中島　一彌
やがて来る春を信じて散る枯れ葉　山崎　武彦
好奇心枯れると老いが加速する　西出　楓楽
正直に生きて上手に枯れはった　田中ゆみ子
地に枯れて朽ちて新芽で蘇る　森　廣子
句会には出ないとボクが枯れてゆく　上山　堅坊
煽てたら火のつきそうな枯れ木です　北野　哲男
枯れてゆく里を案じている地蔵　米澤　俶子

佳

直立歩行腰から枯れて行くヒト科　荒川　鈍甲
枯れてなお香り残した笠智衆　水野　黒兎
枯れるより花あるうちに店じまい　坂　裕之
痩せはった枯れはったなあ逝きはった　堀　正和
枯葉一枚ふわりと音符になった　小島　蘭幸

人

突然の客へ仏花は枯れたまま　椙本　世津

地

裾ひょいとからげて花の道を去る　長川　哲夫

天

枯れるとも又あの世では咲くつもり　大西　將文

軸

枯れてなお燃え尽きるまで歩をやめぬ

兼題「巧　み」　木嶋　盛隆　選

訥弁で引いては押してくる誘い　米田　恭昌
夫婦喧嘩忘れたふりの朝ごはん　内藤　憲彦
補聴器を外して妻の愚痴を聞く　山崎　武彦
あなたしか居ないと言われ馬の足　上野多惠子
ぬらりくらりとても上手に生きている　太田扶美代
チェンソーだけで見事なクマを彫る　森松まつお
忘れ上手も巧みな知恵のひとつです　鴨谷瑠美子
ばあちゃんだって巧みな技で若作り　今井万紗子
手際よい化粧芸術だと思う　山田　葉子
先頭に立たず目立たず転ばない　山岡冨美子
倒れながらパス転びながらトライ　岸田　万彩
さすがやな切り抜けるなあ上手いこと　上田ひとみ
巧妙なしかけで誘う女郎蜘蛛　片岡　加代
決着をつけた一雫の涙　小野　雅美
托卵をして郭公は生き残る　森　廣子
電車内わずか五分で巧く化け　長谷川崇明
首里城の巧みの粋に悪夢の火　山根　妙子
30分以内電話くれたら半額に　斎藤　隆浩
誘導尋問巧みな妻の速射砲　澤井　敏治
底辺を巧みに泳ぐ処世術　松尾美智代
難問は巧みに避けて先送り　村上　玄也
うまいねとかんなの屑に誉められる　山崎　武彦
感想は個人差ありとカッコ書き　松岡　篤
生きる知恵巧みに妻の尻の下　村上　直樹
伏線が効いた最後の一頁　居谷真理子
私から告白させて振る男　小野　雅美
端っこを巧みに歩く彼岸まで　上山　堅坊
秋の山まるでピカソの万華鏡　上田　和宏
逃げ道を作りゲンコツのお父ちゃん　柴本ばっは
ロボットの技は及ばぬ手の巧み　奥澤洋次郎
妻の手の平で転がり半世紀　阿部　俊八
淋しさを狙う巧みな口車　伊達　郁夫
椅子を引く仕草も手をつなぐきっかけも　中岡千代美
描かれた猫が鼠を取るという　荒川　鈍甲
ひと晩で冬のモードに変えた風　原田すみ子
合掌造飛騨の巧みな知恵つまる　水野　黒兎
人間を巧みに泳ぐ二枚舌　山野　寿之

佳

見えそうで見えない様に脚を組む　宇賀　史郎
お化粧を落とせばあんたどなたはん　西出　楓楽
棘や罠隠し女は匂い立つ　森　廣子
忌引届伯父は何度も死んでいる　大久保眞澄
年金だけで世界一周やりはった　太田としお

人

善人の仮面のままで往きはった　山岡冨美子

地

桃色の涙　男の骨を抜く　鈴木　かこ

天

無駄縒りは一本もない蜘蛛の糸　新家　完司

軸

最後まで粘る男の悪巧み

兼題「構　図」　小島　蘭幸　選

五十年前の構図に責められる　大杉　敏夫
幸せの構図に趣味の日日を置く　上山　堅坊
シンプルに三角形は美しい　上田ひとみ
対立の構図世界は変らない　村上　玄也
浮世絵の構図ゴッホに活入れる　水野　黒兎
老い二人寄り添うしあわせの構図　山野　寿之
歪んでるようでびくともせぬピカソ　藤井　則彦
権力構図妻のトップは動かない　片山かずお
戦場で夢見る平和への構図　大西　將文
一強の構図で廃る民主主義　鈴木いさお
構図からはみ出す少年の未来　大内　朝子
神様がくれた構図だ良しとする　山根　妙子
どの構図からもあなたが透けてくる　たむらあきこ
壮大な構図小さな電池から　松尾美智代
原発に群がる構図見えてきた　江島谷勝弘
二十年先の構図が無い政治　奥澤洋次郎
幸せの構図に妻と子と酒と　片岡　加代
オニばかりの構図のなかの鬼になる　たむらあきこ
そうだったんだ石庭の石の位置　片岡　加代
エンタシスぽっちゃり型の妻が好き　澤井　敏治
少子化の構図へ挑む三人目　鈴木いさお
箱庭にもやっぱり欲しい縄のれん　斎藤　隆浩
二億円貯まった退職後の構図　上野多惠子
曲線のムダを大事にする構図　立蔵　信子

下流老人もがいてもあがいても　横山　里子
平等がいちばんドングリの構図　鈴木　かこ
ごちゃ混ぜの芋煮に酒の有る構図　村田　博
立ち位置を変えた夫婦の第二幕　山田　葉子
似非大臣できる構図が見えて来た　永田　紀恵
さくら絵の構図に咲いたワンチーム　長川　哲夫
幸せの構図に欠かせない夕餉　三宅　保州
未来図など描けぬ人の減る日本　阿部　俊八
打たれ強いぞ僕は中間管理職　内藤　憲彦
泣いて喚いて愛は隣にあるのにね　栃尾　奏子
一輪だけ札幌へ転がる構図　岸田　万彩
壺とリンゴとレモンの位置にまだ迷う　森　廣子
君も私も猫も気ままな位置にいる　大久保眞澄

佳

終章の構図は満艦飾に描く　吉村久仁雄
ワンチームが見せた日本の未来像　藤井　則彦
カルチャーにも行かず見事なクモの巣　江島谷勝弘
出しては引っ込める一強の構図　内藤　憲彦
コスモスの迷路青空だけ見える　新家　完司

人

遠近法で見ればこの世はおもしろい　木本　朱夏

地

お祈りの形で死んでいる蜻蛉　平井美智子

天

天空へ茶寿の構図を描くオトコ　初代　正彦

軸

妻がいるだけで優しくなる景色

句会燦燦

十月句会を読む　板垣孝志

ありがとうを蒔いたらハート咲きました　鈴木　かこ

ありがとうの言葉はどこに蒔いても必ず芽が出る

伝統の祭り支える時間給　澤山よう子

神輿を担ぐのも馬に乗るのも影武者ばかり

大黒柱に今はつっかえ棒がいる　大久保眞澄

そのつっかえ棒にもつっかえ棒が要りそうだ

切り口がハートでネギも恋してる　島田　明美

苺にリンゴ、豚の鼻までハートに見えたら　ヤバイ

雨上がり次男いきなり背が伸びる　くんじろう

タケノコみたいに水で背が伸び、酒で太りだす

ただいまと息子の横に妊婦さん　西本　草紗

「なんでも食べなさい」って育てたのがいけなかった

街中に溢れ始めてきた狂気　石橋　芳山

いきなり殴る刺す火を放つ。格差社会の歪は警戒水位

消印にふれる　あの街も九月　芳賀　博子

小さな街の小さな郵便局、使い古した消印も懐かしい

ほとぼりが冷めるまで入院します　小林すみえ

七十九日も寝たふりをして置けば次の事件が起きる

訃の道をふらりふらりと酔いながら　阪本きりり

また一人わたしを知る人が亡くなった　酒がしみる

行く宛のない信号が青になる　笹倉　良一

吸い込まれそうな青に瞬時の戸惑い

終の街やさしい人に囲まれる　(故)前　たもつ

やさしい人々に囲まれて旅立つ人はやさしい人だ

花地神壇

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願いいたします。
編集部

和歌山三幸川柳会　西川　千鶴報

幸福は平和な時に味わえる　一雄
地図のない道で大人になってゆく　智三
ふるさとで鍛えてくれた道祖神　保州
幸福の深さが増してきた無欲　敏照
北国に秋が来ました足早に　准一
放蕩を仏に侘びる山頭火　日出男
私が笑えば笑う仏さま　起世子
小さな幸を繋ぎ合わせて生きている　富香
阿弥陀様来世はどこに行けますか　康則
南風心の襞を裏返す　幹子
南海に成仏出来ず眠る兵　俶子
ウォーキング出来るしあわせ今朝も又　よしこ
サイレンに怯える事のない平和　まき
無信仰されど仏に手を合わす　宏枝
ネクタイで気分整え前を向く　彦弘
台風の目つぶす目薬ないものか　弘子
満ち足りて私を縛るものはない　知香
退院の梯子外され陽が沈む　義雄
残像とまだ共に居る新仏　純子
マンゴーの香りと孫の声がする　当代
縁側の南を好む針仕事　美枝子
御仏に抱えきれない程の恩　八重子
形状記憶された男の北帰行　和子
タンカーを見守る南十字星　ひろ子
川幅を徐々に縮めて跳んでいる　菜摘
北斗星見上げて探す夢銀河　照枝
開拓の精神北へきたへ向く　あき子
幸福にすると言ったよお父さん　明宏
防寒着羽織って北の顔になる　俊介
東北に復興の花咲かすのだ　悦男
冬抱いて北の女に春ショール　眞智子
傘寿記念南紀の海で泳ぐ夢　義泰
玄関を開けて仏と鉢合わせ　かず子
本物は秘仏でレプリカを拝む　明子
南風吹く頃君に逢いに行く　千鶴

川柳塔すみよし（大阪）　森松まつお報

逢いたくて皆勤賞の句会です　満智子
秋ありて秘境の逢瀬から狂う　ふりこ
ためらわず逢いたい人にあいに行く　舞夢
クラス会逢いたい人が来るらしい　直子
永いこと逢瀬を重ね妻となる　廣子
馬が合う似た者同志一緒です　美世子
いきなりの時雨に出合い居酒屋へ　重信
君と逢う胸が高なる通学路　志津子
逢うほどにあなたの粗が好きになる　久仁雄
予感的中いのる神様仏様　美籠
初対面彼と結婚する予感　育子
アンテナが錆びて当たらぬ第六感　里子
駅頭で恋が生まれた雨宿り　福貴子
あの時が虫の知らせの終の声　妙子
墓仕舞い母が泣いてる予感する　芳香
下馬評は所詮下馬評で終わる　五月
ボランティアのキャッチボールは美しい　たかこ
揺れた時きつく叱ってくれた父　裕之
介護士の話のリズム救われる　小枝子
救われる落としどころの知恵くらべ　萠
災害援助何を削ってやりますか　一歩
子育ての救いの神よお姑さん　シマ子
無視された子を救ったのは甲虫　ゆみ子
熱燗で磨いています錆びた脳　ひろ介
ちびちびと貯めてどっかと詐欺にあう　まつお
チビチビと小出しにせんとパッと行こ　蕉子
残暑とは名ばかりのみの残暑かな　ミナ子

川柳塔みちのく（青森）　稲見　則彦報

紅白の錠剤ちょっぴり左翼色　龍馬
青りんごも晴れた青空きっと好き　規子
真っ青な空見て明日を立ち上げる　重虎
女の子惑わすボクの遊園地　則彦

ちょっとだけ乳母に甘える桜桃忌　風来坊
青池の青は空より深い青　磊
チャンネル権ゆずり今宵は月見酒　美鈴
わたしのチャンネル三十代のまま　吹喜
飴を手に鬼が恐いと泣いていた　久美子
ひょろひょろ苗青空が出て強く伸び　初枝
青いバラ百本あげるバースディ　冬道
高所恐怖症観覧車には乗りません　一呑
シャガールの青に酔ってる絵具皿　慕情
気がつけばひとりブランコ遊園地　孝子
採れたての青菜疲れをなぐさめる　柳子
コスモスを揺らすピンクの秋の風　隆樹
青空に昔話を語る母　ひとし
まだ女ピンクを混ぜて編んでいる　のぶよし
毛染めをやめたらピンクお似合ね　英子
終章の僕は明るいピンク色　呑舟
チャンネルはとても美味しい秋になる　真由美
影だけは僕の本音を知っている　黙人
明日はあす今日一日を幸せに　京子
台風にいのち絶たれた百日紅　ふさゑ
迷い人口を開いて眼を閉じる　花峰
認知症へ愛が不通になる暮らし　きよし

お豆さんまだまだまだと鍋の中　小とみ
右肩上がり死神の棒グラフ　霜石
折れそうな心に花芽春を待つ　洋子
まあいいか絹の男で木綿の女で　和香子

川柳塔打吹（鳥取）　斉尾くにこ報

胸の内曝け出したいでもやれぬ　芙美子
診察日主治医の言葉を待っている　たけ代
一病に効く秋風を待っている　美ッ千
待つ人は来たらず月へラブレター　美知江
扱いは易いが脆いバルサ材　玲坊
こころの壁の強いもの脆いもの　みち子
地震後脆くなったぞあちこちが　義人
これからは脆い橋は渡らない　富隆
大きな骨もろさみつけてじっと見る　裕子
正直で情に脆くて三枚目　滋
如雨露など意外に脆いプラ製品　照彦
詐欺にあう性善説と言う脆さ　重利
台風が教える人間の脆さ　公恵
するめかみ入れ歯ガタヒチはずれそう　久芽代
フルコースなんとか終えて肩がこり　泰山
人様が好きでパンチもよく食らう　節子

鈴木いさお選

大部屋で明日の夢を語り合う　日出男
鳥になろう私のための空ならば　(小)雅美
悠然と生きて明日へ弾む足　ひろ介
また恋がしたくて鏡拭いている　華蓮
秋雨に濡れて羅漢の男前　志華子
一年を祭りのために生きている　義明
ごっそりと儲けた頃の武勇伝　石花菜
母となるために荘厳なる痛み　一歩
この皿を割ればさぞかし気が晴れる　(久)千代
一日の汗に報いる大ジョッキ　みつ江

佳句地十選（11月号から）

大内朝子選

恵まれた仲間に感謝して余生　まき
さわやかな笑顔私のハート射る　清
豊かさが人情さえも愚弄する　敏夫
人生はまわり道ほど面白い　宣之
神様が見ていてくれる玉の汗　真帆
血の絆理屈通りに割り切れぬ　(北)哲男
偶然の出合いまさかの五十年　千鶴子
足腰がわが身の重さ愚痴り出す　鈍甲
子を想う終着駅のない祈り　優子
どんぶらこブラごみ海へ漕いでいる　りこ

悲しみにくれても食べること思う　久江
賞味期限切れて旨味が増してくる　完司
残さずに食べて残した体脂肪　紀の治
駅のホーム喜怒哀楽がてんこ盛り　紀美恵
無人駅八十路の我と似た空気　恭子
伯耆富士正面でみる道の駅　重忠
帰省客駅は両手を広げてる　貴恵
境線妖怪駅がおで迎え　悦子
あじさいが見守っていた上灘駅　紀子
駅に立つ彼女眺める日は楽し　清
駅後に桜変わらず咲いていた　龍枝
友達の野菜を探す道の駅　芳光
北の駅高倉健が待っている　石花菜
流行風邪　駅の方からやってくる　三津子
苦虫を食べたか前歯欠けている　くにこ

川柳塔唐津（佐賀）　**仁部四郎報**

今の世は不安をあおりあおられて　實
女性歯科医師の眸が奇麗罪　蜂朗
クジ運の悪いわたしに裁判員　高明
反省を「させていただく」二枚舌　四郎

はびきの市民川柳会（大阪）**中川ひろ介報**

才能はイグノーベルの方にある　久仁雄
才あると褒めて気長に祖母は待つ　みつこ
女房の値切り上手で家が建つ　壽峰
無くならない詐欺の手口が進化する　ちづる
才能が一挙に開花した暗示　欣之
無で生まれ天寿を生きて無に還る　いさお
彼岸花畔をまっ赤に秋告げる　大子
無けなしの金で心のおもてなし　高鶩
被災地に無情の雨が降りそそぐ　フジ
五欲すて無欲となれば生きられぬ　清
無言電話の向こうも三日月が出てる　瑠美子
好きなことやっていたなら痛みなし　かつ美
変人奇人言われ才能発芽した　シルク
私にほしい無人の乗用車　専平
才能の限界知ったか早や引退　久仁子
才能は無いが元気な孫二人　さくら
長生きも人真似できぬ才能と　千鶴子
金無いが愛は忘れず五十余年　洋一
カジノダメ庶民の財布無一文　紀雄
無の境地厳しい修行の先にあり　正義
ゲーム機へ子は才能をそそぎ込む　泰子
満月が僕を見つめる秋の空　雄太
城崎で蟹食べないで去る無念　ひろ介

川柳塔なら　**大久保眞澄報**

増税で小言聞くのはレジ係　勝弘
火も風も飲み込んでおくとばっちり　美智子
とばっちり長女はいつも注意され　美代子
献立は機嫌次第で変えてやる　すみれ
不況風いつも割食う町工場　俊八
呑み込んだ辛抱が胃へ八つ当たり　のぶよし
日韓摩擦鹿せんべいが売れ残る　薫
違反者で晴れの当選取り消され　貫一
仲裁のまきぞえの果て三つ巴　圭
米中のとばっちり食い大不況　優
武器の爆買い年金にとばっちり　紀雄
猫を蹴る夫婦喧嘩の腹いせに　すみえ
舌鋒の冴えて返り血浴びている　成子
自尊心くすぐり買わすネックレス　行久
ありったけ光り物付け女子会へ　光堂
やせ馬も飾られてゆくおん祭　文聡
ごまかしを数字で飾る決算書　史郎
みどり児に何の飾りも要りません　理恵
温暖化山を飾った氷河消す　敬子
ひょっこりとうまく消えたいこの命　賛郎
松茸が里からひょいと飛んでくる　和之
夢の中ひょこっと亡母とする会話　甚之市
補助線のひらめきひょいと打開策　富子
姑を味方に虚勢張るワイフ　恭昌
強がっているが私がいなければ　柾子
強がりも弱気でもなく自然体　展代
強がっても母のメガネはお見通し　万紗子
嫁ぐ日に父の涙を見てしまう　ひろ介
強がりの女ごころがいじらしい　盛隆
強がりの心が落とすひと雫　恵美子
末っ子は甘え上手で強がりで　江里子

強がりもやはり笑み出るほめ言葉　崇明
強がっても背に年金と書いてある　國治
強がりもすべて見通すの母の愛　ふりこ
強がりを終えた喪服の帯を解く　雅美

川柳同友会みらい（鳥取）吉田　陽子報

心から先祖の事を思う盆　和代
墓終いするかもしれぬ墓洗う　みどり
墓参以外近くて遠い里となる　美恵子
おぼろげに五年先まで見通せる　章子
小さな本に大きな世界詰まってる　真帆
今が旬シングルライフ慈しむ　千恵子
お休みをひとり呟く夜は長い　紫音
丹精の実は幸せの味がする　志津恵
迎え火はうれし送るのよそうかな　昭子
新家長無事一周忌終えました　一眸
爺を呼ぶ児の願いには馬鹿になり　三郎
垂直な壁はあなたが頼りです　れい子
気迷いに踏ん切りつける発車ベル　和郎
水のごとく煙の如くは生きられぬ　和之
雨の一日コーヒーカップ替えてみる　恵子
嘘は駄目笑顔の嘘はなおのこと　安子
ストレッチ偶にやっても逆効果　智恵子
飯茶碗一つ命の泉湧く　陽子
地産地消生まれた家に住んでいる　游子
人間の味は優しさなんだろう　ダン吉
灯がついて明るい方へ歩きだす　公弘

竹原川柳会（広島）　古田比呂子報

針仕事なかなか糸が通らない　笑子
胸をうつ一句なかなかよめません　規代
断捨離のなかなか出来ぬ七回忌　幸子
なかなかの美人を連れて来る息子　栄香
納得はなかなかいかぬ影法師　千代美
夕日が笑っている逆上がり逆上がり　蘭幸
人間はバカだ豪雨に種まいて　白狐
蒔いた種みんな見通し閻魔王　輝恵
孫が来て不老長寿の種を播く　弘子
意地っ張り苦労の種を背負ってくる　敬子
Vサイン得意顔した二本指　節生
指先が乾いて海の絵が描けぬ　鬼焼
指先が馴染みスマホが離せない　昭紀
マニキュアはピンクに決める旅の朝　夢香
指先も加齢化袋開け辛い　京子
指きりの温み残ったまま訃報　淑子
もう一本指があったらピアニスト　宣之
看護師へ爪のお洒落を消して向く　慶子
会う人が皆好きになる人柄で　歩美
実に手強い老いというモンスター　厚子
私の応援団長買って出る　比呂子
手も足も頭もスロー苦笑い　貞子
メレンゲをたてる時間が心地良い　史子
たけはらのうみにくじらいるのかな　四歳　ちか

空見れば目に入る光まん月や　小三　陽

川柳茶ばしら（愛知）　関本かつ子報

残る手錠渦中の人を見失う　雅美
荒行をすませた僧の深い得　まみ子
虫の声しみじみ思う世の移り　三樹夫
パソコンの師匠娘に叱られる　遡行
町内の心意気見るゴミ置き場　美千代
ラグビーへ男言葉で気勢上げ　かつ子

プラザ川柳（大阪）　穂口　正子報

恋実り使命果たした油蝉　正子
ダイエット果たしてやっとステーキだ　千枝子
住む家も水も選んで生きている　久美子
春うららさり気なく見る水鏡　悦夫
晩餐は孫の奉行でちゃんこ鍋　政夫
セクハラといじめに走る教師ども　しゅう
俺の目が節穴でした嫁選び　克三
立場上女尊男卑抜けまへん　園子
成金にいつかなりたい歩の立場　一彌
育てたよ若い命に夢たくす　求
親の役果たした後は青春だ　和代
拒めない祝儀目当ての秋まつり　修
墓まいり酒一合未生流　弘光
記者会見立場が頭下げている　淳司
故郷を捨てた気がした墓じまい　清乃

ほたる川柳同好会（大阪）水野　黒兎報

初めての浴衣うれしい夏祭り　正子
山車を引く子供チラホラ過疎の町　順子
移り住み神輿担いで村の人　孚彦
柔らかい頭が床につく八十路　信男
柔らかさ自慢しているヨガポーズ　郁子
柔らかい気持ちにさせるいいニュース　桂子
赤ちゃんが醸すオーラが柔らかい　堅坊
どろどろにまみれて切れぬ腐れ縁　則彦
どろどろに子供満足上機嫌　守啓
どろどろがお好み焼きになる浪速　黒兎
ジャム作り色とりどりの瓶並ぶ　純子
古里の種ばっかりの柿が来る　春代

南大阪川柳会　松岡　篤報

落としても拾わぬ小銭見栄を張り　あさ子
思慮すべて精進落としできました　ばっは
落としたか失くした財布眠れない　柳右子
一日の化粧落としてから私　直子
今日も無事静かに落とす佛間の灯　志華子
そこら中抜け毛も妻は禿げてない　東風
五十年見落としていた妻の良さ　篤
命の残増やしてくれるウォーキング　楓楽
残高は少ないですが二千万　実
我が人生の残高は子供たち　国和
残高など持たぬ雀がよく歌う　たもつ
ジャンボゲットもう残高は気にしない　敏治
待ちぼうけさせた挙句のプロポーズ　いさお
待ちつづけるここは誠意の見せどころ　修
妻元気亡夫あの世で待ちぼうけ　ひさ乃
花時計に笑われました待ちぼうけ　一歩
なんぼでも待たしてもらう好きな女　勝弘
秋灯火めぐりあいあり別れあり　弘委智
ありがとうの言葉うれしくボランティア　ルイ子
紙コップお茶もシッコも同じ色　シマ子
敬老日終活せよとゴミ袋　歌留多
核禁止賛成しない被爆国　和雄
迷い子の港になってやる覚悟　郁夫
成功者血の出る努力あってこそ　克己
ひこばえが繁る車窓も米どころ　柳伸
白黒を決めてさびしい胸を抱く　弘子
いい人を止めたら心軽くなる　峰子

富柳会（大阪）　関　よしみ報

金よりもその難敵は暑さかも　正行
薄暮れの野道に灯彼岸花　文重
追い払っても追い掛けて来る欲の虫　きみ子
陽の顔事情隠した陰の顔　由夏
ひとり住みひとりの鍵を握りしめ　安希子
サーファーの乗る大波に紅こぼれ　伸雄
イニシャルをこぼれた酒でなぞる夜半　正治
ゆるぎなき決意の証眉に在り　田鶴子
まだ生きる灯りをくれたメスの跡　澄子
生きてゆく令和十月の三十度　よりこ
生き抜いて尚生きぬいて行く浄土　壽峰
コトリとも音をたてずに一人寝る　一文
文字離れ電子お喋りして平和　和子
カンバンになるまで粘る苦い酒　隆充
即答をさけてゆっくりモカを飲む　常男
天敵は案外自分の中に棲む　扶美代
ぼんやりと見えた灯りを離さない　武人
晩酌の肴にしている妻の愚痴　清
もう泣いていいかも知れぬ鎌の月　あかり
ゆっくりと身体をほどく秋の水　か こ
思い切り飛んで着地は母の膝　惠
秋の田に大きく燃える大落暉　よしみ
極太の絆にこにこ茶の間の灯　欣之
点字絵本指先なぞり読み聞かせ　寿之

ふうもん吟社（鳥取）　両川　無限報

虐待の女児のことばが痛ましい　房江
人生に四季があるなら春謡う　千代
後期高齢俺もだんだん丸くなる　凱柳
妻が逝き漬物桶が粗大ゴミ　重忠
穀つぶしまだ生かされているくらし　妻子
入道雲川柳天にのぼる夢　善平
入選にならぬ句作りでも楽し　茂登子
雑草のような力を貯える　一粋
満月に心の奥を覗かれる　幸子
ガラガラとシャッターおろし夫が逝く　とも湖

やさしい顔に優しい色の風が吹く　八千代
鍵穴があるから覗きたいのです　真理子
ドアの鍵かけた筈だが開く不安　紀美恵
ドア閉めて昼寝楽しむ老いの幸　整
ご出勤仔犬飛びつくドアのノブ　一平
ドア叩く音で誰だかわかる客　昌鼓
ドアの外小さな秋がそっと見え　金祥
社長室ノックは不要自営業　蟹郎
青い鳥求め唱える開けごま　回春子
面倒な宿題親もてこずるよ　節子
面倒は全部かたずけ後で逝く　紫陽
面倒と妻が見捨てる濡れ落葉　毅
面倒な男女の話聞き流す　天翔
ドア開けりゃ夕餉の匂いお出迎え　振作
面倒を見ても遺産は別ルール　茶人
面倒見良い監督よ胴上げだ　亨
面倒を溜め込んでいる未決箱　宏章
割り勘へ課長が出すと太っ腹　孝二
先を読めそれ説く人の声弱い　大
八月号読んでないのに九月号　みゆき
風読まぬ人が居るから飛ぶ噂　鐘馗
ハイネ読み隙間に愛を埋めてゆく　楓花
六法を呼んで人間見失う　一瑤
一冊の本からにんげんが匂う　無限

きゃらぼく川柳会（鳥取）**後藤　宏之報**

熱帯夜眠れぬ朝に一句でき　治代
キャンセルの電話するたびお大事に　雨奇
動いてもじっとしてても気にかかる　宏之
まだですか痺れを切らす冷凍魚　千代
一人暮らし子供はいつも一緒だと　美草
数多く守ることには前向きに　菜々
ヤバイなど上品な口で言えません　美緒
名月に偲ぶ古城は月の宴　ゆたか
ふる里に叱られたこと忘れない　記の治
御仏のおかげ新米いの一で　美穂
ライバルに友と言われて牙隠す　俊久
明日の日が分からないから今日の幸　瑞枝
名月の酒の肴は団子です　汪
充電の夜が有るから動けます　恵子
次世代へ残してならぬ負の社会　久直
こぼれ種コスモス主役マイガーデン　令位子
便利さに慣れた手足を戒める　宣子
いつものことで五七五にまどわされ　日枝子

倉吉川柳会（鳥取）**竹信　照彦報**

内緒声目線はこっち向いている　麦青
世界中あやしい雲行き止まらない　玲子
「もうよかろう」命のチューブはずす時　鬼一
世界中仲良くすればよかろうに　次男
よかろうとたやすく言える他人事　日出子
もうよかろう八十路すぎたと天の声　由紀子
八十歳で免許返納丁度良い　風露
さっぱりと捨てりゃ良かろうみんな塵　萩江
よかろうと親が言うので嫁に来た　酔芙蓉
ぞろぞろと皇居参賀の長い列　重忠
コンサート長蛇の列の最後尾　龍枝
顔出さずぞろぞろ文句叩きおり　明友
友だちのその友達だキリがない　大鮟
褒められて嬉しくなってホーホケキョ　石花菜
敬老のご褒美子等と旅をする　隆昌
褒められて見事に燃える百日草　康子
褒められた表彰状は筒の中　けいこ
ガンバレと褒めたらポーと青い柿　雄大
歯並びを褒めて気付いた総入歯　祐子
聞き上手ねと褒められて舟漕げぬ　紀美恵
名月を褒めたら急に雲隠れ　照彦

川柳あまがさき（兵庫）**大浦　初音報**

特殊詐欺の予防になった留守電話　たみえ
ええやんか頭固いと言わせとき　和子
ブルーシート風が追い打ち裾捲る　英坊
感激の握手添えた手にも涙　公子
鬼嫁に何度ぎゃふんと言わされた　富夫
一円玉軽減税で寿命延び　(八)修平
居酒屋の頑固おやじも味の内　紀恵
忘れたいことほどなぜか覚えてる　初音
かたい人盃持てばやさしそう　芳香
登る派も見る派も山を愛してる　正彦
山道に猿がお客の直売所　歌留多
宮参り個人情報防げない　新録

古稀むかえ古いプライドひとつ置く　雄　次
赤ちゃんの小さなグーが握る明日　こみつ
裏山の居住権持つ獣たち　り　こ
鉱山で金脈当てた果報者　(高)千賀子
百から七引き引き散歩ボケ防止　健　二
10パーで秋空よけい高く見え　(竹)千賀子
タンスにゴン着物きれいに眠ってる　祐　康
握り返す手に愛情のてんこ盛り　美　籠
スペアキーアロエの鉢の下に入れ　耕　治
震える手握っただけの初な恋　良　種
旅の無事祈る峠の道祖神　(谷)修　平
悔しくて握り拳がひらかない　宏　造
時事公論深夜に聴いて呀える思惟　ヨシヱ
堅いこと言わずワイワイ呑みましょう　正　和
パワハラに拳握って耐えている　かずお
里山に民話が残り人の声　ひろ介
金やんに勝った気がする同じ歳　靖　鬼
拳骨を固め別れを告げる背　万　彩
好きだから防ぎきれないあなたの手　氷　筆
困った時だけ夫の手を握る　厚　江
花を活け介護の母の手を握る　哲　夫
家計簿に汗の叫びの跡がある　真桜子
ちっぽけな悩みじゃのうと山笑う　紀　華

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西　茶子報

人間に不可能はない黒部ダム　宏　章
耳が故障したのか返事返らない　孝　子
お先にどうぞ別に魂胆ありません　大　鯰
祝杯も苦杯もみんなダムの底　すみれ
学童を「さあ渡って」とダンプ止め　好　幸
若い日の足跡もみなダムの底　文　道
どうぞお好きにアナタ我が家のお殿さま　茶　子
倦怠期どうぞに棘を感じちゃう　鈴
値上げ機に止めた煙草に妻笑顔　弘　六
珍客にどうぞと持たす松葉ガニ　重　忠
故障には個人差ボクは大丈夫　照　彦
八十余年使い故障に明け暮れる　和　子
知らぬ道なので誰かを先に遣る　盛　桜
曼珠沙華才の頂点ノーベル賞　孔美子
負けて勝つ耐えた心にあるゆとり　弘　子
初デートどうぞどうぞで済んじゃった　実　満
酔っぱらっておりますどうぞ構わずに　完　司
水瓶座だから私はダムが好き　草　文
恋破れ心の故障修理中　ゆたか
品薄の鰻が詫びている値上げ　満
冥土行きどうぞどうぞと譲り合う　綾　子
地縁血縁怨みつらみはダムの底　小　鹿
血圧が低うてすぐに起きられず　蟹　郎
渡し賃上がり泳いであの世行き　恒
ダムからの恵みの水で生きてます　かおる
雨降らずダム湖底だけ水溜り　ゆり子
お茶一杯どうぞと言われ座り込む　英　子

川柳塔わかやま吟社　小谷　小雪報

箱入りで育て人間アレルギー　大　輪
アレルギーあるから輪には入れない　ほのか
私もわたしに少しアレルギー　あきこ
得意気なそのひと言にアレルギー　准　一
田んぼには住民票のない案山子　知　香
素通りは出来ず横町の地蔵さん　紀　子
子等巣立ち秋を愛でてるスニーカー　冨美子
透明な心でいつもいるつもり　なる子
透明なシバリをかける誓約書　小　雪
透明人間なれたらきっと宙を飛ぼ　徑　子
夫婦間半透明が平和です　京　子
疑えばみんな透かしがすけて見え　保　州
おばちゃんは知らん人でもすぐ馴染む　ちづこ
どら猫も馴染んでくると情がわく　よしこ
青い目の嫁も馴染んだ国訛　日出男

岩美川柳会(鳥取)　山下　節子報

人間がのさばっているケモノ道　完　司
しょんぼりと財布わすれたバスツアー　重　忠
業績を忘れて騒ぐバスツアー　弘　六
緩やかに沈む夕日のあすを読む　一　平
原点に戻れば見えてくる道よ　一　粋
原発に負けない草のしたたかさ　一　瑤
草履取りから天下をとった武勇伝　美恵子

風評でツアーキャンセル痛手です　た　ぬ
この指に休む日が来ぬ草むしり　菖　子
来た道に足跡あるか振り返る　敏　子
口元の緩みを妻は見逃さぬ　幸　安
柱時計なつかしいけどネジ緩む　雅　女
地味だけど生きております苔と僕　茶　子
子が巣立ち緊張のネジ緩み出す　真理子
唐草模様遠き昭和の匂いさす　振　作
草を抜く技に年季というすごみ　彰　夫
道草をしたのか出世出来ないワ　千　代
艱難辛苦受けて雑草如く生き　凱　柳
ネコ車ツアーのみやげ配っとる　蟹　郎
病後です妻の手綱が緩くなる　節　子

川柳塔さかい（大阪）　内藤　憲彦報

ちぐはぐを集めてジャムの味となる　ゆみ子
幼子のちぐはぐな靴可愛いな　廣　子
ちぐはぐになりゆく妻がいとおしい　唯　教
せっかちとおっとりなのに続いてる　満智子
ちぐはぐな会話で楽し老い二人　舞　夢
会話ちぐはぐでも分かり合う老夫婦　（綾）清
分け入れば鹿の声聞く古都の森　敏　治
お遍路で分けてもらった命水　洋　子
明暗を分けたあなたの無投票　雅　美
遺産分け最後に残る過疎の家　憲
少子化で分け合うことを知らぬ子ら　玄　也
半額のバラお隣におすそ分け　輝　子
山菜を探し分け入るけもの道　洋　一
へりくつを並べ立てても埒明かず　八千代
浮気ばれへりくつだけで逃げられぬ　光　雄
すすき活けへりくつ抜きで秋の月　妙　子
勝手に生んだと臑をかじって早や三十路　世起子
味なんか腹に入れたら一緒やん　佳　子
記録あっても僕の記憶にありません　憲　彦
恫喝が恐くて賄賂あずかった　みつこ
黒門の人ゴミ分けてまでいらん　（向）清
嬉しい賛辞小分けにして冷凍庫　五　月
分け隔て耐えて生きぬき八十路越え　富　夫
肩の荷を分け合う人の居る安堵　ひろ子
世の富を平和に分ける手だてなし　敬　子
父母の良いとこばかり戴いて　志津子
遺産分け遠慮の壁が崩れ去る　素頓馬
分けるほど無いので離婚などしない　さくら
見落とすな戦に続く分かれ道　時　雄
勤め先やたらと変えてまだ独り　としお
つぎ当てた安物やけどまだ着れる　扶美代
つまらないヤジを飛ばして問合とる　俶　子
土踏まず野心を抱く万歩計　雅　明
辛さ耐えやがて見に付く回り道　禮　子
罪かしら優しいウソを混ぜたのは　進
地球という宝を粗末にするヒト科　満　作
健康は人生歩む宝物　善　之

翠　洋　会（大阪）　大久保眞澄報

子宝に恵まれ幸と苦の絆　弘　子
宝物二人できずいた六十年　廣　子
玉に瑕もともとただの石でした　和　夫
欠点もなくて近寄り難い人　希久子
欠点をバネにジャンプを試みる　千枝子
欠点を知らしめてから友となる　舞　夢
おせっかい時には急場助けられ　ふりこ
欠点は数多あれども男前　げんえい
じいさんもお供の犬も要介護　眞　澄
美人で才女夢でもなってみたいもの　敬　子
出産は一度で済ます双子ちゃん　宣　子
シングルダブルトイレの紙のことですか　蕉　子
ダブルベッド添い寝している秋田犬　昭
負の連鎖老骨をまだムチ打つか　理　恵
趣味ひとつ鳴かず飛ばずのまま八十路　恭　昌
雑草は強いわたしも里育ち　志華子
金星を射止めて謙虚吉野さん　桃　花
割り勘を一円単位でする男　行　久
小さな嘘大きな波紋呼ぶことも　楓　楽
こせこせと悩む小心笑う空　大　子
小型電池喝采浴びてノーベル賞　富　子

城北川柳会（大阪）　近藤　正報

座禅して邪心捨てても腹が減る　郁　夫
七転び八起でやっと坂に立つ　捷　二
ひょっこりはいつも楽しさつれて来る　正　彦
がむしゃらを登坂車線で見る余生　千　賀

つまずいてひょっこり拾う明日の知恵　野　鶴
登り坂下り坂でも一呼吸　杁　香
金と暇ある中年に乗る魔王　寛　昭
原発は魔王の住処かも知れぬ　星　雨
兄弟が分数学ぶケーキ分け　弘委智
魔王降るノストラダムス大予言　高　志
ペットショップひょっこり目と目一員に　福貴子
柳友がみんなあの世の句座へ逝く　克　己
断捨離をしても減らないのが五欲　和　夫
老いてなお喜怒哀楽の坂歩く　満　作
ゴミ袋ひょっこり恥が顔を出す　実
百までも生きて良いやら悪いやら　北　舟
とぼけてはみたが心に残る悔い　堅　坊
またひとり柳友の減る秋の月　朝　子
整然とよくぞ並んだいわし雲　賢　子
にこにことよく喋るから憎めない　武　彦
歩としての覚悟で二度の職に就く　満洲夫
減る事の無い税金と脂肪腹　榮　子
坂の上幸せ彩の視野がある　志華子
高台の自宅を悔いる老いの脚　肇
反比例増える訃報と減る賀状　直　樹
盛運に驕るこころがひょっこりと　俊　雄
百の坂越す人多数出る予測　宣　子
子育ての坂頂上で華が吹く　満知子
きのこ雲歴史語れる人が減り　洋　志
レントゲンの陰に潜んでいる魔王　博
八十路坂人に恋していいですか　一　歩
グレタさんに叱られました首脳たち　勝　弘
坂の上の雲に憧れているアベ　正

川柳塔すみよし（大阪）　森松まつお報

寅さんの恋はいつでも未完成　いさお
晩秋に恋の刹那のトレモロが　ふりこ
四季の花に誘われいつも恋してる　久仁雄
不覚にも恋と気付かぬ青リンゴ　美　籠
夫への愛命尽くまで絶やすまい　福貴子
相思相愛強そうで泡粒で　満知子
燃えたぎる二人の恋に陽も染まる　舞　夢
青春の恋は半分青いまま　満　作
太陽が昇れば終わる恋でした　進
初恋を大事に抱いて半世紀　千代美
恋しいと母の着物を眺めます　廣　子
あれも恋これも恋です今も恋　克　博
恋じゃない錯覚された気の弱さ　ひろ介
恋なんて越路吹雪を歌うだけ　勝　弘
盆正月だけは港になる生家　(矢)五　月
島を出る君へエールの銅鑼が鳴る　雅　美
再びがない人送るエアポート　里　子
汚染水大阪港にいりません　美世子
国連で世界の未来子を守る　ミナ子
ちょい悪に染まっていますハイボール　りゅうこ
私色染まった人と五十年　志津子
赤色に染まった頃の遠い夢　芳　香
ダイヤ婚やっとあなたの色になる　一　歩
ハルカスを夕陽が染めるマッピング　妙　子
Uターン都会の水に染まぬまま　俊　雄
悪習に染まり菓子箱には小判　まつお
内視鏡レンズ汚れていたらしい　シマ子
灯台のレンズ遠くへ遠くまで　直　子
スクープを狙うレンズの目が光る　宏　造
ガリレオの望遠鏡で地動説　重　信
みすゞの詩心のレンズ澄んでいく　大　子
色々と菌を見付ける顕微鏡　(奥)五　月

あかつき川柳会（大阪）　磯島福貴子報

谷折りの底でもがいている希望　克　己
電線がいらぬ世が来る化学賞　里　子
セクシーとエロの線引きない乙女　冬のト
鬼になり愛弟子谷に突き落とす　正　明
涙の染みを谷折りにした日記　満知子
ボランティア汗を名乗って去ってゆく　信　二
廃線の跡に嬉しい遊歩道　万　作
大阪の宣伝マンはおばちゃんだ　しげ子
御来光水平線に手を合す　(田)廣　子
地球を守れグレタの叫び響き合う　鈍　甲
覗くことも近づくこともできる谷　(立)信　子
谷底で見た青空を忘れまい　堅　坊
黒い金菓子箱の下笑み浮べ　美世子
北国のリンゴ宣伝より小さい　瑠美子
なおみやる日本国籍金メダル　ひろ介
消費税上げて景気はがた落ちに　(川)武

関電の電線避けて雀たち　一歩
増税分酒飲む量を減らそうか　篤
取れたての野菜で作るサラダ巻き　忍
消費税上げて景気の谷が来る　(櫻)秀夫
富裕層目線が遠い消費税　紀雄
五十万のスーツ着てはるさわやかに　愿
補助金取り消し「国の検閲」大問題　九条男
口コミのお陰コロッケよく売れる　昌代
北と南一線こえて手をむすぶ　博美
山あり谷あり自分史書き切れぬ　敏子
線越えて烏賊捕りにくる北の船　みつ江
たかが電池されど電池だノーベル賞　いさお
巧妙な宣伝マインドコントロール　比呂志
空駆けるつるのマーク千鳥足　勇

川柳花の輪（大阪）　岡本　薫報

頂上の空気薄いが達成感　みちる
なんとなく浮いてる自分感じてる　泰子
孫が来て和みの空気置いてゆく　信子
新緑のさわやか空気生きかえる　笑子
国慶節日本へ空気吸いに来る　正太郎
暮れなずむ空見上げれば明日がある　亜成
張りつめた空気を破るいいジョーク　薫

川柳塔まつえ吟社（島根）相見　柳歩報

家中にすだれ垂らした夏終わる　知恵子
垂れてきたものは仏の涙です　柳歩

履歴書の随所に悔し涙跡　弘充
転勤のたびに所の良さ学ぶ　あきら
老人のひとり居は帰る所なし　俊子
いい所で出会いましたと縄暖簾　久絵
止めか撥ね同じ所で迷う筆　米估
台所ラジオとお茶とエンピツと　モナカ
キャラクターオーラある血に嫉妬する　哲子
焼酎も薬もほどよく血に混じる　豊仙
血まなこで探すトラの子の一万　徳利
遊んでた献血いいか自問する　輝山
血がのぼる頭はカッカ血の音か　ゆき
献血のできた年頃懐かしむ　禮子
遺産分け急に血の濃さ訴える　みちを
台風が来たと思えばヌーの群れ　芳山
台風が律儀な顔でやってくる　草庵
台風一過他人の顔で冴える月　美智子
台風一過海はそしらぬ顔で凪ぐ　桂子
台風の目の中にいて日本丸　雪代
傷跡を台風ばりにくれた君　瑞人
青いぞと檄飛ばされて奮起湧く　左余
スサノオの侍ブルーがんばれよ　朋子
支払いはキャッシュレスです青ざめる　青帆
青い血を吐いて大蛇はパリの空　寿代

長柳会（大阪）　辻村　ヒロ報

坂道に果たし状出す膝小僧　ヒロ
歳重ね心の扉少し開け　千代

言う事とする事違う二枚舌　登美子
緊張と油断で起きる老の事故　靖博
現在は光輝幸齢花となる　由子
目にカレースマホの動画命取り　秀子
はじめての酒じいちゃんの膝で舐め　旅人
指先が思案している分岐点　由夏
後悔とタラ・レバばかり日記帳　純風
夏祭掬った金魚鯉になる　正博
無視しても胸の鼓動が騒いでる　敬二
修行僧の汗も涙も凍み豆腐　直樹
モノクロの世代を生きたあばら骨　和子
高いびき慣れてしまえば子守歌　洋二
三つ指をついてた妻の高鼾　孝代
がんばった日びを知ってる足の豆　幸子
鍬持てばすぐマメ出来る優男　ともこ
豆に暮らせ祖母の口ぐせ孫に言う　ふみ
毎日が豆に暮らせる幸ひとつ　和代
弱虫は立場を盾に威張る癖　三和子
警官が立場忘れて悪さする　たけし
政治家は立場変れば真逆言う　弘美
立場上受けねばならぬ役もある　ゆき
お互いに立場譲らず舟は山　孝
立つ位置は変わる家では妻の部下　隆彦
記者会見立場が頭下げている　淳司
蝦蟇口が立場無くしたキャッシュレス　隆明
永遠に立場変らぬ師弟愛　光弘
充分に役目果たした父のスネ　正美

八尾市民川柳会（大阪）　中薗　清報

現実を甘く見るなと母が云う　千里
新米は真っ先吾子に送る母　卓郎
ありがとう言える現実今の幸　妙
被爆国核廃絶を認めない　紀雄
投げかけた北への不信拉致家族　信子
新米のやる気に満ちている拳　恵
肩の荷をおろし気ままに猫と住む　華
人間のエゴに慟哭する地球　寿之
嵐の後酷な現実直視する　涼子
百光年先に水ある星がある　清
老人会タップ踏み踏みフラメンコ　清子
女房に匙投げられて生きる道　和雪
後ろ指指される程の悪でない　高鶩
赤い糸いつか鎖になっていく　常男
爽やかにこぼれる萩の白毫寺　あかり
現実と理想の中にある格差　壽峰
噛みしめる味新米はくにの父母　欣之

西宮北口川柳会（兵庫）　緒方美津子報

傍目には太い絆も虫が喰い　伸
虫食いの白菜選び鍋にする　利子
虫の夜自分史綴るコップ酒　紀華
戦いは好みませんとダンゴ虫　千賀子
一人部屋テレビがつくと大家族　光久
飛びまわる熟年の妻もてあます　宏造
湯をかけてプロ絶賛のお吸物　翔
扉付き威厳を持っていたテレビ　新録
テレビ消し野球も冷めて虫の声　邦男
ドラマよりドキドキさせるニュース見る　忠夫
それぞれの立ち位置で見るメロドラマ　いわゑ
ラグビーの余韻残してテレビ消す　武彦
熟したらきっとあなたの手に落ちる　哲子
機は熟す印籠出番水戸黄門　富次
半熟の玉子のような人が好き　野鶴
熟されて短気の夫と一つ屋根　野薫
へそくりをガタゴト探す惚けぬうち　伯備
ガタゴトもみんな綴ってダイヤ婚　昭九朗
ガタゴトの声も弾んで縄デンシャ　弘子
自分史の掉尾彩子大落暉　健彦
充電し満を持してのノーベル賞　正彦
無理しないそれは意外と難しく　敦子
ご近所は子ら皆巣立ちひっそりと　りこ
便利さを求め祟りの豪雨の禍　弘委智
ラグビーに学べ日韓ノーサイド　一徳
多額金品受け取りながら被害顔　浩司
茶柱にもう迷うなと諭される　和宏
おさないで熟れた私がつぶれ出す　真桜子
今ごろは虫集く野が水浸し　氷筆
医者の目が泳いだ日から不整脈　良種
二日酔い妻のガタゴトよく響く　盛夫
なあ蜘蛛よお主の仕事習いたい　美津子
うまそうで涎が出そうルノワール　勝弘

京都塔の会（京都）　山田　葉子報

母さんのトリック家計支えてる　光久
撮影のトリックすっかり騙される　朝子
試着室のトリック嘘も買わされる　公子
雑居ビル行く度違う店になる　弥生
お祭りの雑踏素直に手を握る　保子
走り書後で苦労の雑記帳　五月
雑音の中で暮らしている安堵　欣之
雑踏を歩けず見うしない迷子　ルイ子
ずるくてもすっとぼけての愛嬌が　ふりこ
父さんはずるい母さんひとりじめ　福子
女の涙辛くなくてもすぐ出せる　文代
ずるいなあ才色兼備アスリート　哲子
甘い言葉通用しない俺左党　英旺
塩水も苦言も過ぎりゃ甘くなる　美津子
紅い薔薇トリックなんてあり得ない　求芽
お茶如何マドンナの名でメールくる　弘之
耳ざわりいい話には罠がある　かずお
雑草がいっぱい生えた長い留守　忠子
雑学も生きてく糧に確と聞く　万紗子
旗色が悪くなったら隠れん坊　元一
狡い人にやっぱり似合うケモノ偏　則彦
悪友と夜の街では独り者　北舟
甘い夢いつかは変わる火気厳禁　弘委智
トリックのようにあなたは居なくなる　葉子
ママの動き目で追い甘え0才児　宏子

ずる休みしたのに誰も困らない　洋志

川柳ねやがわ（大阪）　**籠島恵子報**

台風禍先の見えない世が見える　銀杏
暗やみでにぎった人が今の妻　薫
運命は手相通りにしてくれぬ　弘一
暗い闇友の情に助けられ　ルイ子
大臣になって凛凛しさが消える　朝子
この世からきれいに消える大仕事　賢子
門灯に母待つ子らのシルエット　茜
よい仕事している議員はだれでしょう　かすみ
未だ仕事背負って歩く古希の坂　和織
明と暗歴史は暗で出来ていた　鈍甲
うす暗い世界もロマン深海魚　千賀
定年日改札口にかかる靄　仁
暴風雨令和も惑う闇の中　麗
脳天気句会カラオケまた句会　高志
ほじくればみんな抱える暗い過去　信子
暗い過去時効へ早いネジを巻く　博泉
この余韻ハートが冴えて眠らせぬ　修
家族のため働きづめの亡母だった　武彦
聖職といわれた教師泣いている　祥昭
渡るまで待ってやるぞと虹の橋　秀雄
遠慮など絶対しないお裾分け　恵子

川柳さんだ（兵庫）　**村田博報**

4Kの陣取る居間が五輪席　昭美
つないだ手離してならぬ五つの輪　あかね
クーベルタンも思い及ばぬ新種目　喜弘
日本の金の在庫が減る五輪　黒兎
昭和39年はお腹の中にいた五輪　こみつ
大阪ではやらせてもらえない五輪　宏造
何時だってわくわくさせる君のハグ　一子
私まだジュリーに恋しておりますの　郁子
君に似た子が生まれると信じた日　恭子
わくわくと紅葉のお手てハイタッチ　和子
独り身の父を支える片想い　雅美
杏色あなたを待っている時間　ひとみ
ひと休み下ろした腰が上がらない　あかね
休むにも体力がいる八十路越え　寅男
園児まで休む勤労感謝の日　修平
ひと呼吸おいて自分を落ちつかす　千津子
喜寿の坂峠の茶屋で一休み　哲夫
ロボットが横でテキパキ仕事する　健二
ピンチには無神論者も神頼み　和郎
支え合いピンチ乗り越え金婚式　三ツ代
ピンチにも愚痴なき妻の深い愛　優子
ピンチがなんだ時が解決してくれる　かずお
振り返りピンチ潜った底力　ヨシエ
居酒屋にたっぷり微罪置いてくる　郁夫
有り余るトウモロコシを買わされる　ひろ介
たっぷりの無念がいつか花咲かす　久仁雄
マツタケも百本食えば飽きてくる　万彩
天の天今日はたっぷり豆ごはん　徹
お気の毒貯金たっぷり身はあの世　哲男
10%で一円玉もひと休み　玲子
桜ジャージ未知の扉をこじ開けた　雄太郎
お隣と何時になったらノーサイド　彰一
もうあかんへそくり猫に聞いている　順子
紅葉の手いつか大志を掴むだろう　義朗
スポーツの秋だがテレビ見てるだけ　正和

川柳藤井寺（大阪）　**太田扶美代報**

これ以上もうがっかりとさせないで　瑠美子
お目当ての役者休演した芝居　かずお
持て余しやがて足りなくなる時間　久仁雄
正直な鏡にがっかりの私　みつこ
取っておきのアイス娘に食べられた　光男
ふくらんだ胸元眩し娘は二十歳　俶子
吉野さん脱原発の夢数多　紀雄
限られた余命を刻む砂の音　育代
防衛費ふくらみ福祉しぼむ国　いさお
敗れてもがっかりするな明日がある　正義
ふくらむや夢も乳房も孫娘　絹子
八十路でも明日への夢はふくらます　喜代子
せっかくの摩周湖なのに霧がない　まつお
時間外手当がほしい家事育児　シルク
論吉見ず支出ふくらむキャッシュレス　ちづる
恨みごと時間たつ程胸の奥　一文
カルチャーで夢ふくらます第二章　ひろ子
食卓のカレーが満たす子だくさん　征志
我楽多市ほんまのガラクタだけだった　みつ江
期待大がっかりも大まつりごと　フジ子

花の余生へ割り込んできた介護　扶美代

豊中もくせい川柳会（大阪）初代　正彦報

どこやどこやとサンマ焼く家捜す猫　公子
無器用を運鈍根でねばり腰　健二
鈍くても今を大事に生きてゆく　ヨシエ
ますかけは大器晩成待っている　多美子
真冬でも厚着不要の家族愛　英三
ほどほどの暮らしを願いいわし焼く　武彦
年金を削り軍備膨らます　歌留多
二世帯ゆえの淋しさだってあるのです　桂子
いっぽんのエンピツ秋の詩がはずむ　浩子
ぽつぽつと万葉集を読む夜長　明子
器ではないがとにかく引き受ける　きらり
慰めに探す言葉はみな寒い　(永)玲子
家族より介護保険を当てにする　敏昭
人間の弱さ脆さを知る水禍　野鶴
閻魔さんに取り入る術を備えとく　英旺
寄せ書きに家族の温み知る機上　肇
あちこちと訂正増える遺言書　求芽
徳利持って器試しにやってくる　耕治
暑さからやっと解放くたびれた　(岩)玲子
鈍い音出して軋んでいる心　美智代
家族会議また雑談のまま終り　見清
自信ないときほどたぎる嫉妬心　則彦
非常袋かつぎ三歩でよろめいた　葉子
のろまでも走りたくなる空の青　正彦
禅問答×と問われて○と言う　黒兎
三世代三猿まねて和をつなぐ　時子
老婆心かなそっと持たせる常備薬　千鶴子

大山滝句座（鳥取）　新家　完司報

デッサンの鉛筆ヌード描きたがる　小鹿
傘立てに置いたつもりの傘が無い　幸子
金銀銅僕のメダルは鉄でよい　芳光
鉄くずを集める時代来ぬように　楓花
有刺鉄線くぐる覚悟の絵が描けぬ　八千代
斬鉄剣錆びて私になっている　芳山
自分では真っ直ぐ歩いているつもり　紀の治
わたしはトトロあなた鉄腕アトム　くにこ
運転手付き持ったつもりで乗るタクシー　ゆたか
東京のつもり札幌でマラソン　けいこ
鉄は鍛えて真価発揮する　風露
この地域飛び出し子連れUターン　由紀子
錆びていきそうな廃線後のレール　正人
鉄棒にぶら下がったままの夕陽　美ツ千
商店街日曜品が買えません　余光
鉄がみな純金ならば世は困る　隆昌
香港は巨大中華のひとかけら　正男
地域猫優しき人と幸せに　道唱
長生きし白寿を祝い舞うつもり　重忠
包丁の音気になると研いでくれ　鈴野
鉄拳をすると先生クビになる　久子
川柳のつもり標語になっていた　規雄
ちっぽけな村です猿も顔見知り　完司

川柳塔打吹（鳥取）　斉尾くにこ報

走らずにゆっくり行こう百までも　久芽代
走っても歩く速度とかわらない　公恵
秘密だよ　知ったが為に口走る　滋
前走るもみじマークがゆずらない　義人
飛ぶように走った頃も今は昔　玲坊
徒競走ビリに拍手が鳴り止まぬ　節子
うそでもね美味しいよって言う家族　紀子
突然の美味い話に乗りかけた　富隆
腹すかし胃カメラの後　味のよさ　貴恵
晩酌の一杯命洗う水　照彦
日本は美味しい国でかじられる　三津子
限度額越えても欲は修まらず　清
ミサイルが徐々に水域越えてくる　龍枝
ケータイもカードも持たぬ頑固爺　重忠
カードより現金買いが一安心　美知江
増税でチンプンカンのカード買い　芙美子
レジの前カード探しに大わらわ　紀美恵
手の中は離婚のカード切り札に　翡子
刑期終えカード会社を彷徨す　重利
わたくしの全てを知っているカード　紀の治
金持ちはポイントカードなど持たぬ　完司
ドクターがレッドカードを握っとる　石花菜
消費税　カード使えとけしかける　芳光
胃袋が笑いだす新米ごはん　くにこ

句会名	日時と題	会場と投句先
六甲川柳会	14日(土) 14時締切 席題・かすめる・装う・ずぼら 自由吟	六甲道勤労市民センター　5階 E室 JR「六甲道」駅南隣　メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4－11－11　上田和宏
川柳塔打吹	14日(土) 13時30分締切 寄付・進む・あっさり・席題	倉吉市上灘町9　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637－3　牧野芳光 方 川柳塔打吹　事務局
川柳ねやがわ	15日(日)13時締切 売上げ・手助け・決定・席題1 自由吟	寝屋川市立市民会館　寝屋川市秦町41－1 (℡072-823-1221) 京阪寝屋川駅(東口)より徒歩15分 (ロータリーを直進)または京阪バス5分 〒572-0063 寝屋川市春日町9－9　高田博泉
川柳藤井寺	15日(日) 14時締切 削除・とぼける・席題 共選	藤井寺市生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5－8－20－303　鈴木いさお
川柳ふうもん吟社	15日(日) 9時30分開場 第３８回没句供養大会 蓋(フタ)・強い・ひとまず・新型・困難・つぶやく・三角・敗者復活戦	新日本海新聞本社ビル　5F　大ホール JR鳥取駅南(駅裏)徒歩3分 詳細は本誌11月号125ページ参照 〒689-0202 鳥取市美萩野2－171－3　中村金祥
豊中もくせい川柳会	16日(月) 13時50分締切 記憶・乾く・ともかく 自由吟	豊中市立中央公民館　3F 阪急宝塚線「曽根」駅　徒歩５分 〒569-0073 高槻市上本町5－26　初代正彦
川柳さんだ	17日(火) 13時30分締切 安い・反発・ブランド・借りる 自由吟	キッピーモール　６Ｆ (JR三田駅前) 〒669-1545 三田市狭間が丘5－10－19　谷　祐康
川柳たちばな	18日(水) 13時45分締切 席題・長い・走る・自由吟	立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7) 阪急塚口駅北へ10分 〒 661-0953 尼崎市東園田町３－49－5　藤井宏造
岸和田川柳会	21日(土) 14時締切 鞄・締める・鋭い・テンポ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ５分 〒596-0076 岸和田市野田町2－33－19　中岡香代
和歌山三幸川柳会	21日(土) 13時15分締切 終わる・首・くじ	和歌山商工会議所　４階　第３会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川柳塔みちのく	21日(土) 17時締切 夢・三角・特別	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」℡0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛　℡0172-36-8605
はびきの市民川柳会	22日(日) 14時締切 価・応援・マーク	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車　北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8　徳山みつこ
川柳塔すみよし	休　会	住吉区民センター２階　集会室４ 〒580-0026 松原市天美我堂3－130－2－404 森松まつお
京都塔の会	休　会	ハートピア京都　京都市中京区烏丸丸太町 地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勧修寺堂田70－16　桝本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

12月各地句会案内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 まつえ 吟社	1日(土) 13時30分締切 魔女・歌・作る・選ぶ	松江雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222－1　相見柳歩
川柳塔 なら	5日(木) 14時締切 ピース・ぷんぷん・走る	奈良市立中部公民館　4F 奈良市上三条23-4　近鉄「奈良」駅④番出口　徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787　安土理恵
城北 川柳会	7日(土) 14時締切 ヌーボー・繁雑・望む・自由吟	旭区老人福祉センター　3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14　江島谷勝弘
川柳塔 わかやま 吟社	7日(土) 14時10分締切 兼題＝冷たい・準備・薄 課題吟＝面	和歌山商工会議所　4階　和歌山市西汀丁３６ 兼　題　〒649-6253 岩出市紀泉台366　藤原ほのか 課題吟　〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桒原道夫
倉吉 川柳会	7日(土) 14時締切 信じる・もっと・新年・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072－17 谷口次男
八尾市民 川柳会	8日(日)14時締切 火事・ぬくぬく・冷える・雑詠	八尾市安中町３－５－１　渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩５分 〒581-0083 八尾市永畑町2－1－7　土田欣之
西宮北口 川柳会	9日(月) 14時締切 末・狂う・ユニーク・自由吟	西宮市立中央公民館　6F　講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830　福田正彦
ほたる 川柳 同好会	10日(火) 13時30分締切 後・断る・さて	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池　蛍池駅前ビル　5F 〒561-0813 豊中市小曽根2－4－1　水野黒兎
川柳塔 さかい	10日(火) 14時締切 酔う・充実・折句：やはた	東洋ビルディング　4F 堺東駅北西改札口から２分 〒599-8103 堺市東区菩提町5－171　矢倉五月
川柳 あまがさき	10日(火) 14時締切 失う・姿・じたばた・自由吟	尼崎市女性センター・トレピエ　2階 阪急武庫之荘駅南へ５分 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
あかつき 川柳会	13日(金) 14時締切 結着・しきりに・底・時事吟	大阪保育運動センター（新谷町第１ビル２F） メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2－312　前田紀雄
川柳大阪	14日(土) 14時締切 猿・雑談・匂い	メトロ・長堀鶴見緑地線　京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6　山崎珠生
南大阪 川柳会	14日(土) 13時会場 **前たもつ前会長の追悼句会** 「山びこ」「前」「保つ」「雑詠（前先生の追悼句）」	大阪市立住まい情報センター　5F　研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋６丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901　松岡　篤
川柳 とんだばやし 富柳会	14日(土) 14時締切 庭・ひそひそ・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064　富田林市不動ヶ丘8－31　山野寿之

柳界展望

★「令和元年度川柳研究誌上大会」。同人成績。

特　選　高瀬　霜石
かならずや舞う花吹雪
ひとりの死

★富田林民文化祭「富柳会第69回川柳大会」は、9月21日富田林すばるホールで開催。参加者97名。同人成績。

秀　句　徳山みつこ
念仏が繰り込まれてる
胡麻豆腐

秀　句　岩佐ダン吉
負けましたその一言に
負けました

★「第33回堺市民芸術川柳大会」は9月8日、参加者129名で開催。同人成績。

堺市教育委員会賞　村上　直樹
何千年殺し合ってもま
だ懲りぬ

秀　句　小野　雅美
余命知り薔薇も大きく
項垂れる

秀　句　古今堂蕉子
プラゴミの被害地球の
皆に知らさねば

★「第67回山口川柳大会」は9月28日、下松市ほしらんどサルビアホールで開催。参加者125名。同人成績。

中国新聞社賞　坂本　加代

★「第53回東大阪市民川柳大会」は9月29日、東大阪市立社会教育センターで開催。参加者126名。同人成績。

教育委員会賞　岩佐ダン吉
飛び越えた時に私の道
になる

★「第8回さんだ川柳大会」は10月15日、三田市キッピーホールで開催。参加者118名。同人成績。

秀　句　きとうこみつ
昭和三十九年はお腹の
中にいた五輪

秀　句　小野　雅美
独り身の父を支える片
想い

秀　句　片山かずお
ピンチがなんだ時が解
決してくれる

★「第69会岸和田市民川柳大会」

秀　句　小野　雅美
遣り場のない怒りに燃
えるペンの先

★「第61回和歌山市文化協会文芸まつり」が10月16日、県民文化会館で開催。同人成績。

和歌山県知事賞　古久保和子
おすそ分けカボチャも
ナスもよく笑う

文化協会賞　石田ひろ子
今出来る事に残り火掻
き立てる

★「第43回鳥取県川柳大会」は、10月19日鳥取市さざんか会館で開催。同人成績。

鳥取県知事賞　野口　節子
風よ風元の白紙に戻さ
んか

県議会議長賞　石橋　芳山
ルーペなら見れるか蟻
のスクワット

鳥取市長賞　牧野　芳光
落ちそうな月がジョー
クのように浮く

鳥取市議会議長賞　岸本　宏章
満月のスッポンポンが
美しい

新日本海新聞社賞　両川　無限
人間のずるさ愚かさ見
抜く椅子

県川協会長賞　新家　完司
ゲバゲバのウイルスが
来る息止める

実行委員長賞　上田　宣子
ネコカフェで今日も点
滴してもらう

★「第70回西宮市民文化祭川柳大会」は、10月20日134名の参加者で開催。同人成績。

秀　句　上田ひとみ
その背中ジョークジョ
ークと泣いている

秀　句　堀　正和
まだ懲りず第三の火に
頼るのか

▽**訂正とお詫び**△

○11月号P56上段12行目。今→**居間**。P61上段11行目伊藤嘉明→**嘉昭**。P124 3段目15行目。西田啓子→西田**敬**子。

▽**御芳志**△

○故古田太虚さんのご遺族様より金一封拝受致しました。

○故前たもつさんのご遺族様より金一封拝受致しました。

○故津守なぎささんのご遺族様から、高野山基金へ金一封拝受致しました。

▽**訃　報**△

○磯部義雄さん（同人・和歌山市）。9月12日死去。享年82。

○田浦實さん（同人・大阪市）。11月3日死去。享年81。

▽**新誌友紹介**△

三田市　**岡本　郁子**
紹介者　村田　博

上田ひとみ
古田比呂子
竹原市
紹介者　木本　朱夏

松山市　**大内せつ子**
紹介者　新家　完司

八幡氏　**武田　悦寛**
紹介者　内藤　憲彦

鳥取市　**狭竹　紫陽**
紹介者　両川　無限

常任理事会＝11月7日①新役員の業務分担について②新役員名簿の発行③第25回まつりの評価と反省④第8回誌上大会とりくみについて⑤ウエブサイト管理人について⑥定例確認事項。

次回常任理事会12月6日㈭AM10時～

番傘フェスタ２０２０

日　時　**令和２年１月１３日（月）**
10時開場・出句締切11時30分

場　所　太閤園（JR京橋駅より徒歩13分）
〒534－0026
大阪市都島区網島町９－１０
TEL０６－５３５６－１１１０

事前投句　「集　う」１句 森中惠美子　選
（12月６日必着）

宿　題　（各題１句）
「素　足」　くんじろう　選
「実　る」　鈴木　順子　選
「運　命」　小笠原　望　選
「遊　ぶ」　新家　完司　選
「舞　う」　田中　新一　選

◎事前投句・宿題とも各題１句（欠席投句拝辞）

会　費　３０００円（弁当付き・掲載誌呈）

懇親宴　１００００円（要予約）

問合せ・申し込み
番傘川柳本社
〒530−0047
大阪市北区西天満５－６－26−605
TEL０６－６３６１－２４５５

主　催　**番傘川柳本社**

兵庫県川柳祭 in 赤穂

日　時　**１２月１日（日）１０時開場**

場　所　赤穂市文化会館ハーモニーホール
TEL０７９１－４３－５１１１

当日投句の部（各題２句）
「新しい」　藤原　紘一　選
「太　鼓」　山崎　武彦　選
「動　く」　安部　美葉　選
「　波　」　濱邉稲佐嶽　選
「　石　」　赤井　花城　選

出句締切　**１２時**

出句料　１０００円

問合せ先　兵庫県川柳祭赤穂市実行委員会事務局
TEL０７９１－４３－６８５８
赤穂市加里屋８１番地

第60回 井笠川柳誌上大会　蘖

課題と選者
「　初　」
高橋土筆坊・工藤千代子・村上　氷筆
「　底　」
船越　洋行・鴨田　昭紀・平井美智子

応募要領　便箋または所定の用紙に各題２句（計４句）を列記　郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属柳社を明記応募料と共にご送付ください。
未発表句に限る。複数投句は不可。

投句料　１０００円（定額小為替または現金書留）
応募者全員に発表誌（令和２年２月発行予定）を送付

締　切　**令和元年12月28日（土）消印有効**

投句先　〒714−0081　岡山県笠岡市笠岡2289
笠岡川柳会　TEL·FAX　0865−62−6200

賞　品　各課題毎に、天位獲得者３名のうちから１名に句碑を贈呈。

主　催　**井笠川柳会**

第8回　卑弥呼の里誌上川柳大会

兼題と選者（各題２句）
「自由吟」　徳永　政二・森中惠美子　共選
「　箱　」　高瀬　霜石・大西　泰世　共選
「帰　る」　黒川　孤遊・赤松ますみ　共選
「ジンクス」　くんじろう・樋口由紀子　共選
「　裏　」　丸山　進・木本　朱夏　共選

投句用紙　専用用紙（コピー可）またはＡ４大用紙

参加費　１０００円（切手不可）発表誌呈

締　切　**令和２年１月15日（水）消印有効**

投句先　〒842－0103
佐賀県神埼郡吉野ケ里町大曲2426−2
卑弥呼の里川柳会　真島久美子
TEL・FAX 0952−52−1061

賞　各題特選１句・有田焼一万五千円相当
各題佳作５句・図書券
（その他サプライズ賞あり）

※男女を問わず　たくさんのご参加をお待ちしています

編集後記

★来世紀もうにんげんの世ではなし　薫風

★創立95周年記念事業の電子化について奈良女子大・礒部敦準教授に「麻生路郎と澤田四郎作」の玉稿を戴いた。結びの「川柳塔電子化事業は学術研究や文化史料の観点においても快挙」の一節を喜ぶ。礒部準教授、有り難うございました。電子化については正直のところ潤沢な資金が有ったわけではない。川柳塔同人・誌友・川柳愛好者の方々の熱意と浄財によって成し遂げられた川柳界始まって以来の偉業である。改めて皆さま方と喜びを分かち合いたい。

★川柳を始めて間もない頃、河内天笑・月子ご夫妻の車で弓削川柳社主催の西日本川柳大会に参加したことがある。その大会で高杉鬼遊さんに川柳の小径・公園を初めて案内して頂いた。公園にはたくさんの句碑が建立されている。またJR弓削駅前には麻生路郎の「俺に似よ俺に似るなと子を思ひ」の句碑が、昭和25年に弓削川柳社の会員のご奉仕で建立されている。

10月14日、71回西日本川柳大会に参加。川柳公園を散策。25年ぶりである。句碑は立派な自然石で300基以上あるらしい。句はもちろん石の表情も楽しませて頂いた。

★11月4日、川柳塔まつえ吟社創立50周年記念大会に出席。大会には「山陰」「湖」「城」などご当地ゆかりの兼題が出されていたので前日市内を散策。松江・出雲には何度か来ているが一度も宍道湖の夕日に出遇っていない。橋の上で待っていたのだが直前に雲が厚く籠めてきたので、諦めてホテルに戻った。後で聞いたところ平井美智子さんは遊覧船の上から見ることが出来たとか。どうやら私は宍道湖に敬遠されているようだ。

★11月8日、紅葉の始まった高野山で合祀祭に参列。「合祀祭風は師の声兄の声（蘭幸）」　（朱夏）

□先日の「川柳塔まつり」で、ロビー一角に故田中正坊さん（元編集長）の蔵書コーナーを設けました。好評で、百数十冊のほとんどを参加者に貰っていただき、正坊さんがにんまり笑っている顔が浮かびました。来年は、故塩満敏さん（参与）の蔵書約六百冊のうち、句集を中心に約三百冊をご披露したいと思います。

□故塩満敏さんの蔵書約600冊のうちわけは、古川柳120冊、句集300冊、合同句集50冊、その他130冊。年代物では、大正時代発行が11冊、『大正一萬句』や、木村半文銭の『川柳作法』。宮武外骨著書など。戦前では、昭和3年の麻生路郎師の『川柳漫画累卵の遊び』、昭和9年『當百類題名句集』など約50冊。戦後は、六大家をはじめ、川柳塔社歴代主幹の著作。岡田甫編『誹風柳多留』全集12巻。敏さんが好きだった時実新子著書30冊などが含まれております。　（勝弘）

ひとこと

川柳とエッセイのコラボ

川柳を始める前、私は私立図書館講座の「エッセイと日記を楽しむ会」に入会していた。二十人ほどが毎月数枚の原稿を持ち寄りホッチキスで綴じて冊子にする。そして銘々の原稿を音読し、感想を話し合うというものである。十年が経ち、先生が都合で辞められたので私も脱会した。その後川柳に嵌って今に続いている。

五年後、久しぶりにエッセイの会を覗くと会員は半減していた。私は会に復帰して川柳の楽しさを話していた。会員の高齢化で仲間が減っていく中、来春の図書館講座会員募集に「エッセイと川柳を楽しむ会」と名前を変えて募集をしてみようと思っている。

さて会員が増えるかどうか楽しみである。　（坂本　加代）

「川柳塔」への投句について

(1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。

(2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。

(3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。

(4) 各欄への投句数および**投句締切期日の厳守**をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにお願いいたします。

作品募集

2月号発表（12月15日締切）

川柳塔（8句） 小島蘭幸 選
水煙抄（8句） 川上大輪 選
愛染帖（2句） 新家完司 選
檸檬抄（2句） 「糸」（水野黒兎 共選）（鴨谷瑠美子 共選）
インスピレーション・ナビ（2句） 大西泰世 選
一路集（2句） 「鬼」吉岡修 選　「灰色」栃尾奏子 選
初歩教室 「たまご」（3句）高瀬霜石 担当

初歩教室「たまご」は3月号発表

本社12月句会

とき 12月6日(金) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間
天王寺区石ケ辻町19―12 電06・6772・1441
おはなし 「男と女のラブゲーム」 古今堂蕉子 氏
席題 「　」 伊達郁夫 選
兼題 「特別」 藤原ほのか 選
「店」 澤井敏治 選
「切る」 大内朝子 選
「少し」 江島谷勝弘 選
「未来」 小島蘭幸 選
（各題2句以内）
会費 1000円　**投句料** 500円（切手可）

本社1月句会

7日(火) 午後1時から
兼題「ほこほこ」「ピーク」「切ない」「養う」「最初」

3月号

檸檬抄「走る」
一路集「恋しい」「わざと」
初歩教室「ショック」

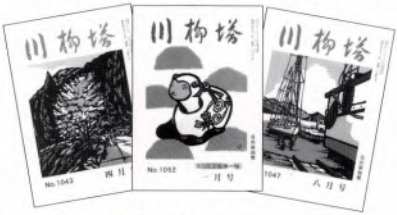
本社句会欠席投句のお薦め

＊幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
＊投句料は500円。または84円切手6枚。
＊句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

定価 八百円（送料100円）
半年分 五千円（送料共）
一年分 九千八百円（同）

二〇一九年（令和元年）十二月一日発行
発行人 小島和幸
編集人 木本朱夏
印刷所 美研アート
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―一四―一七 花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替 〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等
あなたの思いをかたちにします。



美研アート
〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL（06）4800―3018
FAX（06）4800―3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ https://www.bikenart.com
※事務所移転につき住所・電話番号が変わりました。

令和元年十二月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一一一号　川柳塔　十二月号
定価　八百円（送料　百円）

川柳募集

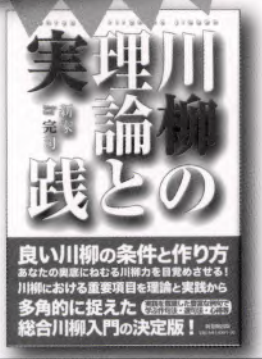
「ごま」にまつわる
あなたならではの
一句を募集します。

・兼題　「ごま」
・応募要領　川柳塔社主幹 小島蘭幸　選
郵便ハガキに2句、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記してください。
入選20句、準特選2句、特選1句に賞品。
・発表　本紙4月号にて発表いたします。
・締切り　2020年1月31日(当日消印有効)
・投句先　〒543-0052　大阪市天王寺区大道1丁目14番17号　花野ビル201号室
川柳塔社　ゴマ川柳係　宛

オニザキの
つきごま
手作りの味わいに
こだわり続けて
六十二年

株式会社 オニザキコーポレーションセールス
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング
TEL 0120-30-5050

お待たせいたしました！
第四刷出来！



川柳の理論と実践

新家完司・著

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。
お支払いは到着後で結構です。

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303　鳥取県東伯郡琴浦町徳万597　新家完司
326頁。送料＋消費税＝2,000円　FAX 0858-52-2449

雑誌 05703－12